**第八條**　旅費支給ニ關スル方法ハ市吏員旅費支給規程ヲ準用ス

旅　費　額　表

| 名稱 | 鐵道賃一哩ニ付 | 船賃一海里ニ付 | 車馬賃一里ニ付 | 宿泊料一夜ニ付 | 日當一日ニ付 |
|---|---|---|---|---|---|
| 市會議長、市會副議長、市會議員、名譽職市參事會員 | 拾錢 | 拾錢 | 壹圓五拾錢 | 拾五圓 | 拾圓 |
| 其他名譽職員 | 拾錢 | 拾錢 | 壹圓五拾錢 | 拾貳圓 | 八圓 |



## 市吏員以下賄料支給規程

改正　大正九年三月三日告示第十六號

明治二十二年度第十號議決

**第一條**　市吏員以下宿直又ハ夜業シタルトキハ左ノ賄料ヲ支給ス但シ市長助役收入役ハ此ノ限ニアラス

一、有給吏員（第二號以外ノ者）　一度　金貳拾錢

二、給仕使丁ノ類　一度　金拾六錢

**第二條**　宿直ノ節ハ二度分ヲ支給ス其翌日ニ至リ終日勤續スルモノハ一度分ヲ增給ス

**第三條**　夜業ノ節午後八時ヲ過クレハ一度分午後十二時ヲ過クレハ二度分徹夜ニ至ルモノハ三度分ヲ給ス

# 市吏員使丁給仕等賞與手當支給規程

明治二十三年度第十九號議決
大正元年八月退職及死亡給與金條例施行ト同時ニ本規程第三條以下自然消滅ス

**第一條**　助役以下有給吏員使丁給仕等ニシテ公務上特別勤勞アルモノニ對シ市參事會ハ每年末俸給豫算ノ剩餘ヲ以テ賞與ニ充ツルコトヲ得

**第二條**　助役以下有給吏員特別ノ事務ヲ負擔シ殊ニ勤勞アルモノハ前條ニ準シ臨時ニ賞與スルコトヲ得

**第三條**　有給吏員滿五年以上勤續シテ退職シタルトキハ退職現時ノ俸給半ケ月分ヲ一ケ年ニ宛テ在職年數ニ乘シ手當トシテ一時支給ス但シ本市退隱料條例第二條ニ揭クル一ニ該ルトキハ此限ニアラス

**第四條**　本市ニ編入セル町村ノ有給吏員ニシテ編入ノ當時引續キ本市ノ有給吏員ニ任用シタル者ノ前町村在職年數ハ本市在職年數ニ通算ス

**第五條**　市長以下有給吏員在職中死亡シタルトキハ手當トシテ其月給額三ケ月分ヲ遺族ニ支給ス但シ職務ノ爲メ死傷シタルモノアルトキハ其都度市會ノ議決ヲ經テ之ヲ支給ス

# 給料其他諸給與金ヲ受クヘキ者死亡シ遺族ナキ場合支拂ノ件

大正元年九月七日第一部長通牒

市吏員學校職員其他市費ノ支給ヲ受クヘキ者在職中死亡シ遺族ナキ場合ニ於テ市ヨリ當然支拂フヘキ給料其他ノ諸給與金ハ其親戚ノ者ニ支拂ヒ若シ親戚ナキ場合ニハ死者ノ葬儀ヲ施行シタル者ニ支拂フ、但シ支給規程ニ明文アルモノハ本文ニ據ル限ニ無之候

## 旅費請求書ニ宿所記載ノ件

大正二年九月六日
總第十三號

公務ニ依リ内國ヲ旅行シ宿泊シタルトキ之カ旅費請求書ニハ其宿所ノ家號若クハ氏名ヲ明細ニ記入スヘシ



## 市吏員以下給料支給規程ノ文意

大正三年四月十一日
發通牒

名古屋市吏員以下給料支給規程第三條ニ新任ノ者ハ「就職ノ當日ヨリ」トノ文意ナルニ付爾後本文適用ノ際ハ其意味ヲ以テ取扱相成度候

## 轉任轉職ノ場合ニ於ケル給料支給方ノ件

大正三年四月二十四日
達第十九號

本市吏員中雇、技術員、事務員竝之ニ準スヘキ者ニシテ書記又ハ之ニ相當スル職ニ任セラレタルトキ若クハ書記又ハ之ニ相當スル職ニ在ル者雇技術員事務員竝之ニ準スヘキ職ニ轉シタル場合ニ於テ其月給料支給算出方ハ名古屋市吏員以下給料支給規程第三條ニ準シ發令ノ當日迄ハ前職支給料其翌日ヨリハ後職ノ給料ヲ日割ヲ以テ支給スル儀ト心得ラルヘシ



市吏員以下給與支給ニ關スル文意

大正五年四月十一日



## 內國旅費規程

明治四十五年七月二十九日
告示第百五號

改正　大正二年五月十二日　告示第七十一號
大正二年七月十五日　告示第百一號
大正三年三月十二日　告示第二十五號
大正十一年三月二十八日　告示第五十號
大正十一年十月七日　告示第百四十四號

第一條　公務ニ依リ內國ヲ旅行スルトキハ本規程ニ依リ旅費ヲ支給ス

第二條　旅費ハ鐵道賃、船賃、車馬賃、日當、宿泊料ノ五種トシ別表ニ定ムル所ニ從ヒ順路ニ依リ之ヲ支給ス

朝鮮、臺灣、又ハ樺太ノ旅行ニ限リ市參事會ノ議決ヲ經テ旅費額ヲ增加スルコトヲ得

第三條　宿泊料ハ夜數ニ應シ日當ハ日數ニ應シ之ヲ支給ス

第四條　鐵道賃、船賃又ハ車馬賃ハ各其路程ヲ合算シテ之ヲ支給ス

合算上一哩一海里又ハ一里未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ切捨ツ

第五條　市用ノ船車馬等ニテ旅行スルトキハ本規程ノ鐵道賃、船賃、車馬賃ヲ支給セス

第六條　旅費支給ニ關シ旅行日數ハ出張地ニ於ケル滯在日數及途中已ムヲ得サル事由ノ爲メ要シタル日數ヲ除ク外鐵道旅行ハ二百哩水路旅行ハ百海里陸路旅行ハ十二里ニ付一日ノ割合ヲ以テ通算シタル日數ヲ超過スルコトヲ得ス但シ一日未滿ノ端數ハ之ヲ一日トス

第七條　旅行中私事ノ爲メ許可ヲ得テ迂路ヲ通過スルモ其旅費ハ順路ノ路程ニ應シテ支給ス

第八條　陸路六里未滿鐵道四十八哩未滿水路三十海里未滿ノ旅行ニシテ職務ノ都合ニ依リ宿泊シタル場合ヲ除ク外其支給スヘキ日當ハ定額ノ半額トス一旅行ニシテ陸路鐵道又ハ水路ニ亘ルトキハ鐵道ハ八哩水路ハ五海里ヲ以テ陸路一里ト看做シ前項ノ規定ヲ準用ス

第九條　年度ニ依リ旅費ヲ區分計算スルノ必要アル場合ニ於テ其區分判明ナラサルトキハ最近ノ到達地ニ着シタル日ヲ以テ其路程ヲ區分計算ス

第十條　新ニ就職スル爲メ赴任スル者ハ其職相當ノ等級ニ依リ旅費ヲ支給ス

官公吏若クハ官公立學校職員在職中ノ者ニシテ就職スル爲メ休職退官退職トナリタル者ニハ前項ノ外其前任地ヨリ本市ニ至ル鐵道賃、船賃及車馬賃ノ類ニ相當スル赴任手當ヲ支給ス

第十一條　旅行中休職、退職、解職ノ者ニハ本市ニ到ル前職相當ノ旅費ヲ支給ス但シ懲戒處分ニ依リテ解職シタル者ハ此限ニアラス

旅行中死亡シタル場合ニ於テハ前項ノ規定ニ準シ旅費ニ相當スル金額ヲ其遺族ニ支給ス

第十一條ノ二　事務引繼殘務取扱等ノ爲メ休職、退職、解職ノ者ニ旅行ヲ命スルトキハ前職相當ノ旅費ヲ支給ス

第十二條　特別ノ事情ニ依リ定額ノ鐵道賃、船賃又ハ車馬賃ヲ以テ其實費ヲ支辨シ難キ場合ニ於テハ實費額ヲ支給スルコトヲ得

第十二條ノ二　用務ノ都合ニ依リ旅費定額範圍内ニ於テ其總額ヲ定メ支給、又ハ全部支給セサルコトヲ得

第十三條　市内出張旅費ハ日當ノ半額以内ニ於テ市長ハ支給額竝其ノ方法ヲ定ムルコトヲ得市外ニシテ市ノ附近ニ出張シタル場合ノ旅費ニ付亦同シ

第十四條　市内ノ出張巡回ニシテ上司ノ隨行又ハ急遽ヲ要スルトキハ前條手當ノ外車馬賃ノ實費ヲ給スルコトヲ得

第十五條　囑託員ノ旅費ハ別表ニ依リ相當ノ等級ヲ定メ支給スルコトヲ得

## 旅費額表

| 等級 | 名稱區分 | 鐵道賃船一哩ニ付 | 車馬賃宿泊料一里ニ付 | 日當一夜ニ付 | 一日ニ付 |
|---|---|---|---|---|---|
| 一等 | 市長 | 拾錢 | 拾錢 | 拾錢 | 壹圓五拾錢 |
| 二等 | 助役、收入役、副收入役、局長 | 拾錢 | 拾錢 | 拾錢 | 壹圓五拾錢 |
| 三等 | 區長、主事、技師、視學、其他年俸者 | 八錢 | 八錢 | 壹圓 | 壹圓五拾錢 |
| 四等 | 月俸八拾圓以上ノ吏員 | 七錢 | 七錢 | 八拾錢 | 六圓 |
| 五等 | 月俸八拾圓未滿ノ吏員及雇員 | 六錢 | 六錢 | 七拾錢 | 五圓 |
| 六等 | 日給者及傭人ノ類 | 四錢 | 四錢 | 五拾錢 | 參圓 |

東京、京都、大阪、橫濱、神戸ノ五市ニ滯在スル場合ニ限リ本表宿泊料日當三割ヲ增給ス

## 内國旅費減額支給ノ件

大正十四年十一月十一日決裁

内國旅費規程第十二條ノ二ニ依リ大正十四年十二月一日ヨリ減額支給ノ旨決定相成候條依命及通牒候也

記

一、同一地ニ滯在十五日ヲ超ユルトキハ其ノ超過日數ニ對スル宿泊料及日當ハ定額ノ一割、三十日ヲ超ユルトキハ二割、四十五日ヲ超ユルトキハ三割、六十日ヲ超ユルトキハ四割ヲ減ス

二、同一地ニ滯在中一時他ノ地ニ旅行シタル場合ニ於テハ前項ノ期間ハ前後ノ日數ヲ通算シテ之ヲ定ム



## 外國旅費規則

明治四十五年度第二十八號議決

公務ニ依リ外國ニ旅行スル場合ノ旅費支給方法ハ明治二十年閣令第十二號外國旅費規則ヲ準用シ旅費支給額ハ市參事會ノ議決ヲ經テ市長之ヲ定ム

# 市内旅費規程

改正　大正九年八月二十五日　大正三年三月三十日　大正七年二月二日
達第四十八號　達第十號　達第三號
大正十一年十二月廿七日　大正十三年四月廿八日
達第五十九號　達第三十二號
大正四年九月二十日
達第十六號

**第一條**　内國旅費規程第十三條ニ依ル市内及市ノ附近ヘ出張ノ旅費額竝ニ其ノ支給方法ハ内國旅費規程ニ定ムルモノヽ外本規程ニ據ル

**第二條**　本規程ニ於テ市ノ附近ト稱スル地域左ノ如シ

一　愛知郡　下ノ一色町　天白村大字八事
二　海部郡　富田村大字前田
三　西春日井郡　西枇杷島町　庄内町　萩野村
四　東春日井郡　守山町大字守山
五　知多郡　有松町大字有松字往還北

**第三條**　市内又ハ市附近ニ出張スルトキハ等級ヲ設ケス左ノ手當ヲ支給ス

一　掃除監視吏員以外ノ吏員　六時間以上金四拾錢以上六時間ヲ增ス毎ニ金四拾錢ヲ增給ス
二　掃除監視吏員　十二時間以上金四拾錢以上六時間ヲ增ス毎ニ金四拾錢ヲ增給ス
三　給仕使丁　六時間以上金貳拾五錢以上六時間ヲ增ス毎ニ金貳拾五錢ヲ增給ス

**第四條**　出張巡回ヲ常務トスル者、派出所詰所等ニ勤務スル者（掃除監視吏員ヲ除ク）ハ前條ノ規程ニ依ラス別表ノ手當ヲ支給スルコトアルヘシ

**第五條**　月額手當ノ支給方法ハ左ノ各號ニ依ル





一　支給ハ總テ發令ノ日ヨリ始メ着クハ止ムルモノトス當月中ニ於ケル增減ハ翌月ヨリ之ヲ實行ス

二　一ケ月出張二十日ニ滿タサルトキハ日割計算トス

三　内國旅費規程ニ依リ旅費ヲ受クル日數ハ日割計算ヲ以テ其支給額ヲ控除ス

四　月額手當ノ日割計算ハ其月ノ日數ニ依ル但シ計算上生スル錢位未滿ノ端數ハ切捨トス

五　市用ノ船馬車ニ依リ出張スルトキハ定額ノ半額トス十錢ヲ端半トス二十錢ヲ一人前トス

**第六條**　月額手當ヲ受クル者夜間ニ亘リ出張執務シタル場合ハ左ノ手當ヲ增給ス

一　午後十時ヲ過クルトキ　金四拾錢
二　翌日午前二時ヲ過クルトキ　金八拾錢

別表

| 種別 | 年俸ヲ受クル吏員 | 書記 技手 | 水道檢査員 水道巡視員 | 工夫 職工 |
|---|---|---|---|---|
| 市ノ附近 | 月額貳拾五圓以内 | 拾八圓以内 | 拾圓以内 | 日額參拾錢以内 |
| 市内 | 同 | 拾五圓以内 | 拾貳圓以内 | 七圓以内 同 參拾錢以内 |

# 退隱料條例

大正元年九月七日條例第三號

改正　大正六年三月二十日條例第一號　大正七年三月十二日條例第二號　大正十年十一月五日條例第九號　大正十二年二月二十日條例第五號　大正十三年三月二十六日條例第二號

**第一條**　本市有給吏員ハ本條例ノ規定スル所ニ依リ退隱料ヲ受クルノ權利ヲ有ス

**第二條**　本條例ニ於テ市有給吏員ト稱スルハ區長及吏員定員規則ニ定メタル吏員市費支辨ニ係ル地方待遇職員令ニ依ル職員竝市會書記長及書記掃除監視吏員ヲ云フ

**第三條**　市有給吏員在職滿十年以上ニ至リ退職シタルトキ

メタル者ハ退職ト看做ス

左ノ各號ノ一ニ該ルトキハ退隱料ヲ支給セス

一、年齡六十年未滿ニシテ自己ノ便宜ニ依リ退職シタル者ニハ終身退隱料ヲ支給ス但シ廢廳廢職ノ爲メ職ヲ罷メタル者ニハ此ノ限ニ在ラス

二、懲戒ニ依リ解職セラレタルトキ

三、犯罪ノ爲メ免職セラレタルトキ

**第四條**　前條ノ退隱料年額ハ退職當時ノ給料ト在職年數トニ依リ左ノ方法ヲ以テ之ヲ定ム

在職滿十年以上十六年未滿ノ者ハ給料年額百五十分ノ五十ト シ滿十五年以上ハ滿一年毎ニ百二十分ノ一ヲ加ヘ十年ニ至リテ止ム

退隱料年額圓位未滿ノ端數ハ圓位ニ滿タシム

**第五條**　在職中公務ノ爲メ疾病又ハ傷痍ヲ受ケ不具廢疾トナリ其職ニ堪ヘスシテ退職シタル者ニハ在職年數ニ拘ハラス終身退職當時ノ給料年額百五十分ノ五十ニ相當スル退隱料ヲ支給ス

滿十年以上在職シタル者ニシテ前項ノ事由ニ依リ退職シタル時ハ第四條ノ規定ニ照準シタル退隱料年額ノ外十分ノ七以內ニ於テ增額支給ス

**第六條**　有給吏員ノ在職年數ハ就職ノ月ヨリ起算シ退職ノ月ヲ以テ終ルモノトス

前項ノ在職年數ハ一時退職ノ後再ヒ就職シタル者ニ在リテハ前後ノ年數ヲ通算ス但シ第三條第二項第一號乃至第三號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ以前ノ在職年數ヲ通算セス

**第七條**　本市ニ編入セラレタル町村ノ有給吏員ニシテ引續キ本市有給吏員ニ就職シタル者ノ其町村在職年數ハ本市ノ在職年數ニ通算ス

**第七條ノ二**　本市ハ編入セラレタル町村ノ有給吏員タリシ者ニシテ其町村ヨリ退隱料ヲ受クル者ニハ其ノ編入當時現ニ受クル退隱料ヲ支給ス

**第八條**　退隱料ヲ受クル權利ヲ有スル者再ヒ有給吏員ノ職ニ就キ在職滿一年以上ニシテ退隱シタルトキハ左ノ區分ニ依リ退隱料ヲ支給ス

一、退職現時ノ俸給前退職當時ノ俸給ヨリ少額ニシテ後ノ在職年數ヲ通算スルモ其退隱料額前ノ退隱料額ヨリ少キトキハ前ノ退隱料ヲ支給ス

二、退職現時ノ俸給前退職當時ノ俸給額以上ナルトキハ其前後ノ在職年數ヲ通算シ現時俸給額ニ依リテ退隱料ヲ支給ス

三、第五條第一項ニ依リ退隱料ヲ受ケタル者ニ在リテハ前後ヲ通算シテ滿十五年以上ニ至ラサレハ其年額ヲ增加セス

四、第五條第二項ニ依リ退隱料ヲ受ケタル者ニ在リテハ前ニ受ケタル增額ヲ加算支給ス

第九條　退隱料ヲ受クル權利ヲ有スル者左ノ各號ノ一ニ該ルトキハ退隱料ヲ受クル權利ヲ失フ

一、國民ノ分限ヲ失ヒタルトキ

二、六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

三、在職中ノ犯罪行爲ニ依リ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

第十條　退隱料ノ支給ハ退職ノ翌月ヨリ始マリ死亡ノ月又ハ權利喪失ノ前月ヲ以テ終ル

第十一條　退隱料ヲ受クル權利ヲ有スル者左ノ各號ノ一ニ該ルトキハ退隱料ノ支給ヲ停止ス

一、本市有給吏員ノ職務ニ就キ給料ヲ受クルトキ

二、禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキヨリ其刑ノ執行ヲ終ル迄ノ間

三、仝上刑ノ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ間

前項ノ停止ハ停止理由ノ生シタル月ヨリ其終リタル月迄トス

第十二條　退隱料ハ其年額ヲ四分シ四月、七月、十月、一月ニ於テ其前三ケ月分ヲ支給ス但シ權利喪失若クハ停止ノトキハ期月ニ拘ラス之ヲ支給ス

第十三條　退隱料ハ之ヲ受クヘキ事由ノ生シタル月ヨリ滿三ケ年以內ニ請求スルニ非サレハ權利ヲ拋棄シタルモノトス

第十四條　退隱料ハ賣買讓與質入ヲ爲スコトヲ得ス

附　則

第十五條　第六條ノ在職年數ハ改正市制施行前退職シタル者ニシテ左ノ各號ノ一ニ該ルトキハ尙其以前ノ在職年數ヲ通算セサルモノトス

一、懲戒裁判ニ依リ解職セラレタルトキ但シ自己ノ所爲ニ非スシテ職務ヲ執ルニ堪ヘサルカ爲メ解職セラレタル場合ハ此限ニ在ラス

二、隨時解職シ得ヘキ有給吏員ニシテ不都合ノ所爲アリタルカ爲メ解職セラレタルトキ

三、犯罪ニ依リ失職シタルトキ

四、職ニ就キタルカ爲メ公民タルノ權ヲ得ヘキ職務ニ在ル者ニシテ禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキ罪ノ爲メ公判ニ付セラレタルニ依リ辭職シタルトキ但シ後ニ免訴若クハ無罪ノ言渡シアリタル場合又ハ有罪ノ宣告アルモ禁錮以上ノ刑ニ該ラサル場合ハ此限ニ非ラス

第十六條　舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ本條例ノ適用ニ付テハ六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ト看做ス

舊刑法ノ禁錮以上ノ刑ハ本條例ノ適用ニ付テハ禁錮以上ノ刑ト看做ス

第十七條　本條例ニ於ケル在職年數ノ起算ハ明治二十三年三月以前ニ溯ルヲ得ス

第十八條　本條例施行ノ際現ニ從前ノ規程ニ依リ退隱料ヲ受ケ又ハ受クヘキ者ノ退隱料年額ハ其ノ年額算出ノ基礎ト爲リタル給料ノ大正九年八月三十一日以前ノ給料規定ニ依ルモノナルトキハ別表ノ區分ニ依リ增加シタル金額ヲ給料年額ト爲シ其ノ他ノ者ナルトキハ在職最終ノ給料年額ヲ以テ退隱料ノ年額ト更正ス

第十九條　本條例ハ大正十二年十月一日ヨリ之ヲ適用ス

第二十條　本條例施行ニ關シ必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

第二十一條　大正十年五月名古屋市條例第四號ハ之ヲ廢止ス

別表

| | | |
|---|---|---|
| 基礎給料年額 | 七百二十圓以上二千圓未滿ノモノ | 六百三十六圓以上七百二十圓未滿ノモノ |
| 增額給料年額 | 基礎年額ニ五割ニ相當スル金額ヲ加ヘタル額 | 基礎給料年額ト年額千八十圓トノ差額ヲ加ヘタル額 | 基礎年額ニ七割ニ相當スル金額ヲ加ヘタル額 |



# 退隱料條例施行細則

大正二年一月二十七日　告示第七號

改正　大正十年五月二十四日　告示第四十九號　大正十年十一月五日　告示第百六十二號　大正十三年四月十九日　告示第九十一號

**第一條**　本市退隱料條例ニ依リ退隱料ヲ受クヘキ權利ヲ取得シタル者ハ左ノ書類ヲ添付シ請求書ヲ差出スヘシ

一、在職中ノ履歷書

二、市區町村長ノ作リタル戶籍謄本

**第一條ノ二**　退隱料條例第七條第二項ノ規定ニ依リ退隱料ヲ受クル者ニハ其町村ヨリ交付シタル退隱料證書ヲ返納セシメ更ニ本市ノ退隱料證書ヲ交付ス

前項退隱料證書ノ交付ヲ受ケントスル者ハ左ノ書類ヲ添付シ請求書ヲ差出スヘシ

一、在職中ノ履歷書

二、戶籍謄本

三、現在ノ退隱料證書

**第二條**　退隱料條例第五條ノ規定ニ依リ退隱料ヲ受クヘキ者ハ前條添付書類ノ外左ノ書類ヲ以テ事實ヲ證明スヘシ

一、現認證書又ハ之ヲ證スヘキ公文ノ寫若クハ口供書

二、醫師ノ診斷書

**第三條**　退隱料條例第五條第二項ニ依ル增加退隱料ノ等差左ノ如シ

第二、兩眼ヲ盲シ若クハ二肢以上ヲ亡シタルトキ　十分ノ七
二、前號ニ準スヘキ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ　十分ノ六
三、一肢ヲ亡ヒ若クハ二肢ノ用ヲ失ヒタルトキ　十分ノ五
四、前號ニ準スヘキ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ　十分ノ四
五、一眼ヲ盲シ若クハ一肢ノ用ヲ失ヒタルトキ　十分ノ三
六、前號ニ準スヘキ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ　十分ノ二

傷痍疾病ノ等差ハ明治十八年太政官達第十六號文官傷痍疾病等差例ニ依ル

第四條　退隱料ノ請求アリタルトキハ市長ニ於テ查覈ノ上之ヲ受クルノ權利アルモノト認定シタルトキハ退隱料證書ヲ下付ス（別紙雛形）

第五條　退隱料ハ各支給期月ノ十日ニ之ヲ支拂フ但シ死亡若クハ權利喪失ノ場合ハ其事實ノ生シタル時支拂フモノトス

第六條　退隱料ヲ受領セムトスルトキハ退隱料證書ヲ提示シテ其權利ヲ證明スヘシ
退隱料ヲ受クル者他市町村ニ居住スルトキハ其地市區町村長ノ退隱料證書所持證明書ヲ以テ前項ノ提示ニ代フルコトヲ得

第七條　退隱料ヲ受クル者其居住地ヲ轉セタルトキハ十日以內ニ屆出ツヘシ

第八條　退隱料ヲ受クル者其支給ヲ停止セラルヘキ事由ノ生シタルトキハ本人又ハ家族ヨリ其事由ノ生シタル日ヨリ十日以內ニ屆出ツヘシ
前項停止ノ事由止ミタルトキハ其旨本人ヨリ屆出ツヘシ

第九條　退隱料ヲ受クル者死亡シタルトキハ十日以內ニ其遺族ヨリ屆出ツヘシ
退隱料ヲ受クル權利ヲ喪失シタルトキハ本人又ハ家族ヨリ其事由ヲ生シタル日ヨリ十日以內ニ屆出テ退隱料證書ヲ返納スヘシ

第十條　退隱料ヲ受クル者改氏名ヲ爲シタルトキハ屆書ニ市區町村長ノ作リタル戶籍謄本ヲ添付シ退隱料證書ノ訂正ヲ請フヘシ
前項ノ屆出アリタルトキハ退隱料證書ノ裏面ニ訂正ノ要旨ヲ記載シ捺印ノ上返付ス

第十一條　退隱料證書ヲ亡失シタル者ハ速ニ其旨屆出ツヘシ

第十二條　前條ノ屆出アリタルトキハ其事實ヲ調查シ正當ト認ムルトキハ退隱料證書ノ謄本ヲ下付ス
前項退隱料證書ノ謄本ハ退隱料證書ト同一ノ效力アルモノトス

第十三條　退隱料條例第十八條ニ依リ退隱料年額ヲ更正スル場合ハ更正退隱料證書ヲ交付ス
更正退隱料證書ヲ交付シタルトキハ舊證書ハ其效力ヲ失フ
更正退隱料證書ノ交付ヲ受ケタルトキハ舊證書ハ之ヲ返納スヘシ

## 退隱料證書雛形

（表　面）

第　號

# 退隱料證書

元名古屋市
氏　名
何年何月生

退隱料年額金

名古屋市退隱料條例ニ依リ前記ノ年金ヲ受クヘキコトヲ認メ此證書ヲ附與ス

大正何年何月何日

名古屋市長氏　名

（裏　面）

退隱料條例（摘錄）

第九條　退隱料ヲ受クル權利ヲ有スル者左ノ各號ノ一ニ該ルトキハ退隱料ヲ受クル權利ヲ失フ

一、國民ノ分限ヲ失ヒタルトキ

二、六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

三、在職中ノ犯罪行爲ニ依リ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ





（面）

第十條　退隱料ノ支給ハ退職ノ翌月ヨリ始マリ死亡ノ月又ハ權利喪失ノ前月ヲ以テ終ル

第十一條　退隱料ヲ受クル權利ヲ有スル者左ノ各號ノ一ニ該ルトキハ退隱料ノ支給ヲ停止ス

一、本市有給吏員ノ職務ニ就キ給料ヲ受クルトキ

二、禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキヨリ其ノ刑ノ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ間

三、同上刑ノ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ間

前項ノ停止ハ停止理由ノ生シタル月ヨリ其ノ終リタル月迄トス

第十二條　退隱料ハ其年額ヲ四分シ四月、七月、十月、一月ニ於テ其前三ヶ月分ヲ支給ス但シ權利喪失者ハ停止ノトキハ期月ニ拘ラス之ヲ支給ス

第十四條　退隱料ハ賣買讓與貸入ヲ爲スコトヲ得ス

退隱料條例施行細則（摘錄）

第五條　退隱料ハ各支給期月ノ十日ニ之ヲ支拂フ但シ死亡若クハ權利喪失ノ場合ハ其事實ノ生シタルトキ支拂フモノトス

第六條　退隱料ヲ受領セントスルトキハ退隱料證書ヲ提示シテ其權利ヲ證明スヘシ

退隱料ヲ受クル者他市町村ニ居住スルトキハ其地市區町村長ノ退隱料證書所持證明書ヲ以テ前項ノ提示ニ代フルコトヲ得

第七條　退隱料ヲ受クル者其居住地ヲ轉シタルトキハ十日以内ニ其道族ヨリ届出ツヘシ

第八條　退隱料ヲ受クル者其支給ヲ停止セラルヘキ事由ノ生シタルトキハ本人又ハ家族ヨリ其事由ノ生シタル日ヨリ十日以内ニ届出ツヘシ

前項停止ノ事由ニミタルトキハ其旨本人ヨリ届出ツヘシ

第九條　退隱料ヲ受クル者死亡シタルトキハ十日以内ニ其道族ヨリ届出ツヘシ

退隱料ヲ受クル權利ヲ喪失シタルトキハ本人又ハ家族ヨリ其事由ノ生シタル日ヨリ十日以内ニ届出テ退隱料證書ヲ返納スヘシ

第十條　退隱料ヲ受クル者改氏名ヲ爲シタルトキハ退隱料證書ノ裏面ニ訂正ヲ請フヘシ

前項ノ届出アリタルトキハ退隱料證書ニ市區町村長ノ作リタル戸籍謄本ヲ添付シ退隱料證書ノ訂正ヲ爲シタルトキハ届書ニ市區町村長ノ要旨ヲ記載シ捺印ノ上返付スヘシ

第十一條　退隱料證書ヲ亡失シタル者ハ速ニ其旨届出ツヘシ

# 退職及死亡給與金條例

大正元年八月七日　條例　第一號
改正　大正六年三月三十日　大正七年三月十二日　大正十二年三月十八日　大正十三年三月二十六日　條例　第一號　條例　第十號　條例　第六號　條例　第三號

第一條　本市有給吏員在職滿一年以上ニシテ退職シタルトキハ現給料年額十二分ノ一ヲ其ノ在職年數ニ乘シテ得タル金額ヲ一時ニ給與ス
廢廳廢職ノ爲メ職ヲ罷メタル者ハ退職ト看做ス

第二條　本條例ニ於テ市有給吏員ト稱スルハ區長及吏員定員規則ニ定メタル吏員、市費支辨ニ係ル地方待遇職員令ニ依ル職員竝市會書記長及書記掃除監視吏員ヲ云フ

第三條　前條ノ吏員職員ハ其ノ給料ノ百分ノ一ヲ市ニ納ムヘシ

第四條　市長助役收入役退職又ハ死亡シタルトキハ市會ノ議決ヲ經テ特ニ給與金額ヲ定ム
市有給吏員ニシテ重要ノ職ニ在リテ功績顯著ナル者退職又ハ死亡シタルトキハ前項ヲ準用スルコトヲ得

第五條　第一條ノ給與ヲ受ケタル者再ヒ就職シタルトキハ其再任ノ日ヨリ起算ス

第六條　市有給吏員ニシテ左記各號ノ一ニ該當スル者ハ退職給與金ヲ支給セス
一、年齡六十未滿ニシテ自己ノ便宜ニ依リ退職シタル者
二、懲戒ニ依リ解職セラレタル者
三、犯罪ノ爲メ免職セラレタル者
四、退隱料ヲ受クルニ至リタル者

第七條　本市有給吏員在職中死亡シタルトキハ左ノ金額ヲ其ノ遺族ニ給與ス

一、在職七年未滿及遺族扶助料ヲ受クルニ至リタル者ハ現給料年額ノ二分ノ一
二、在職七年以上十年未滿ノ者ハ現給料年額十二分ノ一ニ在職年數ヲ乘シテ得タル金額

第八條　在職年數ハ就職ノ月ヨリ起算シ退職ノ月ヲ以テ終ルモノトス但シ一年未滿ノ端數ハ之ヲ切捨ツ
本市ニ編入シタル町村ノ有給吏員ニシテ引續キ市有給吏員ニ就職シタル者ノ元町村在職年數ハ本市ノ在職年數ニ通算ス

第九條　本條例施行ノ際現ニ在職ノ者ハ其ノ就職ノ月ヨリ起算ス

附　則

第十條　明治四十四年十月一日以後退職又ハ死亡シタル者ニ對シテハ本條例ヲ適用ス

第十一條　本條例ハ大正十二年十月一日ヨリ之ヲ適用ス

# 遺族扶助料條例

明治四十五年七月二十五日　條例第七號
改正　大正六年三月三十日　條例第三號　大正七年三月十二日　條例第四號　大正十三年三月二十六日　條例第四號

**第一條**　本市有給吏員左ノ各號ノ一ニ該ルトキハ本條例ノ規定ニ依リ其遺族ニ一時扶助料ヲ給ス

一、公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ在職中死亡シタルトキ

二、退隱料ヲ受ク可キ年數ニ達シタル者ニシテ在職中死亡シタルトキ

三、退隱料ヲ受クル者死亡シタルトキ

扶助料ハ前項第一號ノ場合ニアリテハ本市退隱料條例第五條第八條ニ依リ査定シタル金額ノ三ケ年分トシ第二號ノ場合ニアリテハ仝條例第四條第八條ニ依リ査定シタル金額ノ二ケ年分トシ第三號ノ場合ニアリテハ其退隱料年額二ケ年分トス

公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ退職シタル後滿一年以內ニ其傷痍疾病ニ起因シテ死亡シタルトキハ第一號ノ場合ニ準ス

**第二條**　扶助料ハ寡婦ニ給ス寡婦ナキトキハ子ニ給ス數子間ニ在リテハ法定家督相續人ニ給シ戶主ニ非サルモノ、子ニ在リテハ長子ニ給ス

**第三條**　扶助料ヲ受クヘキ寡婦及子ナキトキハ直系尊屬ニ給ス

前項ノ場合ニ在リテハ父ニ給シ父ナキトキハ祖父ニ祖父ナキトキハ祖母ニ給シ順次此例ニ依ル

**第四條**　本條例ニ於テ市有給吏員ト稱スルハ區長及吏員定員規則ニ定メタル吏員市費支辨ニ係ル地方待遇職員令ニ依ル職員竝市會書記長及書記掃除監視吏員ヲ云フ

寡婦、子、尊屬ト稱スルハ市有給吏員タリシモノ死亡ノ當時ヨリ引續キ其家ニ在ル者ヲ云フ

# 遺族扶助料條例施行細則

大正二年二月八日　告示第十二號

**第一條**　本市遺族扶助料條例（以下單ニ條例ト記ス）第一條第一項第一號又ハ第二號ニ當ル者アリタルトキ若クハ同條第三項ニ當ル者ノ遺族ヨリ請求アリタルトキハ死亡者ノ履歷書ヲ其遺族ニ下付スヘシ遺族ハ之ヲ以テ扶助料請求ノ證トスヘシ

**第二條**　條例第一條第一項第三號ニ當ル者ノ遺族ハ其退隱料證書ヲ以テ扶助料請求ノ證トスヘシ

**第三條**　條例第一條第一項第一號及同條第三項ニ當ル者アリタルトキハ本市ニ於テ事實ヲ査覈シ其傷痍若クハ疾病ノ公務ニ起因シタル證據トナルヘキ書類及醫師ニ診察ヲ爲サシメタル場合ニ於テハ其診斷書ヲ併セテ遺族ニ下付ス遺族ハ之ヲ以テ扶助料請求ノ證トスヘシ

**第四條**　扶助料ヲ受ケムトスル者ハ戶籍吏ノ作リタル戶籍謄本及第一條乃至第三條ニ揭クル書類ヲ添ヘ市長ニ請求スヘシ

**第五條**　扶助料ノ請求アリタルトキハ市長ニ於テ査覈ノ上之ヲ受クヘキ者ニ對シ扶助料證書ヲ下付ス

**第六條**　扶助料ノ拂渡ヲ受ケムトスル者ハ扶助料證書ヲ當市收入役ニ提示スヘシ

# 守衛以下給與品及貸與品規則

改正　大正四年三月十六日　告示第二十九號
改正　大正七年三月二十九日　告示第三十八號
大正三年五月二十一日　告示第六十八號
大正七年十二月二十六日　告示第百二十六號

第一條　守衛、監視、門衛、運轉手、給仕ニハ左ノ物品ヲ給與スルコトヲ得
帽（日覆付）　冬服、夏服、短靴
守衛、監視、門衛及運轉手ニハ別ニ外套ヲ給與スルコトヲ得
第二條　守衛、監視、門衛及運轉手ニハ左ノ物品ヲ貸與ス
帽章、襟章
第三條　觀覽券發賣人ニハ左ノ物品ヲ給與ス
袴、作業服
前項ノ給與品ハ何レカ其ノ一方ニ止ムルコトヲ得
第四條　使丁ニハ左ノ物品ヲ給與ス
帽（日覆付）　袢纏、股引
第五條　園丁及常傭人夫ニハ左ノ物品ヲ給與スルコトヲ得
袢纏、雨具、帽（日覆付）　被笠
第六條　畜養人ニハ左ノ物品ヲ給與ス
袢纏、雨具、帽（日覆付）　被笠、襯衣、靴
第七條　給與品ハ現品ヲ以テ支給シ其ノ品種、員數、保存期限支給期日及方法ハ市長之ヲ定ム
第八條　給與品ノ修補ハ總テ自辨トス
過失ニ因リ貸與品ヲ毀損シ若クハ紛失シタルトキハ其ノ代料ヲ辨償セシム





# 水道檢查員、水道巡視被服給與規則竝守衛以下給與品及貸與品規則施行細則

改正　大正五年一月十二日　達第二一號
大正七年三月三十日　達第十三號
大正三年五月二十七日　達第二十三號
大正十年六月六日　達第二十一號
大正十二年三月十七日　達第十四號

第一條　水道檢查員、水道巡視、守衛、監視、運轉手、給仕、使丁、園丁、畜傭人及常傭人夫ノ給與品員數及保存期限ハ別表ノ通トス但シ支給上ノ都合ニ依リ保存期限ヲ伸縮スルコトアルヘシ
第二條　給與品ハ新任者ハ新任ノ際保存滿期ノトキハ滿期ノ際新品ヲ給ス
第三條　新任者ニハ保存期限未了ノ返納品ヲ給與シ其保存期限ヲ繼續セシムルコトアルヘシ但シ代料ヲ以テ支給スル給與品ハ此限ニアラス
第四條　保存期限未了ノ給與品ハ轉免死亡等ノ場合ハ之ヲ返納セシム
第五條　貸與品ヲ毀損又ハ亡失シタルトキハ之ヲ賠償セシム但シ職務ノ爲メ避クヘカラサル障害ニ起因シタルモノハ此限ニアラス
第六條　新任者ニハ其初年ニ限リ夏服及夏冬襯衣各二着ヲ給與スルコトヲ得
第七條　代料ヲ以テ支給スル物品ノ價格ハ每年度之ヲ定ム
第八條　私費ヲ以テ給與品ト同一ノモノヲ調製使用スルコトヲ妨ケス
第九條　給與品ノ修繕ハ各自辨トス

| 給與品目 | 員數 | 保存期限 |
|---|---|---|
| 帽 | 壹個 | 一ケ年 |
| 冬服 | 壹着 | 二着用ニ月數ケ月 |
| 夏服 | 壹着 | 一着用四ケ月 |
| 袷衣 | 壹着 | 一着用六ケ月 |
| 袴 | 壹着 | 一着用八ケ月 |
| 雨合羽 | 壹個 | 一ケ年 |
| 傘 | 壹個 | 一ケ年 |
| 股引 | 壹個 | 一ケ年 |
| 單袢纏 | 壹枚 | 一着用月數ケ月 |
| 袷袢纏 | 壹枚 | 一着用月數八ケ月 |
| 脚袢 | 壹組 | 一ケ年 |
| 靴 | 壹足 | 一ケ年 |
| 外套雨覆付 | 壹着 | 三ケ年 |
| 夏服 | 壹着 | 一着用月數四ケ月 |
| 冬服 | 壹着 | 二着用月數ケ月 |

| 保存期限 | 給與品目 | 員數 | 給與品目 | 員數 |
|---|---|---|---|---|
| 一ケ年 | 帽 | 壹個 | 冬服 | 壹着 |
| 一ケ年 | 袷衣 | 壹着 | 夏服 | 壹着 |
| 一ケ年 | 袴 | 壹着 | 雨合羽 | 壹個 |
| 一ケ年 | 傘 | 壹個 | 股引 | 壹個 |
| 一ケ年 | 脚袢 | 壹組 | 單袢纏 | 壹枚 |
| 一ケ年 | 靴 | 壹足 | 袷袢纏 | 壹枚 |
| 三ケ年 | 外套雨覆付 | 壹着 | 夏服 | 壹着 |
| 四ケ年 | 冬服 | 壹着 | 袷衣 | 壹着 |
| 五ケ年 | 夏服 | 壹着 | 袴 | 壹着 |
| 水道検査員ニハ保存期間ヲ一ケ年ト為スヘシ | 外套雨覆付 | 壹着 | 靴 | 壹足 |
| 自動車ノ運轉手及給仕ハ保存期間ヲ一ケ年ト為スヘシ | 帽 | 壹個 | 脚袢 | 壹組 |



## 事務員技術員臨時雇等ニ市内旅費及賄料支給ノ件

大正三年四月十七日決裁

特別經濟道路改修、小學校建築費、公園設備等ニ從事スル事務員、技術員、臨時雇等ニシテ職務ノ性質上出張巡回ヲ常務トスル者ニ對シテハ市内旅費規程第五條ヲ準用シ月額手當ヲ支給ス其支給額ハ水道檢查員、水道巡視、雇員ニ準ス

市内旅費規程第六條ノ夜勤增手當及市吏員以下賄料支給規程第一條ノ賄料ハ前記職員ニモ書記技手同樣支給スヘキコトニ決定相成候

## 吏員出張ノ際電車利用ノ件

明治四十一年十月一日訓示第四號

吏員急速ノ要務ヲ負ヒ市内出張ノ爲メ乘車ヲ要スルトキ電氣鐵道沿道ヘ出張若クハ其附近經過ノ場合ハ努メテ電車ヲ利用シ左ノ手續ニ依リ乘車切符ノ交付ヲ受クヘシ

一　吏員急行出張ノ爲メ電車ニ乘車スル場合ハ出張命令簿ニ依リ相當手續ヲ經テ乘車切符ノ交付ヲ受クヘシ

一　乘車切符ノ交付ハ秘書課ニ於テ取扱ヒ其受拂ハ明確ニ記載シ置クモノトス

## 徽章貸與內規

明治四十一年五月十日市參事會決裁

第一條　本市吏員竝名譽職市參事會員ノ制服ニ用ユル帽章襟章袖章ハ凡テ貸與スルモノトス

第二條　徽章ハ轉免又ハ死亡シタルトキハ之ヲ返納スルモノトス

第三條　故意又ハ過失ニヨリ徽章ヲ毀損又ハ滅失シタルトキハ其實價ヲ賠償スルモノトス

## 兼職吏員手當支給規程

大正六年十二月十二日告示第百五十九號

第一條　市吏員中兼職ノ者ニハ該當給料豫算ノ範圍内ニ於テ相當ノ手當ヲ支給スルコトヲ得

第二條　手當支給方法ハ市吏員給料支給規程ヲ準用ス



## 雇傭人扶助規程

大正八年三月二十九日告示第三十四號
改正　大正十三年三月二十六日告示第六十四號
大正十四年十一月二十一日告示第百三十七號

第一條　本市雇傭人ニシテ死亡、退職若クハ職務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルトキハ本規程ニ依リ扶助金若クハ退職金ヲ支給ス

第二條　本規程ニ於テ雇傭人ト稱スルハ雇員使丁給仕職工工夫等ニシテ雇傭ノ際辭令ヲ用ヒタル者ヲ云フ

第三條　扶助金ハ療治料休養扶助料障害扶助料遺族扶助料ノ四種トス

第四條　療治料ハ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ療養ヲ要スル者ニ診察料、手術料、藥價入院料等ノ實費ヲ全治又ハ死亡退職ノ日迄支給ス

本市ノ施設ニ係ル治療所ニ於テ無料ニテ治療シタルトキハ前項ノ費用ヲ支給シタルモノト看做ス

第五條　休養扶助料ハ療養ノ爲メ職務ニ服スルコト能ハサルニ因リ給料ヲ受ケサル者ニ休養中ノ給料額ニ相當スル額ヲ支給ス

第六條　障害扶助料ハ傷痍若クハ疾病治癒ニ至ラス又ハ廢篤疾トナリ退職セシメタル者ニ現給月額二十ケ月分以内ニ於テ市長之ヲ定メ支給ス

第七條　遺族扶助料ハ死亡シタル者ノ遺族ニ左ノ區別ニ依リ支給ス

一、在職一年以上ニシテ死亡シタルトキハ現給月額ニ分ノ一ニ在職年數ヲ乘シテ得タル金額但シ月額六ケ月分ヲ超ユルコトヲ得ス

二、在職中職務ニ基因シテ死亡シタル者ハ現給月額二十ケ月分以内ニ於テ市長之ヲ定メ支給ス

第八條　市ハ療治料ヲ受クル者ニ對シ診療ノ醫師又ハ病院ヲ指定スルコトアルヘシ

前項ノ指定ニ從ハサルトキハ療治料ヲ支給セス

第九條　療治料及休養扶助料ハ毎月一回之ヲ支給ス

前項以外ノ扶助金ハ一時ニ之ヲ支給ス

第十條　遺族扶助料ノ支給ヲ受クヘキ者ニ關シテハ遺族扶助料條例第二條第三條及第四條第二項ノ規定ヲ準用ス

第十一條　退職金ハ在職五年以上ニシテ退職シタル者ニ現給月額二分ノ一ニ在職年數ヲ乘シタル金額ヲ一時ニ支給ス但シ月額六ケ月分ヲ超ユルコトヲ得ス

前項ノ退職金ハ障害扶助料ノ支給ヲ妨ケス

第十二條　左記各號ノ一ニ該當スル場合ハ扶助金又ハ退職金ヲ支給セス

一、別ニ支給規定アルトキ

二、傷痍又ハ死亡ノ原因カ自己ノ重大ナル過失ニ因ルモノト認メタルトキ

三、不都合ノ所爲アリテ退職セシメタルトキ

第十三條　支給金計算ニ關シ日給者ノ給料月額ハ三十日分トス亦圓位未滿ノ端數ハ之ヲ圓位ニ滿タシム

第十四條　在職年數ハ就職ノ月ヨリ起算シ退職死亡ノ月ヲ以テ終ルモノトス但シ一年未滿ノ端數ハ切捨トス

退職金ヲ受ケタル者再ヒ就職シタルトキノ在職年數ハ其再就職ノ月ヨリ起算ス

市ニ編入セラレタル町村ノ雇傭人ニシテ引續キ本市雇傭人ニ就職シタル者ノ其町村在職年數ハ本市ノ在職年數ニ通算ス



明治二十三年以前ノ在職年數ハ之ヲ算入セス

第十五條　第六條第七條及第十一條ノ規定ハ電氣局所屬雇員使丁及給仕ニ之ヲ適用セス

第十六條　本規程ハ大正十二年十月一日ヨリ之ヲ適用ス

附　則　（大正十四年十一月二十一日告示第百三十七號）

本規程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本規程施行ノ際電氣局所屬ノ雇員使丁給仕ニシテ在職一年以上ノ者ニハ退職金トシテ現給月額二分ノ一ニ在職年數ヲ乘シ得タル金額ヲ退職ノ際一時ニ之ヲ支給ス但シ不都合ノ所爲アリテ解雇セラレタルトキハ此限ニ在ラス

# 旅費支拂命令伺等ノ儀會計課ニ於テ調理ノ件

大正元年八月十三日
依命通牒

旅費支拂命令伺ノ儀從來各課ニ於テ取扱來リ候處右ハ自今會計課ニ於テ調理スルコトニ決定相成候ニ付各課ニ於テ支拂ヲ受クル正當領收者ヨリ提出シタル書面ハ當該課長査閲ノ上欄外ニ捺印シ會計課ヘ送附候樣御取計可相成候

# 第五類

# 教育

# 教育効績者表彰規程

大正二年五月十二日
告示第七十號

**第一條**　本市ノ教育ニ關シ効績顯著ナリト認ムル者ハ市長之ヲ表彰ス

**第二條**　表彰ハ表彰狀竝金品ヲ贈與シテ之ヲ行ヒ市公報ヲ以テ之ヲ公示ス

**第三條**　死亡者ニシテ第一條ニ該當スルモノハ本規程ヲ適用スルコトヲ得

**附　則**

明治四十四年名古屋市告示第十四號ハ施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

# 視學職務規程

明治四十五年三月一日
達第五號

第一條　視學ハ上司ノ命ヲ承ケ學事ノ視察ニ從事ス

第二條　視學ノ視察スヘキ事項概目左ノ如シ

一、市立學校及幼稚園職員勤務ノ狀況

二、教授管理及訓練ニ關スル事項

三、市立學校及幼稚園ノ設備ニ關スル事項

市費補助ニ係ル學校幼稚園及其他教育事業ニ關シ前項ヲ準用ス

第三條　視學ハ特ニ上司ノ命ヲ承ケテ左ノ事項ニ關スル事務ニ從事ス

一、市立學校學則改正ニ關スル事項

二、市立學校學級編制竝教科目ノ加除ニ關スル事項

三、市立學校及幼稚園ノ特種ナル設備ニ關スル事項

四、市立學校及幼稚園職員ノ任免賞罰ニ關スル事項

五、市立學校教員年功加俸ニ關スル事項

第四條　視學ハ視察ノ際左ノ事項ニ關シ當事者ニ意見ヲ陳述シ又ハ注意ヲ與ヘ其改善ヲ促スコトヲ得

一、法令及上司ノ訓示ニ牴觸スル事項

二、教授管理及訓練ニ關スル事項

第五條　視學ハ視察簿ヲ備ヘ視察シタル個所日時其他必要ナル事項ヲ記入シ時々上司ノ閲覽ニ供シ且其狀況ニ關シ意見ヲ具シテ復命スヘシ



# 學務委員規程

明治三十五年五月二十日
市參事會議決

改正　大正三年八月三日
告示　第九十五號

第一條　學務委員ノ數ハ六名トス其組織左ノ如シ

一　市會議員　二名

一　市公民中選擧權ヲ有スル者　二名

一　市立小學校男教員　二名

第二條　市立小學校教員ヨリ任用シタル委員ノ任期ハ四ケ年トス但シ補缺ニ依リ就任シタル者ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

# 市立小學校々醫服務細則

明治四十年四月一日市參事會議決

第一條　學校醫ハ法律命令ニ從ヒ學校衞生ニ關スル職務ニ從事スルモノトス

第二條　學校醫ハ小學校令施行規則第二十七條ニ定ムル休業日ノ外ハ每日始業時刻前ニ出勤シ終業時刻迄服務スヘシ

第三條　學校醫ハ學年ノ始メニ於テ擔任學校出勤日割ヲ定メ學校長ヲ經由シテ管理者ニ届出ツヘシ

第四條　學校醫ハ法令ノ定ムル所ノ外各學期末ニ於テ擔任學校ノ衞生上ニ關スル統計表ヲ調製シテ管理者ニ報告スヘシ

第五條　學校醫疾病ノ爲メ缺勤シ又ハ父母ノ祭日ニ當リ出勤セサルトキハ始業時刻前學校長ヲ經由シテ管理者ニ届出ツヘシ

疾病ノ爲メ缺勤十日ニ及フトキハ十日每ニ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ學校長ヲ經由シテ管理者ニ届出ツヘシ

第六條　學校醫冡參、轉地療養等ノ爲メ旅行又ハ缺勤セントスルトキハ學校長ヲ經テ管理者ノ認可ヲ受クヘシ

第七條　學校醫ノ忌引ハ學校長ヲ經テ管理者ニ届出ツヘシ

第八條　學校醫陸海軍ノ現役ニ服シ又ハ召集ヲ受ケタルトキハ學校長ヲ經テ管理者ニ届出ツヘシ



# 小學校教員特別給與規程

明治三十七年度第五十九號議決

第一條　本市立小學校在職正教員ニシテ職務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルニ由リ休職ヲ命セラレタル者ハ休職期間內每月休職當時ノ俸給月額四分ノ一以內ヲ支給ス但シ支給金額ハ其都度市長ニ於テ之ヲ定ム

第二條　本市立小學校在職准教員ニシテ本市ノ薦擧ヲ得本縣師範學校甲種講習科ニ入學シ休職ヲ命セラレタル者ハ其入學期間內每月金二圓ヲ支給ス

第三條　本市立小學校在職正教員ニシテ戰時若クハ事變ニ際シ陸海軍ニ召集セラレタルカ爲メ休職トナリタル者陸軍又ハ海軍ヨリ受クル俸給又ハ給料ノ額（戰時增俸又ハ增給額ヲ除ク）休職トナリタル當時ノ俸給額ヨリ寡少ナルトキハ每月不足額ノ三分ノ一ヲ支給ス

准教員代用教員ニシテ前項事由ニヨリ退職トナリタル者應召當時陸軍又ハ海軍ヨリ受クル俸給又ハ給料額（戰時增俸又ハ增給額ヲ除ク）退職當時ノ俸給額ヨリ寡少ナルトキハ其際准教員ハ月俸一ケ月分代用教員ハ月俸半ケ月分ヲ支給ス

## 附　則

第四條　本規程ハ明治三十八年四月一日ヨリ施行ス但シ第三條ノ規程ハ本規程施行以前ニ於テ既ニ召集セラレタルカ爲メ休職又ハ退職トナリタル者ニモ準用ス

## 市立學校々醫年手當金支給内規

明治四十年八月十二日市參事會議決

第一條　名古屋市立各學校校醫ノ年手當ハ其金額十二分ノ一ヲ毎月職員俸給支給日ニ於テ之ヲ支給ス

第二條　新任者ノ手當若クハ支給增減ノ際ハ總テ發令ノ翌日ヨリ日割ヲ以テ之ヲ支給ス

第三條　退職者ハ發令當日ヲ限リ日割ヲ以テ支給シ在職中死亡ノトキハ其月分全額ヲ給ス

第四條　退職ノ者事務引繼殘務整理ノ爲メ執務スルトキハ其間尙從前ノ手當支給額ヲ日割ニテ支給ス

第五條　私事ノ故障ニ依リ（父母ノ祭日忌引及定期休暇ヲ除ク）執務セサルコト二十日ヲ超ユルトキハ其以後手當ヲ支給セス

第六條　病氣ノ爲メ缺勤日數（父母ノ祭日忌引及定期休暇ヲ除ク）六十日ヲ超ユルトキハ其以後日割ヲ以テ手當支給額ヲ半減シ二百二十日ヲ超ユルトキハ全ク支給セス但シ職務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルモノハ此ノ限ニアラス

第七條　前條私事ノ故障ト病氣ト連續スル場合ニ於テハ之ヲ通算セス

第八條　手當支給上日割計算ヲ要スルトキハ年手當額十二分ノ一ノ月額ニ給與スヘキ日數ヲ乘シ其月ノ現日數ヲ以テ除ス但シ支給上錢位未滿ノ端數ハ切捨トス

附　則

第九條　商業學校高等女學校其他併合ニ係ル元熱田町及小碓村ノ各學校醫等ニハ當分ノ内適用セス

## 學校幼稚園職員使丁賞與ニ關スル件

明治四十一年度第七十號議決

學校幼稚園ノ職員並使丁ノ賞與及慰勞手當ハ俸給ノ殘額ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

## 高等小學校書記死亡ノ節給料支給方ノ件

明治三十七年十一月市參事會議決

本市高等小學校書記ニシテ轉退職ノモノハ其月俸給ハ日割計算ヲ以テ支給候處爾來在職中死亡ノモノニ限リ其月分ハ全額ヲ支給ス

## 小學校教員住宅料支給規程

大正七年五月二十八日告示第六十八號

第一條　本市小學校盲啞學校教員及幼稚園保姆ニ住宅料ヲ支給ス

第二條　住宅料ハ學校長ニ月額金四圓教員及保姆ニ月額貳圓ヲ支給ス但シ專任者ニ限ルモノトス

第三條　住宅料ハ每月其俸給ト共ニ之ヲ支給ス

第四條　住宅料ハ退職休職若クハ死亡ノ場合ハ其月分ヲ支給シ其他ノ場合ハ日割ヲ以テ之ヲ支給ス

附　則

第五條　本規程ハ大正七年六月一日ヨリ施行ス

## 小學校職員住宅貸與規程

大正十一年三月二十二日
告示第四十六號

第一條　本市小學校職員住宅ハ市長ノ選定スル小學校職員ニ限リ之ヲ貸與ス

第二條　貸貸料ハ一ケ月一戸ニ付金六圓以上金參拾五圓以下ノ範圍内ニ於テ市長之ヲ定ム

第三條　前二條ニ定ムルモノノ、外市設住宅貸與規程竝ニ施行細則ヲ準用ス

附　則

本規程ハ公布ノ日ヨリ施行ス

## 名古屋市高等、尋常小學校簿册保存規程

大正二年十二月二十七日
訓示第七號

第一條　本市高等、尋常小學校簿册及保存文書ハ各學校ニ於テ一ケ年毎ニ之ヲ類別シ處分完結ノ順序ニ從ヒ編纂シ所定ノ式ニ依リ整理保存スヘシ重要文書ノ編纂ハ其册首ニ索引ヲ附スヘシ

第二條　簿册及文書ノ保存期限ハ左ノ三種トス

第一種　永　年

第二種　八十年

第三種　二　年

第三條　保存簿册ノ種別左ノ如シ

第一種

學校沿革史　學校規程　學籍簿
身體檢查簿　身體檢查統計表　卒業證書臺帳
授賞人名簿　敎授細目　修業證書臺帳
經費仕拂口譯簿　職員履歷書　職員出席簿
其他右ニ準スヘキモノ

第二種

成績考查簿　操行考查簿　個性調查簿
兒童出席調查簿　敎材研究錄　敎授法研究錄

經費伺及指令綴　學校醫視察簿　兒童出席簿　教授週錄　備品出納計算書綴
授業科調査表　學級日誌　看護日誌　宿直日誌　宿直通知簿　職員諸届書綴
其他右ニ準スヘキモノ　第二三種　衛生人日誌　家庭連絡書類綴　往復文書綴　文書發送簿　一時限リ命達書類綴
教授案　消耗品受渡簿　缺席兒童督促簿　經費明細表綴　職員勤怠報告綴
月末報告綴　學對日誌　學對一覽表　學籍簿
其他右ニ準スヘキモノ

第四條　簿冊保存ノ計算ハ處分完了ノ年ヨリ起算ス但シ會計年度ニ屬スルモノハ決算完了ノ年度ヨリ起算スヘシ

第五條　保存期限經過ノ簿冊ハ每年物品出納主任ヘ引繼クヘシ

## 小學校授業料徴收規程

改正　大正九年五月二十八日　告示第六十六號　大正十年八月十九日　告示第百三十七號　大正七年三月五日　告示第二十五號　大正十一年三月六日　告示第二十五號　大正十五年三月二十九日　告示第三十三號

第一條　小學校授業科ハ左ノ通リ每月之ヲ徴收スヘシ

一、高等小學校一ヶ月金六十錢

第二條　休業全月ニ渉ルトキハ其月ノ授業料ヲ徴收セス又一ヶ月中休業十五日以上ニ渉リタルトキハ其月ノ授業料ヲ半減ス但シ夏期休業兩月ニ渉ルトキハ其休業日數ノ多キ月ノ授業料ヲ徴收セス

第三條　兒童ノ疾病其他止ムヲ得サル事故アリテ出席セサル事全月ニ及フトキハ其月ノ授業料ヲ免除ス

第四條　小學校令第三十八條ニ依リ出席ヲ停止シタル兒童ノ授業料ハ第三條ノ例ニ準ス

附　則

第五條　本規程ハ大正七年四月一日ヨリ施行ス

## 高等小學校授業料免除ニ關スル件

明治三十八年度第四十六號議決

左ニ揭クル各號ノ一ニ該當スルモノニシテ貧困ノ爲メ本市立高等小學校ノ授業料ヲ納ムルコト能ハサルトキハ其同籍内ニアル子及弟妹ニ限リ之レカ授業料ヲ免除ス

一、戰地ニ於ケル勤務ニ起因シテ軍人恩給法第九條第十四條ニ該當スル者

二、戰地ニ於ケル勤務ニ起因シテ官吏恩給法第三條ニ該當スル者

三、戰地ニ於テ傷痍ヲ受ケ疾病ニ罹リ明治二十七年勅令第百六十四號ニ依リ手當金ヲ受クル者

四、戰時公務ニ依リ從軍中ニ在ル者

## 市立工藝學校授業料徵收規程

大正六年五月二十三日告示第七十八號

**第一條**　病氣又ハ事故ニヨリ缺席若クハ登校停止全月ニ渉ルモ在籍中ハ授業料ヲ納入セシム

**第二條**　休業全月ニ渉ルトキハ其月ノ授業料ヲ徵收セス

**第三條**　補缺ニヨリ入學スルモノニシテ十五日以後ナルトキハ其月ノ授業料ヲ半減ス



東亞同文書院學生費徵收規程

# 東亞同文書院準公費生推薦規程

**第一條**　市長ハ在上海東亞同文書院準公費生ヲ毎年二名試驗ノ上選拔推薦ス

**第二條**　準公費生ハ左ノ資格ヲ具備スル者タルヘシ

一、本市在籍ノ男子ニシテ留學中家事ニ係累ナク募集ノ時年齡滿二十五年以下ノ者

二、官立府縣中學校若クハ文部大臣ニ於テ之ト同等以上ト認定セラレタル中學校又ハ商業學校ヲ卒業シタル者

三、志操確實品行方正ニシテ教員檢定ニ關スル身體檢查規定ニ準シ合格者

**第三條**　準公費生志願者ハ第一號書式推薦願書ニ左ノ書類ヲ添ヘ差出スヘシ

一、卒業成績證明書

二、身體檢查書（第二號書式）

三、財產證明書（動產不動產及納稅額ニ付區長ノ證明セシモノ）

四、戶籍謄本

**第四條**　準公費生ノ推薦ヲ受ケタルトキハ第三號書式ノ誓約書ヲ差出スヘシ

**第五條**　保証人ハ現ニ本市內ニ住居シ成年以上ニシテ一家計ヲ立ツルモノトス

**第六條**　保證人死亡シ又ハ他ノ事故ニヨリ其資格ヲ失ヒタルトキハ更ニ保證人ヲ定メ誓約書ヲ差出スヘシ

**第七條**　學資ハ東亞同文書院章程第五十二條ニ依ル納付期日五日前ニ爲替證書トシ市長ヘ差出スヘシ

**第八條**　學生ノ渡航及歸朝旅費ノ納入方ハ本人若クハ保證人ヨリ直接東亞同文會本部ヘ發送スヘシ



第一號書式（用紙美濃紙）

入學推薦願

私儀今般東亞同文會設立在支那上海東亞同文書院（商務、政治）科ヘ入學志願仕候間御詮議ノ上準公費生トシテ御推薦被成下度學業履歷書學校卒業成績表財產證明書等相添此段願上候也

年　月　日

原籍地
現住地　　族籍身績
本人　氏　　名　㊞　　生年月日

原籍地
現住地　　族籍職業
保證人　氏　　名　㊞

名古屋市長宛

第二號書式（用紙美濃紙）

身體檢查書

族籍

氏　　名

生年月日

一、體　格

一、身　長
一、體　重
一、胸　圍
一、中心視力
　　色　盲
　　眼　疾
一、聽　力
　　耳　疾
一、呼吸器
一、神經系
一、皮　膚
一、言　語
一、既往現在ノ疾病又ハ畸形

右檢查候處相違無之候也

年　月　日

檢　查　醫　師　何　某　㊞
住　所
檢　查　醫　師



第三號書式（用紙美濃紙）

誓　約　書

㊞
收入印紙

私儀在上海東亞同文書院準公費生トシテ御推薦ノ上ハ中途退學不致ハ勿論在學中ハ固ク御規定ノ旨ヲ遵守シ誓ヲ違背致間敷仍テ誓約候也

原籍地
現住地　族籍　身績
氏　名　㊞

名古屋市長　宛

右誓約ニ係ル事件ハ勿論學資等ノ納入ニ關シテハ私共ニ於テ一切引受可申仍テ保證候也

原籍地
現住地　族籍　職業
正保證人　氏　名　㊞

原籍地
現住地　族籍　職業
副保證人　氏　名　㊞

## 高等女學校實業學校盲啞學校授業料免除ニ關スル件

大正十五年三月二十九日
告示第二十九號

名古屋市立高等女學校實業學校盲啞學校ノ生徒中左ニ揭クル各號ノ一ニ該當シ其同籍內ノモノニ對シテハ大正十五年四月一日ヨリ授業料ヲ免除スルコトヲ得

一、戰役ニ從軍シタル爲メ戰死又ハ病死シタル軍人ノ實子又ハ養嗣子

一、戰役ニ從軍シタル爲メ不具廢疾トナリタル軍人ノ實子又ハ養嗣子





## 兒童就學奬勵規程

大正十四年十月二十七日
告示第百二十五號

第一條　貧困ノ爲メ就學義務ヲ果スコト困難ナル兒童ノ就學奬勵ニ關シテハ本規程ニ據ル

第二條　貧困兒童ニ對シテハ就學奬勵ノ爲メ敎科書及學用品等ヲ給與ス

第三條　區長ハ每年度其區內ニ於ケル其年四月ニ入學スル兒童及在學兒童ニ就キ其ノ保護者ノ事情ヲ調査シ三月末日迄ニ又就學期間中ニ在ル貧困兒童ニシテ來住シタルモノニ就テハ其ノ都度調書ヲ作成スヘシ

第四條　區長ハ前條ニ依リ調査シタル事項ヲ左記樣式ニ依リ每年四月十日限リ意見ヲ附シ市長ニ報告スヘシ
但シ就學期間中來住シタル者ニ對シテハ其都度報告スヘシ

第五條　市長ハ前條ノ報告ニ基キ其必要アリト認メタル者ニ對シ第二條ノ物品ヲ給與ス

附　則

本規程ハ大正十四年四月一日ヨリ之ヲ適用ス

貧困兒童調

（本書ハ兒童每ニ別記トス）

| 通學學校 | |
|---|---|
| 入學年月日 | |
| 兒童氏名 | |
| 生年月日 | |
| 保護者職業 | |
| 生活ノ程度 | |
| 家庭ノ情態 | |
| 其他參考トナル事項 | |

| 保護者住所 | |
|---|---|
| 同　氏名 | |
| 同　生年月日 | |
| 兒童トノ關係 | |

# 市立高等女學校學則

大正十五年三月十五日改正
仝　四月一日施行

## 第一章　修業年限、學科ノ程度及毎週教授時數

第一條　修業年限ハ五ケ年トス

第二條　學科目ハ修身、國語、英語、歴史、地理、數學、理科、法制經濟、圖畫、家事、裁縫、音樂、體操トス

生徒身體ノ狀況ニヨリ學習スルコト能ハスト認ムル學科目ハ之ヲ其生徒ニ課セサルコトアルヘシ

第三條　學科ノ程度及其毎週教授時數ハ別表ニ據ル但シ教授時數ハ夏期休業前後通シテ三週間以内毎週十八時マテヲ減縮スルコトアルヘシ

第四條　生徒ノ志望ニヨリ前條ノ教授時數以外ニ於テ茶道、挿花ヲ授ク

## 第二章　學期及休業日

第五條　學期ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一學期　四月一日ヨリ八月三十一日ニ至ル
第二學期　九月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル
第三學期　翌年一月一日ヨリ三月三十一日ニ至ル

第六條　休業日ヲ定ムルコト左ノ如シ

日曜日
祝日、大祭日
皇后陛下御誕辰
東照宮祭日
創立紀念日
熱田神宮祭日
夏期　七月二十一日ヨリ八月三十一日マテ
冬期　十二月二十五日ヨリ翌年一月七日マテ
學年末　三月二十五日ヨリ三月三十一日マテ

## 第三章　入學、退學及保證人

第七條　第一學年ニ入學ヲ許スヘキモノハ尋常小學校ヲ卒業シタルモノ若クハ年齢十二歳以上ニシテ尋常小學校卒業ノ程度ニヨリ其學力ヲ檢定シタルモノトス前項後段ノ檢定ハ國語、算術、日本歴史、地理、理科ニ就キ試驗ヲ行フ

第八條　入學志願者ノ數募集人員ニ超過スルトキハ國語、算術ニ就キ尋常小學校ノ程度ニヨリ選拔試驗ヲ行フ

第九條　入學志願者ハ第二號書式ノ入學願書ヲ差出スヘシ

第十條　入學ヲ許可セラレタルモノハ一週間以内ニ保證人ヲ定メ第三號書式ノ誓約書及戸籍謄本ヲ差出スヘシ

第十一條　保證人ハ父母尊族トシ父母尊族事故アルトキ若クハ遠隔ノ地ニ居住スルトキハ學校附近ニ於テ一家計ヲ立ツル成年以上ノ戸主ヲ以テ保證人代理者トスヘシ

前項ノ保證人又ハ保證人代理者ヲ不適當ト認ムルトキハ之ヲ變更セシムルコトアルヘシ

第十二條　保證人又ハ保證人代理者ハ住所氏名若クハ印章ヲ變更シタルトキハ直ニ届出ツヘシ

第十三條　已ムヲ得サル事情アリテ他ノ學校ヘ轉學シ若クハ退學セントスルモノハ其事由ヲ詳記シ保證人連署ヲ以テ願出ツヘシ

第十四條　病氣又ハ事故ニヨリ缺席セントスルトキハ保證人ヨリ其事由ヲ記シテ届出ツヘシ

第十五條　左ノ各項ノ一ニ該當スルモノハ退學ヲ命ス

一　性行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタルモノ

二　成業ノ見込ナシト認メタルモノ

三　出席常ナラサルモノ

四　正當ノ事由ナクシテ引續キ一ケ月以上缺席シタルモノ

## 第四章　成績考査

第十六條　各學年ノ課程ノ修了又ハ卒業ヲ認ムルニハ其學年間ニ於ケル操行及學業ノ成績ヲ考査シテ之ヲ定ム

第十七條　學期成績ハ一學期間ノ成績ヲ考査シ學年成績ハ各學期ノ成績ヲ考査シテ之ヲ定ム

第十八條　再入學ヲ許シタル者ノ退學前ニ係ル成績ハ其學年相當ノ成績トシテ充用スルモノトス轉學ヲ許シタルモノノ前學校ニ於ケル成績モ亦同シ



第十九條　全科ヲ卒ヘタルモノニハ第一號書式ノ卒業證書ヲ授與ス

## 第五章　授業料及入學試驗料

第二十條　授業料ハ一人一ケ月金三圓五十錢トス但シ特別ノ事情アルモノニ對シテハ授業料ヲ減免スルコトアルヘシ

第二十一條　授業料ハ毎月十日マテニ納ムヘシ但シ一月ハ二十日マテトス

第二十二條　學校ノ休業全月ニ及フトキハ其月ノ授業料ヲ徴收セス

第二十三條　病氣又ハ事故ニヨリ缺席若クハ登校停止全月ニ亘ルモ在籍中ハ授業料ヲ納ムヘシ

第二十四條　入學志願者ハ入學試驗料トシテ金貳圓ヲ入學願書ニ添ヘ前納スヘシ但シ既納ノ入學試驗料ハ何等ノ事由アルモ返附セス

## 第六章　褒賞懲戒

第二十五條　生徒中他ノ模範トナルモノハ之ヲ表彰ス

第二十六條　教育上必要ト認メタル生徒ニハ懲戒ヲ加フ懲戒ハ譴責、退學ノ二種トナス

## 第七章　附　則

第二十七條　本則施行ニ關スル細則ハ學校長之ヲ定ム

第二十八條　本則ハ大正十五年四月一日ヨリ施行ス

第二十八條ノ二　名古屋市立第一高等女學校名古屋市立第二高等女學校及名古屋市立第三高等女學校各學則ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

（第一號書式）

## 卒業證書

氏名　生年月日

右者本校（修業年限五ケ年）ノ課程ヲ卒業セリ仍テ之レヲ證ス

年　月　日

學校長位勳爵　氏名　㊞

番號

（第二號書式）　（用紙罫半紙）

## 入學願

原籍　族籍
現住所　職業戶主何某何女（或ハ姉妹）

氏名　生年月日

一、何年何月何學校ニ入リ何月何科卒業又ハ（何科何學年）修了
一、何年何月何々ノ件ニ付賞若クハ罰ヲ受ケ

右御校第一學年ニ入學志願仕候也

年　月　日　住所　右氏名

父兄（後見人）名　㊞

學校長氏名殿

（第三號書式）　（用紙罫半紙）

消印　㊞　印紙　收入

## 誓約書

私儀今般御許可ヲ得御校ヘ入學致候就テハ御規則堅ク相守リ勤學仕ルヘク依テ誓約仕候也

原籍……族籍
現住所……
（職業戶主某何女或ハ姉妹）

年　月　日　氏名

右某御校在學中ハ御規則堅ク遵守致サスヘキハ勿論同人ニ係ル一切ノ件ハ拙者ニ於テ引受可申候依テ保證仕候也

原籍……族籍
現住所……

年　月　日　保證人　氏名　㊞　生年月日

學校長　氏名　殿

備考　保證人ノ代理者ハ保證人ノ次ニ連署スヘシ





## 課程表

| | 第一學年 毎週時數 | 第二學年 毎週時數 | 第三學年 毎週時數 | 第四學年 毎週時數 | 第五學年 毎週時數 |
|---|---|---|---|---|---|
| 修身 | 二 生徒心得、道德ノ要領、作法 | 二 教育ニ關スル勅語、道德ノ要領、作法 | 二 戊申詔書、道德ノ要領、作法 | 一 道德ノ要領、我國道德ノ特質 | 一 全 |
| 國語 | 六 講讀、作文、習字 | 六 全 | 七 講讀、作文法、作文、習字 | 五 講讀、作文、習字 | 五 全 |
| 英語 | 三 發音、綴字、讀方、譯解、話方、書取、作文、習字 | 三 全 | 三 全 | 三 全 | 三 全 |
| 歷史地理 | 三 日本歷史地理 | 三 日本歷史地理 | 二 外國歷史（東洋諸國）、外國地理 | 二 外國歷史（西洋諸國）地理概況 | 二 日本歷史（現代ノ一班）地理補習 |
| 數學 | 三 算術 | 三 全 | 三 代數 | 三 全 | 三 幾何、日用算 |
| 理科 | 二 植物、動物 | 二 動物、生理、衛生 | 三 鑛物化學 | 三 化學物理 | 三 物理 |
| 法制經濟 | — | — | — | — | 一 法制經濟大意 |
| 圖畫 | 一 寫生畫、臨畫、考按畫 | 一 全 | 一 全 | 一 全 | — |
| 家事 | — | — | — | — | 一 育兒及家庭教育、養老看護、家事、經濟、割烹 |
| 裁縫 | 四 運針、縫方、裁方、ミシン用法 | 四 全 | 四 全 | 四 全 | 四 全 |
| 音樂 | 二 樂典、基本教練、歌曲 | 二 全 | 一 全 | 一 全 | 一 全 |
| 體操 | 三 體操遊戲 | 三 全 | 三 全 | 三 全 | 三 全 |
| 計 | 二九 | 二九 | 二九 | 二九 | 二九 |

# 市立工藝學校學則

大正六年二月二十日

改正　大正十年三月二十二日
　　大正十二年一月三日

## 第一章　總則

第一條　本校ハ工業學校規程ニ依リ工藝ニ從事セントスル者ニ須要ナル教育ヲ施スヲ以テ目的トシ特ニ德性ノ涵養ニ力ムルモノトス

第二條　學科ヲ分チテ木工科、圖案科、金工科トス

圖案科ハ工藝圖案及建築圖案ノ二分科トシ志望ニ依リテ其ノ一ヲ修メシム

金工科ハ板金及裝身具ノ二分科トシ志望ニ依リテ其ノ一ヲ修メシム

第三條　修學年限ハ五箇年トス

第四條　生徒定員ハ二百二十五名トス

## 第二章　學科課程

第五條　學科目ヲ分ツコト左ノ如シ

木工科　修身、國語、英語、數學、物理、化學、地理、歷史、博物、法制及經濟、體操、圖畫、製圖、圖案法、工藝史、機械大意、材料工作法及實習。

圖案科　修身、國語、英語、數學、物理、化學、地理、歷史、博物、法制及經濟、體操、圖畫、圖案法、工藝史、建築學、實習。

金工科　修身、國語、英語、數學、物理、化學、地理、歷史、博物、法制及經濟、體操、圖畫、圖案、圖案法、工藝史、機械大意、材料工作法及實習。

第六條　學科課程左ノ如シ

## 第三章　學年、學期、休業日

第七條　學年ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第八條　學年ヲ分チテ左ノ三學期トス

第一學期　四月一日ヨリ八月三十一日ニ至ル

第二學期　九月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル

第三學期　一月一日ヨリ三月三十一日ニ至ル

第九條　休業日左ノ如シ

大祭祝日　日曜日、本校創立記念日（五月十五日）

春季休業　三月二十一日ヨリ三月三十一日ニ至ル

夏季休業　七月二十一日ヨリ八月三十一日ニ至ル

冬季休業　十二月二十五日ヨリ翌年一月七日ニ至ル

## 第四章　入學、在學、休學、退學

第十條　入學ハ學年ノ始トシ其ノ員數期日等ハ豫メ之ヲ告示ス

第十一條　入學セントスル者ハ操行善良身體强健ニシテ將來工藝ニ從事セントスル年齡滿十二年以上十六年未滿ノ男子タルヘシ

第十二條　第一學年入學志願者ハ尋常小學校ヲ卒業シタル者又ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有シテ學齡ヲ脫シタ

ル者タルヘシ

第十三條　第一學年入學志願者ノ數入學ヲ許可スヘキ人員ニ超過シタルトキハ國語、算術、圖畫ニ就キ尋常小學校卒業ノ程度ニ依リ選拔試驗ヲ行フ

第十四條　相當ノ年齡ニ達シ他ノ學校ニ於テ前各學年ノ課程ト同程度ト認ムヘキ課程ヲ卒リタル者又ハ試驗ニ依リ相當ノ學力アリト認メタル者ハ第二學年以上ニ入學ヲ許スコトアルヘシ

第十五條　他ノ工業學校生徒ニシテ轉學ヲ志望スル者アルトキハ詮議ノ上相當學年ニ編入スルコトアルヘシ

第十六條　入學志願者ハ第一號書式ニ依ル入學願書ニ第三十五條ノ入學試驗料ヲ添ヘ願出ツヘシ

第十七條　入學ノ許可ヲ得タル者ハ十日以內ニ保證人ヲ定メ誓約書（第二號書式）並ニ戶籍抄本ヲ差出スヘシ

第十八條　保證人ハ入學者ノ父母其ノ他ノ尊族親又ハ之ニ代リテ監督ノ責ニ任スヘキ者二人トシ內一人ハ本市又ハ接續町村ニ居住シ獨立ノ生計ヲ營ム者タルヘシ

保證人死亡其ノ他ノ事故ニ因リ保證人タルヘキ責任ヲ盡スコト能ハサルトキハ更ニ保證人ヲ定メテ誓約書ヲ差出スヘシ

第十九條　學校長ニ於テ保證人ヲ不適當ト認ムルトキハ其ノ變更ヲ命スルコトアルヘシ

第二十條　生徒又ハ保證人ニシテ轉籍轉居改氏名又ハ改印シタルトキハ直ニ屆出ツヘシ

第二十一條　病氣其ノ他ノ事故ニ因リ缺席遲刻又ハ缺課シタル者ハ速ニ保證人連署ヲ以テ屆出ツヘシ

第二十二條　病氣ノ爲メ引續缺席三箇月以上ニ亘ル者ニハ其ノ學年中休學ヲ命スルコトアルヘシ

休學ヲ爲サントスル者ハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ保證人連署ヲ以テ願出ツヘシ

第二十三條　退學セントスル者ハ其事由ヲ具シ保證人連署ヲ以テ願出ツヘシ



第二十四條　學校長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ト認メタルトキハ退學ヲ命ス

一、性行不良ニシテ改善ノ見込ナキ者

二、學業技術不進ニシテ成業ノ見込ナキ者

三、正當ノ事由ナクシテ引續キ一ケ月以上缺席シタル者

四、出席常ナラサル者又ハ特ニ退學ヲ必要ト認メタル者

## 第五章　賞罰

第二十五條　操行善良學業技術優等ナル者ニハ褒賞ヲ授與スルコトアルヘシ

第二十六條　學校長ハ教育上必要ト認メタルトキハ生徒ニ對シテ左ノ懲戒ヲ加フ

一、戒飭　二、謹愼　三、停學　四、放校

第二十七條　校有物ヲ毀損又ハ亡失シタルトキハ現品若クハ金員ヲ以テ之ヲ賠償セシムルコトアルヘク尙其ノ情狀ニ依リテハ懲戒スルコトアルヘシ

## 第六章　試驗及卒業

第二十八條　各學年課程ノ修了又ハ全學年ノ卒業ヲ認定スルニハ平素ノ操行、學業技術及試驗ノ成績ヲ考査シテ之ヲ定ム

第二十九條　試驗ハ學期試驗及學年試驗トシ各學科目ニ就キテ之ヲ行フ但シ學科目ノ種類ニ依リテハ試驗ヲ行ハサルコトヲ得

第三十條　學期試驗ハ第一學期第二學期末ニ行ヒ學年試驗ハ學年末ニ行フ

第三十一條　成績ノ考查ハ百點ヲ以テ滿點トシ各學科目總評點ヲ平均シテ六十點以上各學科目四十點以上ニ達シタルモノヲ以テ合格トス

第三十二條　全學科ヲ卒業セリト認ムル者ニハ卒業證書（第三號書式）ヲ授與ス

第七章　授業料、入學試驗料

第三十三條　授業料ハ一箇月參圓五拾錢トス指定ノ日ニ納付スヘシ但シ學校ノ休業全月ニ亘ルトキハ其ノ月ノ授業料ヲ徵收セス

第三十四條　病氣又ハ事故ニヨリ缺席若クハ登校停止全月ニ亘ルモ在籍中ハ授業料ヲ徵收ス但シ休學者ハ休學ノ翌月ヨリ休學期間授業料ヲ徵收セス

第三十五條　入學志願者ハ入學試驗料トシテ金壹圓ヲ入學願書ニ添ヘ差出スヘシ但シ既納ノ入學試驗料ハ何等ノ理由アルモ返附セス

第八章　研究生

第三十六條　本校ヲ卒業シタル後更ニ進ンテ研究又ハ補習セントスル者ハ研究生トシテ在學セシムルコトアルヘシ

第九章　別科

第三十七條　本校ノ學科目中技術ニ關スル一科目若クハ數科目ヲ修メントスル者ノ爲ニ別科ヲ置ク

第三十八條　別科修業年限ハ三箇年以內トシ生徒定員及學科目ハ募集ノ都度之ヲ告示ス

第三十九條　別科ニ入學シ得ル者ハ年齡滿十二年以上ノ男子ニシテ尋常小學校ヲ卒業シタル者又ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者タルヘシ

第四十條　別科ヲ修了シタル者ニハ修了證書（第四號書式）ヲ授與ス

第十章　附則

第四十一條　研究生及別科生ニ對シテハ特ニ規定セルモノ、外本科ノ規定ヲ準用ス

第四十二條　本則施行上必要ナル細則ハ學校長之ヲ定ム

第四十三條　本則ハ大正十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス





書式

第一號書式

入學願書

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 志望科 | 科（分科）別科 | 本科第　學年 | 第二志望 | 科（分科） | |
| 入學志願者 | 本籍 | 縣　番地 | 親權者又ハ後見人 | 本籍 | 縣　番地 |
| | 現住所 | 縣　番地 | | 現住所 | 縣　番地 |
| | 族稱 | 何某何男一弟（養子） | | 族稱 | 入學志願者トノ關係 |
| 氏名 | | 年　月　日生 | 氏名 | | 年　月　日生 |

私儀前記ノ通御校へ入學致度候間此段相願候也

年　月　日

本人　氏　名　㊞
親權者又ハ後見人　氏　名　㊞

名古屋市立工藝學校長　殿

| 學業成績證明 | 學校卒業ノ見込 | 學校第　學年修業ノ見込 |
|---|---|---|
| | 大正　年　月　業 | 大正　年　月　業 |
| | 第　學年 | 第　學期 |
| | 修身 | |
| | 國語 | |
| | 算術 | |
| | 日本歷史 | |
| | 地理 | |
| | 理科 | |
| | 圖畫 | |
| | 唱歌 | |
| | 體操 | |
| | 手工 | |
| | 平均 | |
| | 操行 | |
| | 席次 | 賞罰 |
| | 人中 | 番 |

右證明候也

年　月　日

學校長　氏　名　㊞

（科　）號番驗受

参錢收
人印紙

## 誓約書

私儀御校へ入學許可相成候ニ就テハ御規則堅ク相守リ命令敎訓ニ遵ヒ勉勵可致候仍テ誓約書差出候也

本籍　縣　番地
現住所　縣　番地
族稱職業何某何男（又ハ弟）
氏名　㊞
年月日生

前書之通相違無之候ニ付在學中本人ノ授業料其ノ他本人ニ係ル一切ノ事件ハ保證人ニ於テ引受可申候仍テ誓約書如斯候也

本籍　縣　番地
現住所　縣　番地
族稱職業（父母又ハ後見人）
保證人　氏名　㊞
年月日生

年　月　日

本籍　縣　番地
現住所　縣　番地
族稱職業
保證人　氏名　㊞
年月日生

名古屋市立工藝學校長　殿

前記保證人何某ハ當區（町村）內ニ於テ獨立ノ生計ヲ營ム者ニ相違無之候也

年　月　日　名古屋市何區長（又ハ何郡何町村長）　氏名　㊞



## 卒業證書

氏
年月日生　名

校印

右者本校所定ノ何科課程ヲ卒業セリ仍テ茲ニ之ヲ證ス

年　月　日

名古屋市立工藝學校長位勳爵　氏　名　㊞

（割印）番號



## 修了證書

氏
年月日生　名

校印

右者本校別科ニ於テ何箇年間何科ノ課程ヲ修了セリ仍テ茲ニ之ヲ證ス

年　月　日

名古屋市立工藝學校長位勳爵　氏　名　㊞

（割印）番號

## 木工科課程表

| 學科目 | 每週時數 第一學年 | 每週時數 第二學年 | 每週時數 第三學年 | 每週時數 第四學年 | 每週時數 第五學年 |
|---|---|---|---|---|---|
| 修身 | 一 人倫道德ノ要旨 | 一 同 上 | 一 同 上 | 一 同 上 | 一 同 上 |
| 國語 | 五 講讀、作文 | 五 同 上 | 三 同 上 | 二 講讀 | 二 講讀 |
| 英語 | 四 講讀、文法作文、習字 | 四 同 上 | 三 講讀、文法作文 | 三 講讀 | 二 講讀 |
| 數學 | 四 算術 | 四 代數 | 三 代數平面幾何 | 二 立體幾何三角法 | |
| 物理 | | | 二 物理 | | |
| 化學 | | | 二 化學 | | |
| 地理 | 二 日本地理 | 二 外國地理 | | | |
| 歷史 | 二 日本歷史 | 二 外國歷史 | | | |
| 博物 | 二 植物、動物 | 二 生理、鑛物 | | | |
| 法制及經濟 | | | | 二 法制經濟ノ大要 | |
| 體操 | 三 體操、教練 | 三 同 上 | | | |
| 圖案法 | | | | | |
| 工藝史 | | | 一 工藝史大要 | | |
| 製圖 | | | | | |
| 機械大意 | | | 一 機械大意 | | |
| 材料工作法及實習 | 一〇 材料工作法家具組立 | 一〇 材料工作法家具組立 | 一七 材料工作法家具組立 | 一七 材料工作法家具組工 | 材料工作法、家具組立、塗工、木象嵌 |
| 圖 | 六 自在畫 | 六 自在畫用器畫 | 四 自在畫 | 二 自在畫 | |
| 圖 | | | 三 家具製圖 | 四 同 上 | 四 同 上 |
| 圖 | | | 一 一般圖案法 | | |
| 合計 | 三九 | 三九 | 三九 | 三九 | 三九 |





## 圖案科課程表

| 學科目 | 每週時數 第一學年 | 每週時數 第二學年 | 每週時數 第三學年 | 每週時數 第四學年 | 每週時數 第五學年 |
|---|---|---|---|---|---|
| 修身 | 一 人倫道德ノ要旨 | 一 同 上 | 一 同 上 | 一 同 上 | 一 同 上 |
| 國語 | 五 講讀、作文 | 五 同 上 | 三 同 上 | 二 講讀 | 二 講讀 |
| 英語 | 四 講讀、文法作文、習字 | 四 同 上 | 三 講讀、文法作文 | 三 講讀 | 二 講讀 |
| 數學 | 四 算術 | 四 代數 | 三 代數、平面幾何 | 二 立體幾何三角法 | |
| 物理 | | | 二 物理 | | |
| 化學 | | | 二 化學 | | |
| 地理 | 二 日本地理 | 二 外國地理 | | | |
| 歷史 | 二 日本歷史 | 二 外國歷史 | | | |
| 博物 | 二 植物、動物 | 二 生理、鑛物 | | | |
| 法制及經濟 | | | | 二 法制經濟ノ大要 | |
| 體操 | 三 體操、教練 | 三 同 上 | | | |
| 圖案法 | | | | | |
| 工藝史 | | | 一 工藝史大要 | | |
| 製圖 | | | | | |
| 機械大意 | | | 一 機械大意 | | |
| 材料及實習 | 一〇 材料工作法家具組立 | 一〇 材料工作法家具組立 | 一七 材料工作法家具組立 | 一七 材料工作法家具組工 | 材料工作法、家具組立、塗工、木象嵌 |
| 圖 | 六 自在畫 | 六 自在畫用器畫 | 四 自在畫 | 二 自在畫 | |
| 圖 | | | 三 家具製圖 | 四 同 上 | 四 同 上 |
| 圖 | | | 一 一般圖案法 | | |
| 合計 | 三九 | 三九 | 三九 | 三九 | 三九 |

## 金工科課程表

| 學科目 | 每週時數 第一學年 | 每週時數 第二學年 | 每週時數 第三學年 | 每週時數 第四學年 | 每週時數 第五學年 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 修身 | 一 人倫道德ノ要旨 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 三九 |
| 國語 | 五 講讀、作文 | 同上 | 三 同上 | 三 講讀 | | |
| 英語 | 四 講讀、文法作文、習字 | 同上 | 三 講文法、作文 | 三 同上 | 二 講讀 | |
| 數學 | 四 算術 | 四 代數 | 三 代數平面幾何 | 三 同上 | 二 立體幾何三角法 | |
| 物理 | | | 二 物理 | 二 同上 | | |
| 化學 | | | | 二 化學 | 二 同上 | |
| 地理 | 二 日本地理 | 二 外國地理 | | | | |
| 歷史 | 二 日本歷史 | 二 外國歷史 | | | | |
| 博物 | 二 植物、動物 | 二 生物、鑛物 | | | | |
| 法制及經濟 | | | | | 二 法制經濟ノ大要 | |
| 體操 | 三 體操、教練 | 三 同上 | 二 同上 | 二 同上 | | |
| 圖畫 | 六 自在畫 用器畫 | 四 自在畫 | 二 圖案 | 三 同上 | 四 同上 | |
| 圖案 | | | | | | |
| 圖案法 | | | 一 一般圖案法 | | | |
| 工藝史 | | | | 一 工藝史大要 | | |
| 機械大意 | | | | | 二 機械大意 | |
| 材料工作法及實習 | 一〇 材料工作法 板金裝身具 | 一〇 同上 | 一八 材料工作法 板金裝身具 | 一六 材料工作法 板金裝身具鍍金 | 二四 材料工作法、板金裝身具鍍金 | 三九 |





# 市立名古屋商業學校學則

改正　大正十一年三月二十四日
　　大正十五年三月二十九日

## 一、總則

**第一條**　本校ハ大正十年三月文部省令第十七號商業學校規定ニヨリ商人ニ必要ナル知識技能ヲ授ケ他日躬ラ克ク商務ヲ經營處理シ得ヘキモノヲ養成スルヲ目的トス

**第二條**　本校ノ修業年限ハ五ケ年トシ第一學年ヨリ第五學年ニ別ツ

**第三條**　本校卒業後特ニ商業ニ關スル事項ヲ深ク研究セントスルモノニハ一ケ年以內研究生トシテ在學セシムルコトアルヘシ

**第四條**　本校生徒ノ定員ハ千貳百五拾名トス

## 二、學科課程

**第五條**　學科課程ヲ定ムルコト次ノ如シ

| 學科目 | 每週時間 第一學年 | 每週時間 第二學年 | 每週時間 第三學年 | 每週時間 第四學年 | 每週時間 第五學年 |
|---|---|---|---|---|---|
| 修身 | 一 國民道德ノ要旨 | 一 同上 | 一 同上 | 一 同上 | 一 同上 |
| 國語 | 八 講讀、作文、習字、漢文、商業作文 | 八 同上 | 五 同上 | 四 講讀、作文、漢文、商業作文 | 四 同上 |
| 數學 | 三 算術、珠算 | 四 算術、代數、珠算 | 六 代數、幾何、商業算術、珠算 | 五 同上 | 三 商業算術、珠算 |
| 地理 | 二 內國 | 二 外國 | | | |
| 歷史 | 二 內國 | 二 外國 | | | |

| 科目 | 二 | 博物大意 | 二 | 同 | 上 | 四 | 物理學、化學 | 二 | 同 | 上 | | |

一、學力劣等ニシテ成業ノ見込ナキ者
一、引續一ヶ年以上缺席シタル者及正當ノ事由ナクシテ引續キ一ヶ月以上缺席シタル者
一、正當ノ理由ナクシテ屢々遲刻、缺課スル者及ヒ出席不規則ナル者
一、授業料怠納二週間ニ及フ者

## 五、休學規程

**第十七條**　生徒疾病其他止ムヲ得サル事由ニ因リ引續キ三ヶ月以上修業シ能ハスト思料スルトキハ保證人連署ヲ以テ學校長ニ願出テ許可ヲ得テ其ノ學年間休學スルコトヲ得但シ疾病ニ因リ休學セントスル場合ハ願書ニ醫師診斷書ヲ添フルヲ要ス

前項ニ依リ休學ヲ許可セラレタル者ハ次學年ノ始メヨリ原學年ノ課程ヲ修ムヘシ尚引續キ休學ヲ要スル者ハ更ニ願出テ其ノ許可ヲ受クヘシ

## 六、學力査定、進級及卒業

**第十八條**　每學年ノ課程ノ修了又ハ全學年ノ卒業ヲ認ムルタメ每學年ノ終リニ於テ生徒ノ學力ヲ査定ス

**第十九條**　學力ノ査定ハ日科評點ニ據ルヲ原則トスルモ學科ノ種類ニヨリテハ試驗ヲ行フヘシ

**第二十條**　評點ハ各學科百點ヲ以テ滿點トス

**第二十一條**　各學科四十點以上平均點六十點以上ヲ得タル者及第トス但シ四十點未滿ノモノハ一科目ニ限ル場合ニハ職員會議ノ上特ニ及第セシムルコトアルヘシ

**第二十二條**　全學科ノ卒業ヲ認メタル者ニハ第三號書式ニ依ル卒業證書ヲ授與ス

## 七、出席評點

**第二十三條**　出席評點ハ全學年ヲ通シテ一百點トス學科點ニ缺點ナキ者ト雖モ出席評點四十點ニ滿タサル者ハ進級スルコトヲ得ス

**第二十四條**　缺席減點ノ標準ハ本校內規ノ定ムル所ニ據ル

## 八、授業料

**第二十五條**　授業料ハ一人一ヶ月金參圓五十錢トス但シ特別ノ事情アルモノニ對シテハ授業料ヲ免除スルコトアルヘシ

**第二十六條**　授業料ハ學校指定ノ期日ニ納入スヘシ

**第二十七條**　學校ノ休業全月ニ渉ルトキハ其ノ月ノ授業料ヲ徵收セス

第十七條ニヨリ休學ヲ許可シタル者ハ其ノ期間ニ於ケル授業料ヲ免除ス

## 九、生徒心得

一、常ニ敎育ニ關スル勅語ノ主旨ヲ奉戴シ一意專心學業ヲ勵ミ其ノ成功ヲ期スヘシ
一、誠實ヲ以テ師長ヲ尊敬シ虛心平氣ニシテ其ノ敎ヲ聽クヘシ
一、居常自ラ重ンシテ品行ヲ愼ミ善良ナル生徒ノ體面ヲ汚スカ如キ行爲アルヘカラス
一、校規其ノ他一切ノ規程諭示ヲ嚴守シ苟モ違背抵抗ノ擧動アルヘカラス

## 附則

一、缺席、遲刻、早退、轉居、改姓竝ニ保證人ニ關スル諸般ノ願書ハ其ノ事由ヲ具シ保證人連署ヲ以テ事故發生シタル日ヨリ三日以內ニ之ヲ届出ツヘシ
一、授業時間ニ遲レタルトキハ特ニ敎師ノ許可ヲ得ルニアラサレハ入室スルコトヲ得ス

一、行厨ハ登校ノ際生徒自ラ之ヲ携帯スヘシ
一、学校中ハ規定ノ服装ヲナスヘシ但シ止ムヲ得サル事故ニヨリ靴ヲ着用シ難キ時ハ学生係ノ許可ヲ受クヘシ
一、校舎校具其ノ他諸物品ノ取扱ヲ鄭重ニシ決シテ粗末ニ扱フヘカラス若シ過テ之ヲ毀損若クハ亡失シタル時ハ速ニ其ノ實ヲ具シテ之ヲ届出ツヘシ
一、生徒ハ交代シテ教室ノ掃除ヲナスヘシ
一、生徒ハ常ニ生徒手帳ヲ携帯スヘシ
一、刀物類ハ学校備付ノモノヲ使用シ自ラ携帯スルコトヲ得ス
一、校内ニ於テ事ノ何タルヲ問ハス許可ナクシテ猥リニ會合スヘカラス
一、掲示ハ之ヲ掲ケタル日ヨリ一般ノ了知シタルモノト認ムルニ就キ常ニ之ニ注意スヘシ
一、生徒相互間ニ於テ金銭物品ノ貸借ハナサヽルヲ様スヘシ

## 十、褒賞及懲戒規程

第二十八條　品行、學業其ノ他ニ於テ優秀ナルモノハ適宜之ヲ表彰ス
第二十九條　生徒タルノ本分ヲ守ラサルモノハ輕重ニ應シテ之ヲ懲戒ス

## 十一、附　則

第三十條　本則施行ニ關スル細則ハ別ニ之ヲ定ム

第一號書式

## 入學願書

一、出願年月日
一、入學志願者姓名
一、生年月日
一、本籍地
一、現住所
一、職業（家業若クハ父兄ノ職業）身續（何某何男又ハ弟等）
卒業セシ尋常小學校名
一、尋常小學校卒業年月日
一、卒業若クハ修學中ノ高等小學校又ハ其他ノ學校名及學年
一、褒賞ヲ受ケタル回數（種類別ニ記載ノコト）

父兄又ハ後見人　姓　　名

市立名古屋商業學校長姓名殿

第二號書式

## 誓約書

私儀今般御校へ入學御許可相成候ニ就テハ御校則ヲ遵守シ專心學業ヲ勉勵可致候仍誓約書如此候也

年　月　日

本籍地
現住所　職業　身續
姓　　名㊞
生年月日

本籍地
現住所　職業
正保證人　姓　　名㊞
生年月日

本籍地
現住所　職業
副保證人　姓　　名㊞
生年月日

市立名古屋商業學校長姓名殿

第三號書式

## 卒業證書

校印

姓　　名
生年月日

本校定ムル所ノ規則ニ據リ全課程ヲ卒業セリ仍テ此證書ヲ授與ス

年　月　日

市立名古屋商業學校長位勳　氏　　名㊞

第何號

# 市立第二商業學校學則

大正十年四月ヨリ施行

改正　大正十一年三月三十一日
　　大正十五年三月二十九日

## 第一章　總則

**第一條**　本校ハ商業學校規定ニ據リ商業ニ從事セントスル者ニ須要ナル知識技能ヲ授ケ兼ネテ德性及國民思想ヲ涵養スルヲ以テ目的トス

**第二條**　本校ノ生徒定員ハ七百五十名トス

**第三條**　本校ノ修業年限ハ五ケ年トス

**第四條**　（削除）

## 第二章　學科、課程、授業時數

**第五條**　學科課程ヲ定ムルコト左ノ如シ

| 學科 | 第一學年 毎週時數 | 第二學年 毎週時數 | 第三學年 毎週時數 | 第四學年 毎週時數 | 第五學年 毎週時數 |
|---|---|---|---|---|---|
| 修身 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| 國語 | 九 | 五 | 五 | 四 | 四 |
| 數學 | 三 | 五 | 四 | 二 | 二 |
| 地理 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 |
| 歷史 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 |
| 理科 | 二 博物 | 二 物理 | 二 化學 | | |
| 圖畫 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 |
| 英語 | 六 | 六 | 七 | 七 | 七 |
| 簿記 | | | | 四 | 四 |
| 經濟及統計 | | | | | 二 |
| 商品 | | | | | 二 |
| 商事要項 | | | | | 二 |
| 商事實踐 | | | | | 二 |
| 法規 | | | | | 二 |
| 體操 | 三 | 三 | 三 | 三 | 三 |
| 時數合計 | 三〇 | 三〇 | 三三 | 三三 | 三三 |

| 學科 | 第一學年 毎週時數 | 第二學年 毎週時數 | 第三學年 毎週時數 | 第四學年 毎週時數 | 第五學年 毎週時數 |
|---|---|---|---|---|---|
| 修身 | 一 國民道德ノ要旨 | 一 國民道德ノ要旨 | 一 國民道德ノ要旨 | 一 國民道德ノ要旨 | 一 國民道德ノ要旨 |
| 國語 | 九 讀方、作文、習字 | 九 讀方、作文、習字 | 五 讀方、作文、習字 | 四 讀方、商業文 | 四 讀方、商業文 |
| 數學 | 三 算術、珠算、心算 | 三 算術、珠算、心算 | 五 代數、幾何、珠算 | 四 代數及商業算術 | 二 商業算術、珠算 |
| 地理 | 二 日本 | 二 世界 | 二 商業地理 | | |
| 歷史 | 二 日本 | 二 世界 | 二 商業歷史 | | |
| 理科 | 二 博物 | 二 物理 | 二 化學 | | |
| 圖畫 | 二 自在畫 | 二 自在畫及用器畫 | | | |
| 英語 | 六 讀方、聽方、書方 | 六 讀方、聽方、書方 | 七 讀方、文法、作文 | 七 讀方、文法、作文、會話 | 七 同上 |
| 簿記 | | | | 四 通論 | 四 通論、應用 |
| 經濟及統計 | | | | | 二 經濟原論 |
| 商品 | | | | | 二 重要商品 |
| 商事要項 | | | | | 四 同上、心理學 |
| 商事實踐 | | | | | 六 同上、內外國商業實踐 |
| 法規 | | | | | 二 通論、民法 |
| 體操 | 三 普通及兵式 | 三 普通及兵式 | 三 普通及兵式 | 三 普通及兵式 | 三 普通及兵式 |
| 時數合計 | 三〇 | 三〇 | 三三 | 三三 | 三三 |

**第六條**　本校ノ授業時數ハ晝間第一、二學年三十時第三、四、五學年三十三時トス但シ季節ニ依リ各學科目ノ一學年ニ於ケル授業時數ノ總計ヲ增減セサル範圍內ニ於テ每週教授時數ヲ變更スルコトアルヘシ

## 第三章　學年、學期、休業日

**第七條**　學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

**第八條**　學期ヲ分チテ左ノ三學期トス

第一學期　自四月一日　至七月三十一日
第二學期　自八月一日　至十二月三十一日
第三學期　自一月一日　至三月三十一日

第九條　休業日ヲ定ムルコト左ノ如シ

一　祝祭日

一　日曜日

一　學校記念日　五月二十六日

一　春期休業　自三月二十一日　至三月三十一日

一　夏期休業　自七月二十一日　至八月三十一日

一　冬期休業　自十二月二十五日　至翌年一月七日

## 第四章　入學、轉學、退學及休學

第十條　入學期ハ學年ノ始トス

第十一條　第一學年ニ入學ヲ許スヘキ者ハ品行端正志望堅固身體強健ニシテ尋常小學校卒業以上ノ學力ヲ有スル者タルヘシ但シ尋常小學校ヲ卒業セサル者ニ對シテハ試驗ニ依リ其ノ學力ヲ檢定ス

第十二條　第一學年入學志願者ノ數募集人員ニ超過スル時ハ尋常小學校ノ卒業程度ニヨリ國語算術ノ二科ニ就キ學力ヲ試驗シ入學者ヲ選拔ス但シ必要ト認ムルトキハ他學科目ヲ加フルコトアルヘシ

第十三條　第二學年以上ノ各學年ノ入學志願者ハ前學年修了ノ程度ニヨリ學力ヲ試驗シ相當學年ニ編入スルコトヲ得

第十三條ノ二　他ノ商業學校生徒ニシテ轉學ヲ志望スル者アルトキハ缺員アル場合ニ限リ相當學年ニ編入スルコトアルヘシ

第十四條　入學志願者ハ第一號書式ニ依リ入學願書ヲ差出スヘシ



第十五條　入學志願者ハ入學試驗料トシテ金貳圓ヲ入學願書ニ添ヘ差出スヘシ但シ既納ノ入學試驗料ハ何等ノ事由アルモ返付セス

第十六條　入學ヲ許サレタル者ハ保證人正副兩名ヲ定メ學校指定ノ日時ニ於テ保證人ト同伴來校シ第二號書式ニ依ル誓約書ヲ差出スヘシ

第十七條　正保證人ハ入學者ノ父兄又ハ後見人トス副保證人ハ名古屋市内若クハ附近ノ町村ニ在住シ保證ノ責ニ任シ得ル者トス

第十七條ノ二　生徒病氣其他止ムヲ得サル事故ニ因リ退學セムトスルトキハ保證人連署ヲ以テ願出ツヘシ

第十八條　左ノ各項ノ一ニ該當スル者ハ退學ヲ命ス

一　性行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者

一　學力劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者

一　引續キ一ケ年以上缺席若クハ正當ノ事由ナクシテ引續キ一ケ月以上缺席シタル者

一　出席常ナラサル者

一　授業料怠納二週間以上ニ及フ者

第十八條ノ二　生徒病氣又ハ已ムヲ得サル事故ニ依リ三ケ月以上課業ヲ缺クヘシト認メタルモノニ對シ一ケ年未滿ノ休學ヲ許可スルコトアルヘシ

## 第五章　學力査定及卒業

第十九條　每學年ノ課程ノ修了又ハ全學年ノ卒業ヲ認ムルガ爲メ每學年ノ終リニ於テ生徒ノ學力操行及勤惰ヲ査定ス

第二十條　學力ノ査定ハ日課評點ノ平均ニ據ル

學科ノ種類ニ依リ特ニ試驗ヲ行ヒ其成績ヲ以テ日課評點ニ代フルコトアルヘシ

評點ハ各科百點ヲ以テ最高トス

第二十一條　各科評點四十點總平均評點六十點以上ヲ得タル者ヲ合格トス

第二十二條　全學科ノ卒業ヲ認メタル者ニハ第三號書式ニ依ル卒業證書ヲ授與ス

## 第六章　授業料

第二十三條　授業料ハ一人一ケ月金參圓五拾錢トス但シ特別ノ事情アルモノニ對シテハ授業料ヲ免除スルコトアルヘシ

第二十四條　授業料ハ學校指定ノ日時ニ差出スヘシ

第二十四條ノ二　第十八條ノ二ニ因ル休學全月ニ渉ルトキハ其月ノ授業料ヲ徴收セス

## 第七章　賞罰

第二十五條　成績優秀ナル者ハ適宜之ヲ表彰ス

第二十六條　生徒タルノ本分ヲ守ラサル者ハ其輕重ニ應シ譴責停學又ハ放校ニ處ス

## 第八章　附則

第二十七條　本則施行ニ關スル必要ナル細則ハ別ニ之ヲ定ム

---

第一號書式

（用紙半紙罫紙）

入學願書

一　出願年月日
一　入學志願者姓名
一　生年月日
一　本籍地
一　現住所
一　職業（家業又ハ父兄ノ職業）身續（何某何男又ハ弟等）
一　卒業セシ尋常小學校ノ所在地及校名
一　尋常小學校卒業年月日
一　其他ノ修學中ノ學校名及其學年
一　褒賞ヲ受ケタル回數

父兄又ハ後見人　姓　名　㊞

名古屋市立第二商業學校長姓名殿

第二號書式

誓約書

私儀今般御校ヘ入學御許可相成候ニ就テハ御校則ヲ遵守スルハ勿論專心學業ヲ勉勵可致候仍テ保證人連署シ誓約書如此候也

本籍
現住所　職業　身續入學者　姓　名　㊞
本籍
現住所　職業　正保證人　姓　名　㊞
本籍
現住所　職業　副保證人　姓　名　㊞

名古屋市立第二商業學校長姓名殿

第三號書式

卒業證書

姓　名
生年月日

校印

本校定ムル所ノ規則ニ據リ全學年ヲ卒業セリ仍テ此ノ證書ヲ授與ス

年　月　日

名古屋市立第二商業學校長位勳　氏　名　㊞

第何號

# 市立第三商業學校學則

大正十三年四月一日

## 一、總則

**第一條**　本校ハ大正十年三月文部省令第十七號商業學校規程ニヨリ商人ニ必要ナル知識技能ヲ授ケ他日躬ラ克ク商務ヲ經營處理シ得ヘキモノヲ養成スルヲ目的トス

**第二條**　本校ノ修業年限ハ五ケ年トシ第一學年ヨリ第五學年ニ別ツ

**第三條**　本校卒業後特ニ商業ニ關スル事項ヲ深ク研究セントスルモノニハ一ケ年以內研究生トシテ在學セシムルコトアルヘシ

**第四條**　本校生徒ノ定員ハ五百名トス

## 二、學科課程

**第五條**　學科課程ヲ定ムルコト次ノ如シ

| 學科目 | 每週時數 第一學年 | 每週時間 第二學年 | 每週時間 第三學年 | 每週時間 第四學年 | 每週時間 第五學年 |
|---|---|---|---|---|---|
| 修身 | 一 同 | 一 同 | 一 同 | 一 同 | 一 社會學大意 上 |
| 國語 | 八 講讀、作文、習字、漢文、商業作文 | 八 同 | 五 同 | 四 講讀、作文、漢文、商業作文 | 四 同 上 |
| 數學 | 三 算術、珠算 | 四 算術、代數、珠算 | 六 代數、幾何、商業算術、珠算 | 五 同 | 三 商業算術、珠算 |
| 地理 | 二 內國 | 二 外國 | | | |
| 歷史 | 二 內國 | 二 外國 | | | |
| 理科 | 二 博物大意 | 二 同 | 上 四 物理學、化學 | 二 同 | 上 |
| 圖畫 | 二 自在畫 | 二 同上及用器畫 | | | |
| 商工大意 | 二 商業大意 | 二 商業大意 工業大意 | | | |
| 英語 | 六 讀方、聽方、書方 | 六 同 | 上 七 譯讀、文法、作文 | 八 同上、會話（外人）商業英語 | 八 同 上 |
| 商業歷史 | | | 二 內、外 | | |
| 簿記 | | | 四 商業簿記 | 三 同上、銀行簿記 | 三 會計學大意、工業簿記及英文記帳 |
| 經濟統計 | | | | | 三 通論 政策、財政、統計 |
| 商品 | | | | | 二 內外國重要物產製品 |
| 商業要項及實踐 | | | | | 二 同 上 六 內外實踐（タイプライター） |
| 法制 | | | | | 一 法制大意 三 通論民商法 |
| 體操 | 二 普通及兵式 | 二 同 上 | 二 同 上 | 二 同 上 | 二 同 上 |
| 計 | 三〇 | 三〇 | 三三 | 三三 | 三三 |

## 三、學年、學期及休業日

**第六條**　學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ルヘシ

**第七條**　一學年ヲ三學期ニ分ツ

第一學期ハ四月一日ヨリ八月三十一日ニ至リ第二學期ハ九月一日ヨリ十二月三十一日ニ至リ第三學期ハ一月一日ヨリ三月三十一日ニ至ル

**第八條**　年中休業日ヲ左ノ通リ定ム

一、毎日曜日
一、本校創立紀念日
一、夏期休業　自七月二十一日　至八月三十一日
一、冬期休業　自十二月二十五日　至翌一月七日
一、學年末休業　自三月二十二日　至次學年四月三日
一、大祭祝日

## 四、入學、在學及退學

第九條　入學期ハ毎學年ノ始メトシ第一學年ニ入學セシムル場合ニハ試驗ニ依リ其學力ヲ檢定ス

第十條　第一學年ニ入學スルコトヲ得ル者ハ年齡十二年以上ニシテ身體强健尋常小學校卒業程度以上ノ學力ヲ有スル者タルヘシ但シ尋常小學校未卒業者ニ對シテハ試驗ニ依リ國語、算術ノ二科ニ就キ學力ヲ試驗シ入學者ヲ選拔ス

第十一條　入學志願者ノ數募集人員ニ超過スル時ハ尋常小學校卒業ノ程度ニヨリ國語、算術ノ二科ニ就キ學力ヲ試驗シ入學者ヲ選拔ス

第十二條　入學志願者ハ第一號書式ニ依リ入學願書ヲ差出スヘシ

第十三條　入學志願者ハ入學試驗料トシテ金貳圓ヲ入學願書ニ添ヘテ差出スヘシ但シ既納ノ入學試驗料ハ何等ノ事由アルモ返付セス

第十四條　入學ヲ許可セラレタルモノハ保證人正副兩名ヲ定メ學校指定ノ日ニ其一名ト同伴出校シテ第二號書式ニ依ル誓約書ヲ差出スヘシ

第十五條　正保證人ハ入學者ノ父兄又ハ後見人タルヲ要ス副保證人ハ名古屋市内若クハ附近町村ニ在住ノモノニシテ生徒ノ一身ニ關シ保證ノ責ニ任シ得ル者タルヲ要ス

第十六條　左ノ各項ノ一ニ該當スル者ハ退學ヲ命スルコトアルヘシ

一、校規ニ悖戻シ若クハ性行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者
一、學力劣等ニシテ成業ノ見込ナキ者
一、引續一ケ年以上缺席シタル者及正當ノ事由ナクシテ引續キ一ケ月以上缺席シタル者
一、正當ノ理由ナクシテ屢々遲刻、缺課スル者及ヒ出席不規則ナル者
一、授業料怠納二週間ニ及フ者

## 五、休學規程

第十七條　生徒疾病其他止ムヲ得サル事由ニ因リ引續キ三ケ月以上修業シ能ハスト思料スルトキハ保證人連署ヲ以テ學校長ニ願出テ許可ヲ得テ其ノ學年間休學スルコトヲ得但シ疾病ニ因リ休學セントスル場合ハ願書ニ醫師診斷書ヲ添フルヲ要ス

前項ニ依リ休學ヲ許可セラレタル者ハ次學年ノ始メヨリ原學年ノ課程ヲ修ムヘシ尚引續キ休學ヲ要スル者ハ更ニ願出テ其ノ許可ヲ受クヘシ

## 六、學力查定、進級及卒業

第十八條　毎學年ノ課程ノ修了又ハ全學年ノ卒業ヲ認ムルタメ毎學年ノ終リニ於テ生徒ノ學力ヲ査定ス

第十九條　學力ノ查定ハ日科評點ニ據ルヲ原則トスルモ學科ノ種類ニヨリテハ試驗ヲ行フヘシ

第二十條　評點ハ各學科百點ヲ以テ滿點トス

第二十一條　各學科四十點以上平均點六十點以上ヲ得タル者ヲ及第トス但シ四十點未滿ノモノハ一科目ニ限ル場合ニハ職員會議ノ上特ニ及第セシムルコトアルヘシ

第二十二條　全學科ノ卒業ヲ認メタル者ニハ第三號書式ニ依ル卒業證書ヲ授與ス

## 七、出席評點

第二十三條　出席評點ハ全學年ヲ通シテ一百點トス學科點ニ缺點ナキ者ト雖モ出席評點四十點ニ滿タサル者ハ進級スルコトヲ得ス

第二十四條　缺席減點ノ標準ハ本校内規ニ定ムル所ニ據ル

## 八、授　業　料

第二十五條　授業料ハ一人一ヶ月金參圓五拾錢トス但シ特別ノ事情アルモノニ對シテハ授業料ヲ免除スルコトアルヘシ

第二十六條　授業料ハ學校指定ノ期日ニ納入スヘシ

第二十七條　學校ノ休業全月ニ渉ルトキハ其月ノ授業料ヲ徴收セス

第十七條ニヨリ休學ヲ許可シタル者ハ其ノ期間ニ於ケル授業料ヲ免除ス

## 九、生　徒　心　得

一、常ニ敎育ニ關スル勅語ノ主旨ヲ奉戴シ一意專心學業ヲ勵ミ其ノ成功ヲ期スヘシ

一、誠實ヲ以テ師長ヲ尊敬シ虚心平氣ニシテ其ノ敎ヲ聽クヘシ

一、居常自ラ重ンシテ品行ヲ愼ミ善良ナル生徒ノ體面ヲ汚スカ如キ行爲アルヘカラス

一、校規其ノ他一切ノ規程諭示ヲ嚴守シ苟モ違背抵抗ノ擧動アルヘカラス

### 附　則

一、缺席、遲刻、早退、轉居、改姓竝ニ保證人ニ關スル諸般ノ願書ハ其ノ事由ヲ具シ保證人連署ヲ以テ事故發生シタル日ヨリ三日以内ニ之ヲ届出ツヘシ

一、授業時間ニ遲レタルトキハ特ニ敎師ノ許可ヲ得ルニアラサレハ入室スルコトヲ得ス



一、行嚢ハ登校ノ際生徒自ラ之ヲ携帶スヘシ

一、登校中ハ規定ノ服裝ヲナスヘシ但シ止ムヲ得サル事故ニヨリ靴ヲ着用シ難キ時ハ學生係ノ許可ヲ受クヘシ

一、校舍校具其ノ他諸物品ノ取扱ヲ鄭重ニシ決シテ粗末ニ扱フヘカラス若シ過テ之ヲ毀損若クハ亡失シタル時ハ速ニ其ノ實ヲ具シテ之ヲ届出ツヘシ

一、生徒ハ交代シテ敎室ノ掃除ヲナスヘシ

一、生徒ハ常ニ生徒手帳ヲ携帶スヘシ

一、又物類ハ學校備付ノモノヲ使用シ自ラ携帶スルコトヲ得ス

一、校内ニ於テ事ノ何タルヲ問ハス許可ナクシテ猥リニ會合スヘカラス

一、掲示ハ之ヲ掲ケタル日ヨリ一般ノ了知シタルモノト認ムルニ就キ常ニ之ニ注意スヘシ

一、生徒相互間ニ於テ金錢物品ノ貸借ハナサヽル樣スヘシ

## 十、褒賞及懲戒規程

第二十八條　品行學業其ノ他ニ於テ優秀ナルモノハ適宜之ヲ表彰ス

第二十九條　生徒タルノ本分ヲ守ラサルモノハ輕重ニ應シテ之ヲ懲戒ス

## 十一、補　則

第三十條　本則施行ニ關スル細則ハ別ニ之ヲ定ム

# 市立貿易語學校學則

改正　大正九年三月二十五日
大正四年三月二十五日

## 第一章　總則

第一條　本校ハ貿易上必須ナル語學ニ通セシメ兼テ商業的知識ヲ養成スルヲ以テ目的トス

第二條　本校ハ名古屋市八重尋常高等小學校内ニ設ク

第三條　本校ノ學科ヲ分チテ英語、支那語及露語ノ三科トス

第四條　修業年限ハ二ケ年トシ夜間教授トナス

第五條　生徒定員ハ二百五十名トス

第六條　本校ニ於テ適當ト認メタルモノハ聽講生タルコトヲ許可スルコトアルヘシ

## 第二章　學科課程

第七條　各學科ノ學科目及其ノ時數左ノ如シ

| 學科 | 毎週時數 | 第一學年 | 第二學年 |
|---|---|---|---|
| 修身 | 一 | 國民道德ノ要旨 | 同　上 |
| 簿記 | 二 | 商業簿記 | 商業簿記 |
| | 二 | | 銀行簿記 |
| 商事要項 | 二 | 内外取引 | 同　上 |
| 語學 | 三 | 讀方、文法、會話 | 同　上 |
| (時間合計) | 一八 | | |

第三類教育者



## 第二號書式

### 誓約書

私儀今般御校ヘ入學御許可相成候ニ就テハ校則ヲ遵守シ商業ヲ勉勵可致候ヲ誓約書如此候也

年　月　日

現住所　職業　姓名　㊞

本籍地

現住所　職業　生年月日

本籍地

現住所　職業　生年月日

本籍地

現住所　職業　生年月日

名古屋市立第三商業學校長姓名殿

## 第三號書式

### 卒業證書

校印

姓　名
生年月日

年　月　日

本校第ムル所ノ規則ニ據リ全課程ヲ卒業セリ仍テ此證書ヲ授與ス

名古屋市立第三商業學校長位勳　氏　名　㊞

第何號

## 第四號書式

### 入學願書

一、出願年月日
一、入學志願者姓名
一、職　業
一、現住所
一、本籍地
一、生年月日
一、尋常小學校卒業年月日
一、卒業若ハ尋常小學中ノ轉學小學校又ハ其他ノ學校名及學年
一、發覺ヲ受ケタル回數（種別ニ記載ノコト）
一、父兄ノ後見人　姓　名

名古屋市立第三商業學校長姓名殿

## 第五號書式

### 誓約書

私儀今般貴校ニ入學御許可相成候ニ就テハ校則ヲ遵守シ勉學可致候ハ勿論左ノ條項ヲ誓約仕候也

一、品行ヲ愼ミ學業ニ勵ムコト
一、缺席ハ勿論遲刻又ハ早退等ノ場合ニハ其事由ヲ屆出ルコト
一、學業ノ成績ハ毎學期ノ試驗ニ於テ平均六十點以上ヲ得ルコト
一、學業ノ成績ハ毎學期ノ試驗ニ於テ平均六十點以上ヲ得ルコト
一、學業ノ成績ハ毎學期ノ試驗ニ於テ平均六十點以上ヲ得ルコト

年　月　日

父兄ノ住所　職業　姓名　㊞
本人ノ住所　職業　姓名　㊞

名古屋市立第三商業學校長姓名殿

第八條　聽講生ハ本校ノ許可ヲ得科目若クハ數科目ヲ聽講スルコトヲ得

## 第三章　學年、學期、休業日

第九條　學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第十條　學期ヲ分チテ左ノ三學期トス

第一學期　自四月一日　至七月三十一日

第二學期　自八月一日　至十二月三十一日

第三學期　自一月一日　至三月三十一日

第十一條　休業日左ノ如シ

一　祝祭日

一　日曜日

一　學校創立記念日　四月十六日

一　春期休業　自三月二十一日　至三月三十一日

一　夏期休業　自七月二十一日　至八月三十一日

一　冬期休業　自十二月二十五日　至翌年一月七日

## 第四章　入學、退學及保証人

第十二條　入學期ハ毎年四月トス但シ臨時入學ヲ許スコトアルヘシ

第十三條　所定ノ學科中一部學科ノ生徒ヲ募集セサルコトアルヘシ

第十四條　入學ヲ許可スヘキモノハ志望堅固、身體强健ニシテ左ノ資格ヲ有スルモノタルヘシ



中學校第二學年修了若クハ是ト同等以上ノ學力ヲ有スル者

第十五條　入學志願者募集人員ニ超過スルトキハ選拔試驗ヲ行フ其ノ試驗學科目左ノ如シ

一　國語

一　算術

一　英語

第十六條　臨時入學ヲ許スヘキ者ハ其ノ學年ノ程度ニヨリ試驗ヲ行ヒ入學ノ許否ヲ定ム

第十七條　入學志望者ハ第一號書式ノ入學願書ヲ差出スヘシ

第十八條　入學ノ許可ヲ得タルモノハ第二號書式ニヨル在學證書ニ保証人連署シ差出スヘシ

保証人ハ名古屋市又ハ附近ニ居住シ一家計ヲ立ツル丁年以上ノ男戸主タルコトヲ要ス

保証人ハ生徒ノ身上ニ關シ一切ノ事項ヲ引受ケ且ツ監督スル義務ヲ負フモノトス

第十九條　左記各號ノ一ニ該當スルモノハ退學ヲ命ス

一　性行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認ムル者

一　學業劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認ムル者

一　出席常ナラサル者

一　引續キ一ケ年以上缺席シタル者若クハ正當ノ事由ナクシテ引續キ一ケ月以上缺席シタル者

## 第五章　學力査定及証書

第二十條　課程ノ終了又ハ卒業ヲ認ムルタメ毎學年ノ終ニ於テ生徒ノ學力ヲ査定ス但シ聽講生ハ此ノ限ニ非ス

第二十一條　學力ノ査定ハ日常評點及試驗ノ成績點ヲ以テ之ヲ定ム
評點及成績點ハ各學科目百點ヲ以テ最高トス各學科目四十點各學科目總平均六十點以上ヲ得タル者ヲ合格トス

第二十二條　第二學年ノ終リニ於テ學力ノ査定ニ合格シタル者ニハ卒業證書ヲ授與ス

## 第六章　授業料

第二十三條　授業料ハ本科生、聽講生トモ一人一學期金貳圓トシ徵收ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

## 第七章　雜　則

第二十四條　生徒ノ品行、學業其ノ他優秀ナルモノハ適宜之ヲ表彰ス

第二十五條　生徒タルノ本分ヲ守ラサル者ハ其ノ輕重ニ應シ譴責、停學又ハ放校ニ處ス

第二十六條　本則施行ニ關スル必要ナル細則ハ別ニ之ヲ定ム

第一號書式

入學願書　（用紙半紙罫紙）

一　出願年月日
二　名古屋貿易語學校何々科（聽講生ハ聽講科目）
三　入學志願者姓名及生年月日
四　本籍地
五　現住所
六　職業（家業若クハ父兄ノ職業）　身續（何某何男又ハ第等）
七　最近終了ノ學校名及學年
八　褒賞ヲ受ケタル同數

戸主又ハ後見人　姓　名　㊞

名古屋市立貿易語學校長姓名殿

第二號書式

在學證書

私儀今般御校（何何科ヘ又ハ聽講生トシテ）入學御許可相成候ニ就テハ御校則ヲ遵守スルハ勿論專心學業ヲ勉勵可致候仍テ保證人連署ノ上本書提出候也

年　月　日

本籍地　現住所　職業　身續　入學者　姓　名　㊞
本籍地　現住所　職業　身續　保證人　姓　名　㊞

名古屋市立貿易語學校長姓名殿

# 市立盲唖學校學則

改正　大正十一年九月一日
　　大正十三年四月一日

大正元年十一月一日

## 第一章　目　的

第一條　本校ハ盲學校及聾唖學校規程ニ依リ盲人竝ニ聾唖者ニ普通教育ヲ施シ其ノ生活ニ須要ナル特種ノ知識技能ヲ授ケ特ニ國民道德ノ涵養ニ力ムルヲ以テ目的トス

## 第二章　學科、學科目及修業年限

第二條　本校ニ盲部、聾唖部ヲ設キ各部ニ初等部及中等部ヲ置ク

第三條　盲部初等部ノ學科目ハ修身、國語、算術、歷史、地理、理科、唱歌、手工直觀及體操トス其ノ課程及每週教授時數ハ第一號表ニ依ル

第四條　盲部中等部ヲ分チテ豫科、普通科、音樂科、鍼灸按マッサージ科及乙種按摩科トス但シ普通科ハ當分之ヲ缺ク

中等部豫科ノ學科目ハ修身、國語、算術、唱歌及體操トス其ノ課程及每週教授時數ハ第二號表ニ依ル

普通科ノ學科目ハ修身、國語、英語、數學、歷史、地理、理科、音樂及體操トス其ノ課程及每週教授時數ハ第三號表ニ依ル

音樂科ノ學科目ハ修身、國語、英語、算術、歷史、地理、理科、樂典、音樂史、聲樂、箏、三絃及體操トシ英語ヲ隨意科トス其ノ課程及每週教授時數ハ第四號表ニ依ル

鍼灸按マッサージ科ノ學科目ハ修身、國語、英語、數學、歷史、地理、理科、解剖、生理、病理、診斷、

衞生、鍼術、灸術、按摩術、マツサージ術、音樂及體操トシ英語ヲ隨意科トス其ノ課程及每週教授時數ハ第五號表ニ依ル

乙種按摩科ノ學科目ハ修身、國語　算術、解剖、生理、病理、衞生、按摩術及體操トス其ノ課程及每週教授時數ハ第六號表ニ依ル

**第五條**　聾唖部初等部豫科ノ學科目ハ作法、國語、感覺練習、算術、圖畫、手工及遊戲トス其ノ課程及每週教授時數ハ第七號表ニ依ル

聾唖部初等部ノ學科目ハ修身、國語、算術、歷史、地理、理科、圖畫、手工及體操トシ女子ノ爲ニ裁縫ヲ加フ其ノ課程及每週教授時數ハ第八號表ニ依ル

**第六條**　聾唖部中等部ヲ分チテ普通科、圖畫科、裁縫科及家具科トス

普通科ノ學科目ハ、修身、國語、數學、歷史、地理、理科、圖畫及體操トシ女子ノ爲ニ家事及裁縫ヲ加フ其ノ課程及每週教授時數ハ第九號表ニ依ル

圖畫科ノ學科目ハ修身、國語、算術、理科、圖畫及體操トス其ノ課程及每週教授時數

裁縫科ノ學科目ハ修身、國語、算術、理科、裁縫、刺繡、圖畫、家事及體操トス其ノ課程及每週教授時數ハ第十一號表ニ依ル

家具科ノ學科目ハ修身、國語、算術　理科、家具、圖畫及體操トス其ノ課程及每週教授時數ハ第十二號表ニ依ル

**第七條**　修業年限ハ盲部ニ在リテハ初等部ハ六ケ年、中等部ハ豫科一ケ年、普通科四ケ年、音樂科六ケ年、鍼灸按マツサージ科四ケ年、乙種按摩科二ケ年トシ聾唖部ニ在リテハ初等部豫科三ケ年、初等部六ケ年、中等部ハ各科五ケ年トス

## 第三章　學年、學期、始業時間及休業日

**第八條**　學年ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

**第九條**　學年ヲ分チテ三學期トス第一學期ハ四月一日ヨリ八月三十一日ニ至リ、第二學期ハ九月一日ヨリ十二月三十一日ニ至リ、第三學期ハ翌年一月一日ヨリ三月三十一日ニ至ル

**第十條**　每日ノ教授始業ノ時刻ハ左ノ如シ

自四月一日　至　九月三十日　午前八時

自十月一日　至翌年三月三十一日　午前九時

**第十一條**　休業日ハ左ノ如シ

一、祝日　大祭日

二、日曜日

三、夏季休業日（自七月二十一日　至八月三十一日）

四、冬季休業日（自十二月二十五日　至翌年一月七日）

五、學年末休業日（自三月二十八日　至四月三日）

六、學校記念日

七、熱田祭日　東照宮祭日

**第十二條**　學校長ハ夏冬季休業ノ前後各十日以內ニ於テ每日ノ教授時數ヲ減スル事ヲ得

前項ニ依リ教授時數ヲ減シタル時ハ各教科目ノ每週教授時數ハ學校長之ヲ定ム

## 第四章　入學、退學及賞罰

**第十三條**　生徒ノ入學ハ每學年ノ始メトス但シ鍼灸按マッサージ科及乙種按摩科以外ノ學科ニ缺員アルトキハ臨時入學ヲ許スコトアルヘシ

**第十四條**　生徒ノ定員ハ盲、聾唖兩部ヲ通シテ三百名トス

**第十五條**　盲部初等部ニ入學シ得ヘキ者ハ年齡六年以上ニシテ心身ノ强健ナル者トシ中等部ノ豫科ニ入學シ得ヘキ者ハ年齡六年以上ニシテ尋常小學校ノ課程ヲ終リタル者又ハ之ニ準スヘキ者トシ但シ音樂科及乙種按摩科ニアリテハ初等部第四學年ノ等部豫科ヲ終リタルモノ若クハ之ニ準スヘキ者トス但シ音樂科及乙種按摩科ニアリテハ初等部ニ入學シ得ヘキ課程ヲ終リタル者若クハ之ニ準スヘキ者又ハ年齡凡十四年以上ニシテ點字ヲ讀ミ得ル者ヲ入學セシムルコトアルヘシ

聾唖部初等部ノ豫科ニ入學シ得ヘキ者ハ年齡六年以上ニシテ心身ノ强健ナル者トシ初等部ニ入學シ得ヘキ者ハ音器及視器ノ完全ニシテ初等部ノ豫科ヲ終リタル者又ハ之ニ準スヘキ者トシ中等部ニ入學シ得ヘキ者ハ初等部ヲ終リタル者又ハ之ニ準スヘキ者トス

**第十六條**　入學志願者ニシテ相當年齡ニ達シ相當ノ學力アリト認メタル者ハ第二學年以上ニ入學ヲ許シ又一學年ノ課程ヲ終了セサルモ其ノ學年ヲ進ムルコトヲ得但シ鍼灸按マッサージ科及乙種按摩科ニアリテハ左ノ例ニ依ルモノトス

一、鍼灸按マッサージ科第一學年ノ課程ヲ修了シタルモノハ乙種按摩科第二學年ニ編入スルコトヲ得

二、乙種按摩科第一學年ノ課程ヲ修了シタル者ハ試驗ノ上鍼灸按マッサージ科第二學年ニ編入スルコトヲ得

三、乙種按摩科ヲ卒業シタル者及內務省令ニ依ル按摩術試驗ニ合格シタルモノハ試驗ノ上鍼灸按マッサージ科第三學年ニ編入スルコトヲ得

**第十七條**　入學志願者ハ左式ノ願書及戶籍謄本ヲ差出スヘシ但シ乙種按摩科入學志願者ハ醫師ノ視力證明書ヲ添附スヘシ

### 入學願

私儀御校何部何科第何學年ニ入學致度候間別紙戶籍謄本履歷書相添此段相願候也

本籍地　府縣郡市町村字番地(戶)
現住地　府縣郡市町村字番地(戶)
族稱職業　戶主誰子弟
年月日　入學志願者　氏名

年月日生

本籍地　府縣郡市町村字番地(戶)
現住地　府縣郡市町村字番地(戶)
族稱職業
父(兄若クハ後見人)　氏名　㊞

名古屋市立盲唖學校長氏名殿

### 履歷書

本籍地　府縣郡市町村字番地(戶)
現住地　府縣郡市町村字番地(戶)
氏名
年月日生

一、何年何月ヨリ何年何月マデ何處何學校ニ於テ何科修業若クハ卒業(卒業生ニアリテハ卒業證書寫、在學者ニアリテハ當該學校長ノ卒業又ハ修業證明書ヲ添付スヘシ)

一、何年何月何日何縣ニ於テ何々營業免許鑑札ヲ受ク

一、何年何月ヨリ何年何月マデ何之誰(現住所職業)ニ就キ何々ヲ習得ス

一、何年何月何々ノ廉ニ依リ賞及罰ヲ受ク

一、失官ノ原因(病名等)失官ノ時期(年齡)及失官ノ程度ヲ明瞭ニ記載スルコト

右之通相違無之候也

年月日　右保證者　氏名　㊞

**第十八條**　入學ノ許可ヲ受ケタル者ハ十日以内ニ左式ノ在學證書ヲ差出スヘシ但シ保證人ハ名古屋市若クハ其附近ニ居住シ丁年以上ニシテ一家計ヲ立ツル者タルヘシ

三錢收入印紙

在學證書

私儀今般御校ヘ入學許可相成候ニ就テハ御規則等固ク相守リ濫ニ退學致間敷候仍テ證書如此候也

本籍地　府縣郡市町村字番地（戸）
現住地　府縣郡市町村字番地（戸）
族稱戸主誰子弟
氏　名　㊞
年月日生

名古屋市立盲唖學校長氏名殿

御規則總テ承認ノ上前記何之誰在學中ニ係ル一切ノ事件ハ拙者共引受可申候也

本籍地　府縣郡市町村字番地（戸）
現住地　府縣郡市町村字番地（戸）
族稱職業
正保證人　氏　名　㊞
年月日生

本籍地　府縣郡市町村字番地（戸）
現住地　府縣郡市町村字番地（戸）
族稱職業生徒トノ關係
副保證人　氏　名　㊞
年月日生

**第十九條**　保證人變更若クハ轉居改名シタルトキハ十日以内ニ學校長ニ届出ツヘシ



**第二十條**　生徒ハ病氣又ハ已ムヲ得サル事故アリテ遲刻若クハ缺席セントスルトキハ其事由ヲ記シ若シ病氣缺席一週間以上ニ亘ルトキハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ其旨學校長ニ届出ツヘシ

**第二十一條**　學校長ハ年齡十四年以上ノ生徒ニシテ成業ノ見込ナシト認メタルトキハ退學ヲ命シ又事由ナクシテ缺席六十日以上ニ及ヒタル者ハ除名スルコトヲ得

**第二十二條**　在學者ニシテ退學セントスルトキハ其保護者ヨリ事由ヲ具シテ學校長ニ願出ツヘシ但シ就學義務期間中ノ者ハ退學シ得ヘキ限リニアラス

**第二十三條**　操行方正ニシテ學業優等ナル者ニハ賞狀又ハ賞品ヲ授與シ尚學資ヲ補給スルコトアルヘシ

**第二十四條**　學校ノ規則及命令ニ違背シ又ハ生徒タルノ體面ヲ汚ス者ハ其ノ輕重ニ從ヒテ戒飭、謹愼、停學及放校處分ヲナスコトアルヘシ

## 第五章　進級、卒業

**第二十五條**　初等部ニ於テハ平素ノ學業竝ニ操行ヲ考査シテ適當ト認メタル者ニハ學年末ニ於テ進級又ハ卒業セシムヘシ

**第二十六條**　中等部ニ於テハ學期試驗及學年試驗ヲ行ヒ其成績ト平素ノ成績及操行トヲ參酌シテ平均六十點以上得點ノ者ヲ進級又ハ卒業セシムヘシ

成績ヲ判定スルニハ評點ヲ用ヒ各學科一百點ヲ以テ最高點トス

第三學期試驗ヲ以テ學年試驗ニ代フルコトアルヘシ中等部鍼灸按マツサージ科及乙種按摩科ニアリテハ所定教授時數ノ三分ノ二以上出席スルニアラサレハ進級又ハ卒業セシメサルヘシ

鍼灸按マツサージ科ノ第二學年ノ課程ヲ修了シタル者ニハ一學期補習ノ上乙種按摩科ノ卒業證書ヲ授與ス

ルコトヲ得

第二十七條　初等部又ハ中等部ノ卒業者ニハ左式ノ卒業證書ヲ授與ス但シ豫科卒業者ニハ之ヲ授與セス

卒業證書

| | |
|---|---|
| 族稱 | 氏　名 |
| | 年月日生 |

右者本校何部何科何ヶ年ノ課程ヲ卒業セリ仍テ之ヲ證ス

年　月　日

名古屋市立盲啞學校長位勳　氏　名　印

（割印）　番　號

校印

第六章　授業料及入學料

第二十八條　授業料ハ毎月金壹圓ヲ徴收ス但シ初等部豫科、初等部、中等部豫科、乙種按摩科及全月休業シタル者ハ之ヲ徴收セス

入學料ハ徴收セス

第二十九條　貧窮ノ爲メ授業料ヲ納ムルコト能ハサル者ニ對シテハ授業料ノ全部又ハ半額ヲ免除シ尚學用品費、通學費等ヲ補給スルコトアルヘシ

第三十條　授業料ハ豫メ指定シタル日ニ於テ之ヲ納附スヘシ但シ納附後ハ之ヲ返附スルコトナシ

第七章　研究科、選科及別科

第三十一條　中等部ヲ卒業シタル者又ハ之ニ準スヘキ者ニシテ更ニ進ンテ或學科目ヲ研究セント欲スル者ハ二ヶ年以内研究科生トシテ在學セシムルコトアルヘシ其學科課程及毎週教授時數ハ學校長之ヲ定ム

中等部中ノ或學科目ノミヲ學習セントスル者ハ選科生トシテ入學ヲ許可スルコトアルヘシ

第十五條ノ入學資格ナキ者ト雖モ別科生トシテ入學ヲ許可スルコトアルヘシ

研究科、選科及別科生ニ對シテハ特ニ規定セル者ノ外本校ノ規則ヲ準用ス

研究科、選科及別科ヲ卒ヘタル者ニハ左式ノ修了證書ヲ授與ス

修了證書

| | |
|---|---|
| 族稱 | 氏　名 |
| | 年月日生 |

右者本校何部別（研究、選）科ノ課程ヲ修了セシコトヲ證ス

年　月　日

名古屋市立盲啞學校長位勳　氏　名　印

（割印）　番　號

校印

第八章　寄宿舍

第三十二條　寄宿舍ニ入ラントスル者ハ正副保證人連署ヲ以テ願出ツヘシ

第三十三條　寄宿生ハ所要ノ經費ヲ負擔スヘシ但シ貧困者ニハ食費被服費等ヲ補給スルコトアルヘシ

第三十四條　已ムヲ得サル事故ニ依リ退舍セント欲スル者ハ正副保證人連署ヲ以テ願出ツヘシ

第九章　附則

第三十五條　本則ハ大正十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三十六條　本則ハ大正十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三十七條　心身強健ニシテ音器及視器ノ完全ナル年齢凡十歳以下ノ聾唖者ニ對シテハ口話式教育法ヲ採用スルモノトス

第一號表　盲部初等部課程及毎週教授時數表

| 學科目＼學年 | 第一學年 時數 | 第二學年 時數 | 第三學年 時數 | 第四學年 時數 | 第五學年 時數 | 第六學年 時數 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 修身 | 二 道德要旨 | 二 仝 | 二 仝 | 二 仝 | 二 仝 | 二 仝 |
| 國語 | 一〇 仝 發音、點字、單語、單句、單文ノ讀ミ方、綴リ方、書キ方、話シ方 | 一〇 仝 簡易ナル普通文ノ讀ミ方、書キ方、綴リ方、話シ方 | 九 仝 | 九 仝 | 九 仝 | 九 仝 |
| 算術 | 六 整數 | 六 整數、珠算 | 六 仝上、諸等數、珠算 | 六 分數、歩合算、珠算 | 六 仝上、小數、諸等數、珠算 | 六 仝上、整數、小數、諸等數、珠算 |
| 歴史 | 二 郷土歴史ノ大要 | 二 日本歴史ノ大要 | 二 仝 | 二 仝 | 二 仝 | 二 仝 |
| 地理 | 二 郷土地理ノ大要 | 二 日本地理ノ大要 | 二 仝上、外國地理ノ大要 | 二 仝上、人身生理ノ初歩 | 二 仝上、動物、植物、鑛物及自然現象ノ大要 | 二 仝上、通常ノ物理化學上ノ現象ノ大要 |
| 理科 | | | | | | |
| 手工、直觀 | 三 簡易ナル細工生活上須要ナル事物 | 三 仝 | 三 仝 | 三 仝 | 三 仝 | 三 仝 |
| 唱歌 | 二 單音唱歌 | 二 仝 | 二 仝 | 二 複音唱歌 | 二 仝 | 二 仝 |
| 體操 | 三 體操、遊戲 | 三 仝 | 三 仝 | 二 仝 | 二 仝 | 二 仝 |
| 計 | 三 | 二四 | 二六 | 二八 | 二九 | 二九 |

第二號表　盲部中等部豫科課程及毎週教授時數表

| 學科目＼學年 | 第一學年 時數 | 第二學年 時數 | 第三學年 時數 | 第四學年 時數 |
|---|---|---|---|---|
| 修身 | 二 道德ノ要旨、作法 | 一 生徒心得、道德ノ要領、作法 | 一 仝 | 一 仝 |
| 國語 | 八 發音、點字、普通ノ讀ミ方、書キ方、綴リ方、話シ方 | 六 仝上、單語、單句ノ讀ミ方、書キ方、綴リ方、話シ方 | 六 仝上、文章ノ讀ミ方、書キ方、綴リ方、話シ方 | 六 仝上、文章ノ讀ミ方、書キ方、綴リ方、話シ方 |
| 算術 | 四 整數、小數、諸等數、分數、歩合算ノ大要、珠算 | 四 仝上、比例、百分算、利息算、珠算 | 四 仝上、比例、百分算、利息算、珠算 | 四 仝上、比例、百分算、利息算、珠算 |
| 唱歌 | 二 單音唱歌、複音唱歌 | 二 仝 | 二 仝 | 二 仝 |
| 體操 | 二 體操、遊戲 | 二 仝 | 二 仝 | 二 仝 |
| 計 | 一八 | 二〇 | 二〇 | 二〇 |

第三號表　盲部中等部普通科課程及毎週教授時數表

| 學科目＼學年 | 第一學年 時數 | 第二學年 時數 | 第三學年 時數 | 第四學年 時數 |
|---|---|---|---|---|
| 修身 | 一 生徒心得、道德ノ要領、作法 | 一 仝 | 一 仝 | 一 仝 |
| 國語 | 六 講讀、作文、文法 | 六 仝 | 六 仝 | 六 仝 |
| 英語 | 六 發音、綴字、書キ方、讀ミ方、譯解、話方、書取、作文 | 六 仝 | 六 仝 | 六 仝 |
| 數學 | 五 | 五 | 五 | 五 |
| 歴史 | | | 二 | 二 |
| 地理 | | | 二 | 二 |
| 理科 | | | 二 | 二 |
| 法制及經濟 | | | | 二 |
| 體操 | 二 體操、遊戲 | 二 仝 | 二 仝 | 二 仝 |
| 計 | 二〇 | 二〇 | 二二 | 二二 |

| 學科目＼學年 | 第一學年 時數 | 第二學年 時數 | 第三學年 時數 | 第四學年 時數 | 第五學年 時數 | 第六學年 時數 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 數學 | 四 算術、珠算 | 四 算術、代數 | 四 代數、幾何 | 四 幾何 | 上 | |
| 歷史 | 二 日本歷史 | 二 外國歷史 | 二 外國歷史 | 上 | | |
| 地理 | 二 日本地理 | 二 外國地理 | 二 外國地理 | 二 上、地文 | | |
| 理科 | 三 博物 | 三 物理、化學 | 三 物理、化學 | 三 上 | | |
| 法制經濟 | | | 一 法制、經濟大意 | 一 上 | | |
| 音樂 | 三 樂典、單音唱歌、複音唱歌 | 三 上 | 三 上、樂器練習 | 三 上 | | |
| 體操 | 三 體操、遊戲 | 三 上 | 三 上 | 三 上 | | |
| 計 | 三〇 | 三〇 | 三〇 | 三〇 | | |

第四號表　盲部中等部音樂科課程及每週教授時數表

| 學科目＼學年 | 第一學年 時數 | 第二學年 時數 | 第三學年 時數 | 第四學年 時數 | 第五學年 時數 | 第六學年 時數 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 修身 | 二 生徒心得、道德ノ要領、作法 | 二 上 | 一 上 | 一 上、敎育ニ關スル勅語 | 一 上、戊申詔書國民精神作興詔書 | 二 上、我國道德ノ特質 |
| 國語 | 七 普通文ノ讀方書方、假名遣方話方 | 七 上 | 五 上 | 五 上 | 五 上 | 六 和歌 |
| 英語 | | 二 發音、綴字、讀方、譯解、書取 | 二 上 | 二 上 | 二 上 | |
| 算術 | 四 整數、小數、諸等數、珠算 | 四 分數、歩合算、珠算 | | | | |





| 學科目＼學年 | 第一學年 時數 | 第二學年 時數 | 第三學年 時數 | 第四學年 時數 |
|---|---|---|---|---|
| 歷史、地理 | 三 日本歷史地理ノ大要 | 三 上 | 三 外國歷史外國地理 | 三 上 |
| 理科 | 二 博物ノ大要 | 二 上、物理化學ノ大要 | 三 物理、化學 | 三 上 |
| 樂典、音學史 | 一 樂典ノ大要 | 一 上 | 二 音樂史ノ大要 | 二 上 |
| 箏、三絃 | 二四 表組 | 二四 裏組 | 一九 中組 | 一九 上 |
| 聲樂 | 二 單音唱歌複音唱歌 | 二 上 | 三 樂器練習 | 三 上 |
| 體操 | 二 體操、遊戲 | 二 上 | 二 上 | 二 上 |
| 計 | 三七 | 三七 | 三七 | 三七 |

備考　英語ハ隨意科トス
聲學科樂器練習ハ隨意科トシテピアノ、オルガン、ヴアイオリンヲ選フモノトス

第五號表　盲部中等部鍼灸按マッサージ科課程及每週教授時數表

| 學科目＼學年 | 第一學年 時數 | 第二學年 時數 | 第三學年 時數 | 第四學年 時數 |
|---|---|---|---|---|
| 修身 | 一 生徒心得、道德ノ要領作法 | 一 上 | 一 上、戊申詔書國民精神作興詔書 | 二 上、我國道德ノ特質 |
| 國語 | 五 講讀、作文、文法 | 五 上 | 五 上 | 五 上 |
| 英語 | 二 發音、綴字、讀方、譯解、書取 | 二 上 | 二 上 | 二 上 |
| 數學 | 三 算術、珠算 | 三 代數、幾何 | 二 幾何 | 三 上 |

| 學科目＼學年 | 時數 |
|---|---|
| 歷史地理 | |
| 理科 | 三 |
| 解剖及生理 | 七 |
| 病理診斷及衛生 | |
| 鍼術 | 四 |
| 灸術 | |
| 按摩術 | 八 |
| マシサージ術 | |
| 音樂 | 二 |
| 體操 | 二 |
| 計 | 三七 |

備考　英語ハ隨意科トス

第六號表　盲部中等部乙種按摩科課程及每週教授時數表

| 學科目＼學年 | 時數 第一學年 | 時數 第二學年 |
|---|---|---|
| 修身 | 二 | 一 |

道德ノ要旨、作法

| 學科目＼學年 | 時數 第一學年 | 時數 第二學年 | 時數 第三學年 |
|---|---|---|---|
| 外國地理歷史 | 三 | 三 | 三 |
| 理科 | 三 | | |
| 解剖及生理 | 七 | | |
| 病理診斷及衛生 | | | 六 |
| 鍼術 | 四 | | |
| 灸術 | | | |
| 按摩術 | 八 | | |
| マシサージ術 | | | |
| 音樂 | 二 | | |
| 體操 | 二 | | |
| 計 | 三七 | 三七 | 三八 |

外國地理歷史　三全　上
理科　三全　上
解剖及生理　七全　上
病理診斷及衛生　六全　上
鍼術　四全　上
灸術　一全　上
按摩術　八全　上
マシサージ術　四全　上
音樂　二全　上
體操　二全　上
計　三七　三七　三八

外國地理歷史　三全　上
地文　三全　上
解剖ノ大要　六全　上
病理ノ大要　八全　上
診斷及衛生ノ大要　八全　上
鍼術應用　四全　上
灸術應用　一全　上
按摩術應用　八全　上
マッサージ術應用　四全　上
器械練習　二全　上
計　三七　三七　三八





第七號表　聾唖部初等部豫科課程及每週教授時數表

| 學科目＼學年 | 時數 第一學年 | 時數 第二學年 | 時數 第三學年 |
|---|---|---|---|
| 國語 | 三 | 三 | 三 |
| 算術 | 二 | 二 | 二 |
| 解剖及生理 | 五 | 三 | 二 |
| 病理及衛生 | | | |
| 按摩術 | 六 | 六 | 六 |
| 體操 | 一 | 一 | 一 |
| 計 | 一八 | 一八 | 一八 |

| 學科目＼學年 | 時數 第一學年 | 時數 第二學年 | 時數 第三學年 |
|---|---|---|---|
| 作法 | 一 | 一 | 一 |
| 國語 | 一五 | 一六 | 一七 |
| 感覺練習 | 二 | 二 | 二 |
| 算術 | 三 | 三 | 三 |
| 圖畫手工 | 一 | 二 | 二 |
| 遊戲 | 二 | 三 | 三 |
| 計 | 二四 | 二七 | 二七 |

國語　三全　上
算術　二全　上
解剖及生理　五全　上
病理及衛生
按摩術　六全　上
體操　一全　上
計　一八　一八　一八

作法　一全　上
國語　一五全　上、並ニ片假名ノ讀ミ書キ、會話ノ初歩
感覺練習　二全　上
算術　三全　上、並ニ十以下ノ數ノ加減
圖畫手工　一全　上、並ニ簡易ナル形態並ニ簡易ナル細工
遊戲　二全　上
計　二四全　上

作法　一全　上
國語　一六全　上、並ニ片假名ノ讀ミ書キ、會話ノ初歩
感覺練習　二全　上
算術　三全　上、並ニ十以下ノ數ノ加減
圖畫手工　二全　上
遊戲　三全　上
計　二七全　上

作法　一全　上
國語　一七全　上、並ニ簡易ナル話シ方
感覺練習　二全　上
算術　三全　上、並ニ加減乘除
圖畫手工　二全　上
遊戲　三全　上
計　二七全　上

## 第八號表　豐陸部初等部課程及每週教授時數表

| 學科目＼學年 | 第一學年 時數 | 第二學年 時數 | 第三學年 時數 | 第四學年 時數 | 第五學年 時數 | 第六學年 時數 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 修身 | 二 | 道德ノ要旨 二 | 全上 二 | 全上 二 | 全上 二 | 全上 二 |
| 國語 | 一五 | 發音會話筆談日常須知ノ文字簡易ナル普通文ノ讀ミ方書キ方 一五 | 全上 一五 | 全上 一五 | 全上 一四 | 全上 一三 |
| 算術 | 四 | 整數 五 | 全上 五 | 整數、珠算 五 | 整數、小數、珠算 四 | 整數、小數、分數、歩合算、珠算 四 |
| 歷史地理 | | | | 鄉土誌ノ大要 一 | 日本歷史及地理ノ大要 四 | 全上、通常ノ物理化學現象ノ大要 二 |
| 理科 | | | | | | 同上、人身生理衛生ノ大要 二 |
| 圖畫 | | 簡單ナル形體 二 | 全上 二 | 全上 二 | 全上 二 | 全上 二 |
| 手工 | | 簡易ナル細工 二 | 全上 二 | 全上 二 | 全上 二 | 全上 二 |
| 裁縫 | | | | | | |
| 體操 | | 遊戲 二 | 體操遊戲 二 | 全上 二 | 全上 二 | 全上 二 |
| 計 | 二七 | 二八 | 二八 | 三〇 | 三〇 | 三〇 |

## 第九號表　豐陸部中等部普通科課程及每週教授時數表

| 學科目＼學年 | 第一學年 時數 | 第二學年 時數 | 第三學年 時數 | 第四學年 時數 | 第五學年 時數 |
|---|---|---|---|---|---|
| 修身 | 生徒心得、道德ノ要領、作法 二 | 全上、教育ニ關スル勅語 二 | 全上、國民精神作興詔書、戊申詔書 二 | 全上、我國道德ノ特質 二 | 全上 二 |
| 國語 | 發音、會話、談話、講讀、作文 三 | 全上 三 | 全上、文法 三 | 全上 三 | 全上 三 |
| 數學 | 算術、珠算 四 | 全上 四 | 代數、幾何 四 | 全上 四 | 全上 四 |
| 歷史、地理 | 日本歷史、日本地理 三 | 全上 三 | 外國歷史、日本地理 三 | 全上 三 | 地文補習 二 |
| 理科 | 博物 二 | 全上 二 | 物理 二 | 化學、物理 二 | 全上 二 |
| 圖畫 | 自在畫 男五 女二 | 全上 男五 女二 | 用器畫 男五 女二 | 全上 男五 女一 | 自在畫、圖案 男五 女一 |
| 體操 | 體操、遊戲 二 | 全上 二 | 全上 男二 女二 | 全上 男二 女一 | 全上 男二 女一 |
| 家事 | | | | 衣食住 女三 | 育兒及家庭教育、養老、經濟、割烹 女三 |
| 裁縫 | 女 運針縫ヒ方、裁チ方 四 | 女 全上 四 | 女 上 四 | 女 全上、ミシン使用法 四 | 女 上 四 |
| 計 | 男三〇 女三〇 三二 | 男三〇 女三〇 三二 | 男三〇 女三〇 三二 | 男三〇 女三〇 三二 | 女 全上、刺繍 五 |

## 第十號表　豐陸部中等部圖畫科課程及每週教授時數表

| 學科目＼學年 | 第一學年 時數 | 第二學年 時數 | 第三學年 時數 | 第四學年 時數 | 第五學年 時數 |
|---|---|---|---|---|---|
| 修身 | 生徒心得、道德ノ要領、作法 二 | 全上、教育ニ關スル勅語 二 | 全上、戊申詔書國民精神作興詔書 二 | 全上、我國道德ノ特質 二 | 全上 二 |
| 國語 | 發音、會話、談話、講讀、作文 三 | 全上 三 | 全上、文法 三 | 全上 三 | 全上 三 |
| 發聲法 | 大要 上 三 | 全上 三 | 全上 三 | 全上 三 | 全上 三 |

| 學年 / 學科目 | 時數 | 第一學年 | 時數 | 第二學年 | 時數 | 第三學年 | 時數 | 第四學年 | 時數 | 第五學年 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 算術 | 二 | 整數、小數 | 二 | 諸等數、分數 | 一 | 復習、珠算 | | | | |
| 理科 | 二 | 博物 | 二全 | 物理、化學 | 二全 | | 上 | | 上 | |
| 圖畫 | 一九 | 臨畫寫生考案畫 | 一九全上 | 幾何畫圖案、投影畫 | 上三全 | 透視畫 | 上三全 | | 上 | |
| 體操 | 一 | 體操、遊戲 | 一全 | | 上二全 | | 上二全 | | 上 | |
| 計 | 三八 | | 三八 | | 三八 | | 三八 | | 三八 | |

## 第十一號表　豐陸部中等部裁縫科課程及每週教授時數表

| 學年 / 學科目 | 時數 | 第一學年 | 時數 | 第二學年 | 時數 | 第三學年 | 時數 | 第四學年 | 時數 | 第五學年 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 修身 | 二 | 生徒心得、道德ノ要領、作法 | 二 | 全教育ニ關スル勅語 | 上 | 全上、戊申詔書國民精神作興詔書 | 二 | 全上、我國道德ノ特質 | 二全 | 上 |
| 國語 | 三 | 發音、會話、談話、講讀、作文 | 三 | 全發聲法ノ大要 | 上三全 | | | | | |
| 算術 | 二 | 整數、小數 | 二 | 諸等數、分數 | 一 | 復習、珠算 | | | | |
| 理科 | 二 | 博物 | 二全 | 物理、化學 | 一全 | | 上一全 | | 上 | |
| 裁縫及刺繍 | 一八 | 衣類ノ裁チ方縫ヒ方繕ヒ方 | 一八 | 全上、刺繍 | 一八全 | | 上一八全 | | 上 | |
| 家事 | | | | | | 衣食住 | 三 | 育兒及家庭教育養老、經濟、割烹 | 二全 | 上 |
| 圖畫 | 一 | 自在畫 | 一全 | | 上一全 | | 上一全 | | 上 | |
| 體操 | 一 | 體操、遊戲 | 一全 | | 上一全 | | 上一全 | | 上 | |
| 計 | 三八 | | 三八 | | 三八 | | 三八 | | 三八 | |





| 學年 / 學科目 | 時數 | 第一學年 | 時數 | 第二學年 | 時數 | 第三學年 | 時數 | 第四學年 | 時數 | 第五學年 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 體操 | 一 | 體操、遊戲 | 一全 | | 上一全 | | 上一全 | | 上 | |
| 計 | 三八 | | 三八 | | 三八 | | 三八 | | 三八 | |

## 第十二號表　豐陸部中等部家具科課程及每週教授時數表

| 學年 / 學科目 | 時數 | 第一學年 | 時數 | 第二學年 | 時數 | 第三學年 | 時數 | 第四學年 | 時數 | 第五學年 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 修身 | 二 | 生徒心得、道德ノ要領、作法 | 二 | 全教育ニ關スル勅語 | 上 | 全上、戊申詔書國民精神作興詔書 | 二 | 全上、我國道德ノ特質 | 二全 | 上 |
| 國語 | 三 | 發音、會話、談話、講讀、作文 | 三 | 全發聲法ノ大要 | 上三全 | | | | | |
| 算術 | 二 | 整數、小數 | 二 | 諸等數、分數 | 二 | 步合算、比例 | 一 | 復習、珠算 | | |
| 理科 | 二 | 博物 | 二全 | 物理、化學 | 一全 | | 上一全 | | 上 | |
| 家具 | 一八 | 工具ノ名稱及使用法、簡易ナル製圖 | 一八 | 簡易ナル家具ノ製圖及製作 | 一八全 | 一般家具ノ製圖及製作 | 一九 | 全上、着色法 | 二〇全 | 上 |
| 圖畫 | 二 | 自在畫 | 一全 | | 上二全 | | 上二全 | | 上 | |
| 體操 | 一 | 體操、遊戲 | 二全 | | 上一全 | | 上一全 | | 上 | |
| 計 | 三八 | | 三八 | | 三八 | | 三八 | | 三八 | |

# 市立第一、二、三幼稚園規則

明治二十五年三月一日

改正　大正四年七月
改正　大正十五年四月一日

第一條　本園ハ幼兒ヲシテ嬉戲歡樂ノ中ニ其心身ノ健全ナル發育ヲ遂ケ善良ナル習慣ヲ得セシメ以テ家庭教育ヲ補フ所トス

第二條　幼兒ノ年齡ハ滿三年以上小學校入學時迄トス

第三條　本園幼兒ノ定員ハ大約二百人トス

第四條　保育ノ課目ハ談話、手技、唱歌遊嬉トス

第五條　一ケ年ノ保育日數ハ大約四十週ニシテ一週ノ保育時數ハ十九時乃至二十二時トス但シ夏期休業前後ハ暑熱ノ都合ニ依リ各組トモ一週保育時數ヲ十五時マテ減縮スルコトアルヘシ

第六條　休業日ハ左ノ如シ

日曜日
祝日、大祭日
本園創立記念日　三月一日
東照宮祭日　四月十七日
熱田神宮祭日　六月二十一日
皇后陛下御誕辰　三月六日
夏期休業　七月二十一日ヨリ九月十日マテ
冬期休業　十二月廿五日ヨリ翌年一月七日マテ
春期休業　三月二十五日ヨリ三月三十一日マテ

第七條　入園ノ時期ハ豫メ之ヲ定メス缺員アル毎ニコレヲ許ス

第八條　入園ヲ願フ者ハ本人ノ族籍姓名生年月日及父母若クハ後見人ノ住所氏名ヲ詳記シタル左式ノ願書ヲ出スヘシ

入園願

（本籍）何府縣何町村何番戸
（寄留）……
族籍職業何某何男女

何　某
生年月日

右者貴園ニ入園爲致度此段相願候也

右父母後見人

年　月　日　何　某　㊞

名古屋市立第一幼稚園長宛

第九條　入園願ト同時ニ左式ノ經歷書ヲ差出スヘシ

## 經歷書

幼兒　何　某

一出生年月日
一營養品（實母或ハ乳婦ノ乳、牛乳、人乳牛乳混用等）
一痘瘡或ハ種痘ノ濟否
一生來著シキ疾病ニ罹リシコトノ有無及病名病狀等
一兩親ノ年齡及健否
一兄弟姉妹ノ數及受健否
其他特別ノ事情
右之通御座候也

年　月　日　　右父母後見人　何　某　㊞

第十條　幼兒ノ缺席一週間ニ及フトキハ其事由ヲ屆ケ出ツヘシ但シ若シ傳染病ニ罹リシトキハ直ニ其病狀ヲ屆出ツヘシ

第十一條　退園セントスルモノハ其理由ヲ書シ屆出ツヘシ

第十二條　保育料ハ一ヶ月金貳圓トス

第十三條　保育料ハ幼兒出席ノ有無ニ拘ラス納付スヘキモノトス但シ夏期休業滿一ヶ月及本園ノ都合ニ依リ滿一ヶ月間全ク休業スルトキハ其月分ノ保育料ヲ徵セス

第十四條　六ヶ月以上保育ヲウケタルモノニシテ保育證明書ヲ望ム者ニハ左ノ證書ヲ授與ス

番號

證

族籍何某何男女

何　某　生年月日

右者本園ニ於テ何年何月ヨリ何年何月マテ何月間保育シタルヲ以テ玆ニ之ヲ證ス

年　月　日

名古屋市立第一幼稚園長

附則

附添人心得

一　附添人ハ幼兒ノ往復ヲ看護スルヲ主トシ保育時間中ハ保姆長ノ指揮ニ非サレハ幼兒ニ關係スヘカラス
二　附添人ハ保育時間中開誘室ニ出入セス所定ノ場所ニ控ヘ居ルヘシ
三　附添人ハ保姆ノ命令ヲ遵守スルハ勿論控席ニアリテ動作ヲ正シ高談雜話等スヘカラス

# 名古屋市　青年訓練所規則

大正十五年六月三十日
告示第七十四號

## 第一章　目的名稱及訓練期間

**第一條**　本訓練所ハ青年訓練所令ニ依リ青年ノ心身ヲ鍛錬シテ國民タルノ資質ヲ向上セシムルヲ目的トス

**第二條**　本訓練所ハ名古屋市　青年訓練所ト稱シ名古屋市　小學校（實業補習學校）ニ併置ス

**第三條**　訓練期間ハ四箇年トス

## 第二章　訓練項目、訓練季節及時數

**第四條**　訓練項目ハ修身及公民科、教練、普通學科及職業科トス

**第五條**　訓練時數ハ四箇年ヲ通シテ修身及公民科百時、教練四百時、普通學科二百時、職業科百時ヲ下ラサルモノトス

**第六條**　訓練項目ノ課程左表ノ如シ

| 項目及科目 | 時數 | 第一年次 時數 | 第二年次 時數 | 第三年次 時數 | 第四年次 時數 |
|---|---|---|---|---|---|
| 修身及公民科 | 二五 | 道德ノ要旨　二五 | 同上 | 同上 | 同上 |
| | | 公民心得 | 同上、地方自治制度ヲ主トス | 同上、帝國憲法大意ヲ主トス | 同上、社會問題ヲ主トス |
| 教練 | 一〇〇 | 各個教練　部隊教練　陣中教練　距離測量　信號　旗話　事講 一〇〇 | 同上 一〇〇 | 同上 一〇〇 | 同上 一〇〇 |

## 附記

一、職業科目ハ其ノ一ヲ選ミ履修セシム

二、左記ノ各項ハ主事ニ於テ之ヲ定メ管理者ノ許可ヲ受クヘシ

1、普通學科中各分科教授時數ノ配當

2、職業科目中各分科教授事項ノ選定

3、訓練實施ノ季節及訓練日時ニ關スル事項

| 普通學科 | 國語 | 一五 | 普通文ノ讀讀作文 | 一五 | 同上 | 一五 | 同上 | 一五 | 同上 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 數學 | 一〇 | 算術（筆珠併用） | 一〇 | 同上（暗記） | 一〇 | 同上 | 一〇 | 同上 |
| | 歷史及地理 | 一五 | 日本歷史（補）日本地理（習） | 一五 | 東洋史（大綱）滿洲支那地理（要） | 一五 | 西洋史（大綱）世界地理（要） | 一五 | 日本（近世史）外國（大勢）世界大勢 |
| | 科學 | 一〇 | 自然科學ト人生 | 一〇 | 生理、衛生、疾病急救 | 一〇 | 應用物理學 | 一〇 | 同上 |
| | 科目 | 二〇〇 | | 二〇〇 | | 二〇〇 | | 二〇〇 | |
| 職業（商業） | （農業） | 二五 | 作物　蔬菜　病虫害 | 二五 | 作物　養蠶　養鯉　養魚　果樹　養禽　養豚　造林　畜産　土壤　肥料　農具 | 二五 | 農業經濟　農業法規　農具製造 | 二五 | 農業法規　農業經濟 |
| | （商業） | 二五 | 商業大意 | 二五 | 商廣　品告　賣買　取引 | 二五 | 銀行　保險 | 二五 | 商業法規　商業道德 |
| | （工業） | 二五 | 工業大意 | 二五 | 紡織　染色　製圖　意匠　釀造　燕業 | 二五 | 建築　機械　電氣 | 二五 | 工場法規　工場管理　工場衛生 |
| | 科目 | 二〇〇 | | 二〇〇 | | 二〇〇 | | 二〇〇 | |
| 合計 | | 二〇〇 | | 二〇〇 | | 二〇〇 | | 二〇〇 | |

第七條　現ニ學校ニ在學スル者若クハ相當學力アリト認メラレタル者又ハ特別ノ事由アル者ニ對シテハ一部ノ訓練項目ヲ課セサルコトアルヘシ

第八條　本訓練所ノ訓練ハ一月ニ始リ十二月ニ終ル

## 第三章　入所、退所、修了及費用

第九條　本訓練所ノ入所期ハ毎年一月トス但シ已ムヲ得サル事情アリト認メタル時ハ中途之ヲ入所セシムルコトアルヘシ

第十條　本訓練所ニ入所スルコトヲ得ル者ハ前年十一月三十日ニ於テ十六歳以上十七歳未滿ノ者トス但シ已ムヲ得サル事情アリト認メタル者ハ十七歳以上ニシテ入所セシムルコトアルヘシ

第十一條　本訓練所ニ入所セムトスル者ハ入所願（別記第一號樣式）ニ履歷書（別記第二號樣式）ヲ添ヘ本訓練所主事ニ差出スヘシ

第十二條　本訓練所ニ入所シタル者ニハ所定ノ青年訓練手帳ヲ所持セシム

第十三條　他ノ青年訓練所ヨリ轉所シタル者ハ訓練所主事ニ青年訓練手帳ヲ提示スヘシ

第十四條　本訓練所ヲ退所セムトスル時ハ其ノ事由ヲ述ヘ且ツ青年訓練手帳ヲ提出シ出席時數其他必要ナル事項ノ記入證明ヲ受クヘシ

第十五條　訓練ヲ受クル者又ハ保證人ニシテ居住所身分等ニ變更ヲ生シタル時ハ其都度屆出ツヘシ

第十六條　所定ノ課程ヲ修了シタル者ニハ修了證（別記第三號樣式）ヲ授與ス

第十七條　本訓練所主事ハ必要ニ應シ訓練ヲ受クル者ニ對シテ賞罰ヲ加フルコトアルヘシ

第十八條　本訓練所ニ於テハ訓練ヲ受クル者ヨリ費用ヲ徵收セス



## 第四章　附　則

第十九條　本則施行ニ關シ必要ナル細則ハ主事之ヲ定ム

第二十條　大正十五年七月一日迄ニ入所シタル者ニ對シテハ同年十二月迄ニ課スヘキ訓練項目ノ總時數ハ百五十時ヲ下ラサルモノトス但シ教練時數ハ百時以上トス

第一號樣式

青年訓練入所願

私儀貴所ニ入所仕度別紙履歷書相添ヘ保證人連署ヲ以テ此段出願候也

大正　年　月　日

本籍　道府縣何郡（市）何村（町）大字何、何番地
現住所　名古屋市何區何町何丁目何番地（戶）何某方
族籍　職業、戶主又ハ戶主何ノ誰何男兄弟等
入所者　氏　名　㊞　生年月日
電話　局　番

保證人　氏　名　㊞　生年月日
電話　局　番

本籍　道府縣何郡（市）何村（町）大字何、何番地
現住所　名古屋市何區何町何丁目何番地
右父母又ハ後見人（本人トノ續柄）又ハ雇傭主等

名古屋市何々青年訓練所　主事　何　某殿

第二號樣式

## 履歷書

| | | | |
|---|---|---|---|
| 本籍 | (府)縣 郡 市 村 町 | | |
| 現住所 | 愛知縣名古屋市 區 町 番地 戶 | | |
| 保證人トノ關係 | | (名) | 番地 戶 |
| 事由 | 年月日 | 事由 | 年月日 |
| 學歷 | 年月日 | 學校其他 | 年月日生 |
| | 年月日 | | |
| | 年月日 事由 | 官公衙、會社、銀行、商店 | |
| 職業其他 | 年月日 | | |
| | 年月日 | | |
| 備考 | | | |

右之通相違無之候也

大正　年　月　日　右



第三號樣式

## 修了證原籍

青年訓練所印

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | 氏名 | |
| | | 生年月日 | |

右者本所ニ於テ所定ノ課程ヲ修了セリ仍ツテ之ヲ證ス

年　月　日　何々青年訓練所　主事　氏名　㊞

割印

第　號

## 名稱位置及職業科目

| | | | |
|---|---|---|---|
| 名古屋市山口青年訓練所 | 東區前ノ町 | 名古屋市山口尋常小學校併置 | 商業 |
| 同 | 筒井青年訓練所 | 同　筒井商工實修學校併置 | 商工業 |
| 同 | 東新青年訓練所 | 同　東新尋常小學校併置 | 商業 |
| 同 | 高岳青年訓練所 | 同　高岳尋常小學校併置 | 同 |
| 同 | 葵青年訓練所 | 同　葵尋常小學校併置 | 同 |
| 同 | 白壁青年訓練所 | 同　白壁尋常小學校併置 | 同 |
| 同 | 久屋青年訓練所 | 同　久屋尋常小學校併置 | 同 |
| 同 | 池內青年訓練所 | 同　池內尋常小學校併置 | 同 |
| 同 | 上野青年訓練所 | 同　上野尋常小學校併置 | 同 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 名古屋市千種 | 青年訓練所 | 東區千種町 | |
| 同 | 田代青年訓練所 | 東區田代町 | |
| 同 | 清水青年訓練所 | 東區北清水町 | |
| 同 | 六郷青年訓練所 | 東區東大曾根町 | |
| 同 | 棣棠青年訓練所 | 東區檀木町二丁目 | |
| 同 | 古新青年訓練所 | 東區新出來町四丁目 | |
| 同 | 東白壁青年訓練所 | 東區白壁町四丁目 | |
| 同 | 八重青年訓練所 | 東區東本重町 | |
| 同 | 大成青年訓練所 | 東區南外堀町十丁目 | |
| 同 | 布池青年訓練所 | 東區布池町 | |
| 同 | 菅原青年訓練所 | 西區菅原町一丁目 | |
| 同 | 明倫青年訓練所 | 西區長島町一丁目 | |
| 同 | 園町青年訓練所 | 西區下園町三丁目 | |
| 同 | 七町青年訓練所 | 西區皆戸町三丁目 | |
| 同 | 共立青年訓練所 | 西區西柳町 | |
| 同 | 幅下青年訓練所 | 西區枝郷町 | |
| 同 | 青年訓練所 | 西區櫻木町一丁目 | |
| 同 | 上宿青年訓練所 | 西區前ノ川町 | |
| 同 | 那古野青年訓練所 | 西區那古野町 | |
| 同 | 中村青年訓練所 | 西區中村町 | |
| 同 | 枇杷島青年訓練所 | 西區枇杷島町 | |
| 同 | 金城青年訓練所 | 西區田幡町 | |
| 同 | 花ノ木青年訓練所 | 西區臺所町 | |
| 同 | 廣井青年訓練所 | 西區堀内町一丁目 | |
| 同 | 俵青年訓練所 | 西區俵町一丁目 | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 名古屋市千種商業實修學校併置 | 商業 | | |
| 同 | 田代尋常高等小學校併置 | 同 | |
| 同 | 清水尋常高等小學校併置 | 同 | |
| 同 | 六郷尋常高等小學校併置 | 同 | |
| 同 | 棣棠尋常高等小學校併置 | 同 | |
| 同 | 古新尋常高等小學校併置 | 同 | |
| 同 | 東白壁尋常高等小學校併置 | 同 | |
| 同 | 八重商業補習學校併置 | 同 | |
| 同 | 大成尋常高等小學校併置 | 同 | |
| 同 | 工業補習學校併置 | 工業 | |
| 同 | 菅原尋常小學校併置 | 商業 | |
| 同 | 明倫尋常小學校併置 | 同 | |
| 同 | 園町尋常小學校併置 | 同 | |
| 同 | 七町尋常小學校併置 | 同 | |
| 同 | 共立尋常小學校併置 | 同 | |
| 同 | 幅下尋常小學校併置 | 同 | |
| 同 | 極尋常小學校併置 | 同 | |
| 同 | 上宿尋常小學校併置 | 同 | |
| 同 | 那古野商業實修學校併置 | 商工業 | |
| 同 | 中村商業實修學校併置 | 商業 | |
| 同 | 枇杷島商業實修學校併置 | 同 | |
| 同 | 金城尋常小學校併置 | 同 | |
| 同 | 花木尋常高等小學校併置 | 同 | |
| 同 | 廣井尋常高等小學校併置 | 同 | |
| 同 | 俵商工實修學校併置 | 商工業 | |





| | | | |
|---|---|---|---|
| 同 | 南押切青年訓練所 | 西區南押切町字十二島 | |
| 同 | 江西青年訓練所 | 西區西畷下町 | |
| 同 | 新道青年訓練所 | 西區新道町四丁目 | |
| 同 | 則武青年訓練所 | 西區則武町 | |
| 同 | 下奥青年訓練所 | 中區下奥田町 | |
| 同 | 三歲青年訓練所 | 中區中ノ町三丁目 | |
| 同 | 正木青年訓練所 | 中區正木町 | |
| 同 | 日新青年訓練所 | 中區下日置町 | |
| 同 | 大井青年訓練所 | 中區大井町 | |
| 同 | 南久屋青年訓練所 | 中區南久屋町 | |
| 同 | 波寄青年訓練所 | 中區流川町 | |
| 同 | 米野青年訓練所 | 中區米野町 | |
| 同 | 六反青年訓練所 | 中區西日置町字六反田 | |
| 同 | 露橋青年訓練所 | 中區露橋町 | |
| 同 | 猿子青年訓練所 | 中區西日置町字猿子 | |
| 同 | 小針青年訓練所 | 中區御器所町字小針 | |
| 同 | 千早青年訓練所 | 中區千早町 | |
| 同 | 小川青年訓練所 | 中區東瓦町 | |
| 同 | 常磐青年訓練所 | 中區小本町 | |
| 同 | 御器所青年訓練所 | 中區御器所町 | |
| 同 | 廣路青年訓練所 | 中區廣路町 | |
| 同 | 白川青年訓練所 | 中區橫三歲町 | |
| 同 | 日置青年訓練所 | 中區葛町 | |
| 同 | 橘青年訓練所 | 中區下前津町 | |
| 同 | 古渡青年訓練所 | 中區古渡町二丁目 | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 同 | 南押切尋常高等小學校併置 | 商業 | |
| 同 | 江西尋常高等小學校併置 | 同 | |
| 同 | 新道尋常高等小學校併置 | 同 | |
| 同 | 則武商工實修學校併置 | 同 | |
| 同 | 下奥尋常小學校併置 | 同 | |
| 同 | 三歲商業實修學校併置 | 同 | |
| 同 | 正木尋常小學校併置 | 同 | |
| 同 | 日新尋常小學校併置 | 同 | |
| 同 | 大井尋常小學校併置 | 同 | |
| 同 | 南久屋尋常小學校併置 | 同 | |
| 同 | 波寄尋常小學校併置 | 同 | |
| 同 | 米野尋常小學校併置 | 同 | |
| 同 | 六反尋常小學校併置 | 同 | |
| 同 | 露橋尋常小學校併置 | 同 | |
| 同 | 猿子尋常小學校併置 | 同 | |
| 同 | 小針尋常小學校併置 | 同 | |
| 同 | 千早尋常小學校併置 | 同 | |
| 同 | 小川尋常高等小學校併置 | 同 | |
| 同 | 常盤農業實習學校併置 | 農商業 | |
| 同 | 御器所尋常高等小學校併置 | 商業 | |
| 同 | 廣路尋常高等小學校併置 | 同 | |
| 同 | 白川尋常高等小學校併置 | 同 | |
| 同 | 日置尋常高等小學校併置 | 同 | |
| 同 | 橘尋常高等小學校併置 | 同 | |
| 同 | 古渡商工實修學校併置 | 商工業 | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 名古屋市紫川青年訓練所 | 中區中之町三丁目 | 名古屋市紫川尋常高等小學校併置 | 商業 |
| 同　松元青年訓練所 | 中區松元町一丁目 | 同　松元尋常高等小學校併置 | 同 |
| 同　前津青年訓練所 | 中區西川端町 | 同　前津商業實修學校併置 | 同 |
| 同　笹島青年訓練所 | 中區笹島町 | 同　笹島尋常高等小學校併置 | 同 |
| 同　門前青年訓練所 | 中區岩井町 | 同　門前尋常高等小學校併置 | 同 |
| 同　松枝青年訓練所 | 中區松枝町三丁目 | 同　松枝尋常高等小學校併置 | 同 |
| 同　神戸青年訓練所 | 南區神戸町 | 同　神戸尋常小學校併置 | 同 |
| 同　高藏青年訓練所 | 南區熱田東町 | 同　高藏尋常小學校併置 | 同 |
| 同　旗屋青年訓練所 | 南區熱田東町字夜寒 | 同　旗屋尋常小學校併置 | 同 |
| 同　中川青年訓練所 | 南區熱田前新田 | 同　中川尋常小學校併置 | 同 |
| 同　傳馬青年訓練所 | 南區熱田傳馬町 | 同　傳馬尋常小學校併置 | 同 |
| 同　彌富青年訓練所 | 南區彌富町 | 同　彌富農業實習學校併置 | 農商業 |
| 同　森後青年訓練所 | 南區熱田東町字森後 | 同　森後尋常小學校併置 | 商業 |
| 同　八熊青年訓練所 | 南區八熊町 | 同　八熊尋常小學校併置 | 同 |
| 同　八幡青年訓練所 | 南區野立町 | 同　八幡商業實修學校併置 | 同 |
| 同　荒子青年訓練所 | 南區中郷町 | 同　荒子農業實修學校併置 | 農商業 |
| 同　小碓青年訓練所 | 南區土古町 | 同　小碓農業實修學校併置 | 商業 |
| 同　呼續青年訓練所 | 南區呼續町字千竈 | 同　呼續商業實修學校併置 | 同 |
| 同　瑞穗青年訓練所 | 南區瑞穗町 | 同　瑞穗商業實修學校併置 | 同 |
| 同　笠寺青年訓練所 | 南區星崎町 | 同　笠寺尋常高等小學校併置 | 同 |
| 同　西築地青年訓練所 | 南區濱町 | 同　西築地尋常高等小學校併置 | 同 |
| 同　船方青年訓練所 | 南區熱田新田東組 | 同　船方尋常高等小學校併置 | 同 |
| 同　白鳥青年訓練所 | 南區熱田白鳥町 | 同　熱田實業補習學校併置 | 商工業 |



# 名古屋市立青年訓練所簿册及文書保存規程

大正十五年九月十四日訓令第三號

第一條　本市立青年訓練所簿册及保存文書ハ各訓練所ニ於テ之ヲ類別シ所定ノ式ニ依リ整理保存スヘシ

第二條　簿册及文書ノ保存期限ハ左ノ三種トス

第一種　永　年　第二種　八　年　第三種　二　年

第三條　保存簿册ノ種別左ノ如シ

## 第一種

訓練所沿革史　訓練所法規綴　青年訓練名簿
修了證書臺帳　令達書類綴　進達書綴　圖書臺帳
備品內譯簿　經費仕拂口譯簿　職員履歷書　年度末統計表
其ノ他右ニ準スヘキモノ

## 第二種

生徒出席簿　生徒移動取扱簿　職員出勤簿
入退所願書綴　訓練ニ關スル研究錄　經費伺及指令綴
其ノ他右ニ準スヘキモノ

## 第三種

職員諸屆綴　家庭連絡書類綴　往復文書綴　文書發送簿
一時限リ令達書類綴　消耗品受拂簿　月末報告綴
其ノ他右ニ準スヘキモノ

第四條　簿冊保存ノ計算ハ處分完了ノ年ヨリ起算ス但シ會計年度ニ屬スルモノハ決算完了ノ年度ヨリ起算ス

第五條　保存期限經過ノ簿冊ハ毎年物品出納主任ヘ引繼クヘシ

## 名古屋市立青年訓練所評議員規程

大正十五年十月二十三日
告示第百二十四號

第一條　名古屋市立青年訓練所ニ評議員若干名ヲ置ク

第二條　評議員ハ左ニ掲クル事項ニ就キ青年訓練所主事ヲ補佐シ又ハ其ノ諮問ニ應シテ意見ヲ陳述スルモノトス

一、關係諸團體トノ連絡ニ關スル事項
二、生徒募集ニ關スル事項
三、生徒ノ出席督勵ニ關スル事項
四、訓練實施ノ季節及日時ニ關スル事項
五、其ノ他主事ニ於テ必要ト認ムル事項

第三條　評議員ハ當該青年訓練所設置區域内ニ住居シ學識德望アル者ノ中ヨリ市長之ヲ囑託ス

附　則

本規程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

# 市立名古屋圖書館則

大正十二年八月七日
告示第百二十六號

改正　大正十五年三月三十一日
告示第四十七號

大正十五年十月三十日
告示第百三十四號

## 第一章　總　則

**第一條**　市立名古屋圖書館ハ內外古今ノ圖書ヲ蒐集シ公衆ノ閱覽ニ供ス

**第二條**　圖書閱覽時間左ノ如シ

四月一日ヨリ四月三十日マテ　午前八時ヨリ午後九時マテ
五月一日ヨリ九月三十日マテ　午前八時ヨリ午後十時マテ
十月一日ヨリ三月三十一日マテ　午前九時ヨリ午後九時マテ

但シ時宜ニヨリ之ヲ伸縮スルコトアルヘシ

**第三條**　定期休館日左ノ如シ

紀元節　二月十一日
天長節　四月二十九日
曝書期　九、十兩月中ニテ凡ソ十日間
年末年始　十二月二十八日ヨリ一月五日マテ

但シ臨時休館ハ其ノ都度之ヲ定ム

掃除日　每月末日八月十月ハ三十日
本館創立紀念日　十月一日

**第四條**　閱覽料ヲ徵收スルコト左ノ如シ但シ新聞室兒童室及巡回文庫ニ於ケル閱覽ハ無料トス

普通閱覽料
一回　參錢
十回　貳拾錢
三十回　五拾錢

特別閱覽料
一回　六錢
十回　五拾錢
三十回　壹圓貳拾錢

携出閱覽料
一ケ年　四圓
半年　貳圓五拾錢
一ケ月　五拾錢

**第五條**　六歲未滿ノ者又ハ館內ノ秩序若ッハ風紀靜肅ヲ害スル虞アリト認ムル者ハ入館ヲ許サス

**第六條**　本館ニ特ニ功勞アル者ニハ優待券ヲ贈與シ又特ニ認許シタルモノニハ無料券ヲ贈與ス

**第七條**　優待券及無料券ノ効力ハ券面記載ノ期間內トス

**第八條**　特ニ館長ノ承認ヲ得タル者ハ書庫內ニテ圖書ヲ檢索スルコトヲ得

**第九條**　閱覽又ハ携出ノ圖書ヲ亡失シ又ハ汚損シタルトキハ館長ノ指定ニ從ヒ現品若クハ相當ノ代金ヲ以テ之ヲ辨償セシム

第十條　本館ノ規定ニ違背シタル者又ハ館員ノ指示ニ從ハサル者ハ入館ヲ禁スルコトアルヘシ

第十一條　圖書携出保證金ヲ除クノ外本則規定ノ納付金ハ納入後何等ノ事由アルモ之ヲ返付セス

## 第二章　館内閲覧

第十二條　館内ニテ圖書ヲ閲覧セムトスル者ハ閲覧票ニ指定ノ事項ヲ記入シ圖書ヲ借受ケ退館ノトキ之ヲ返納スヘシ

第十三條　普通券又ハ無料券ヲ有スル者ヲ普通閲覧人トシ特別券又ハ優待券ヲ有スル者ヲ特別閲覧人トス

第十四條　男子ノ普通閲覧人ハ普通閲覧室特別閲覧人ハ婦人閲覧室十二歳未滿ノ男女ハ兒童室ニテ閲覧スルコトヲ得但シ十二歳以上十四歳未滿ノ男女ハ兒童室ニテ閲覧スルコトヲ得

第十五條　同時ニ閲覧スルコトヲ得ヘキ圖書冊數左ノ如シ

| | | |
|---|---|---|
| 普通閲覧人 | 三種 | 和洋裝九冊<br>洋裝三冊 |
| 特別閲覧人 | 五種 | 和裝十五冊<br>洋裝五冊 |
| 兒童 | 一種 | 一冊 |

但シ和洋裝書併借ノ場合ハ和裝三冊ヲ以テ洋裝一冊ニ算ス

第十六條　閲覧室ニテハ音讀談話喫煙飲食其ノ他喧騒ノ行爲ヲ禁ス

## 第三章　館外閲覧

第十七條　圖書ヲ館外ニ携出セムトスル者ハ本館備付ノ携出特許證交付願用紙ニ記名捺印ノ上之ニ保證金五圓ヲ添ヘ携出特許證ヲ請求スヘシ

第十八條　携出特許證ヲ受ケタル者ハ保證金額ト同額以内ノ圖書ヲ携出閲覧スルコトヲ得若シ保證金額以上ノ圖書ヲ借受ケムトスルトキハ其差額五圓以内ヲ增ス毎ニ保證金五圓ヲ追加スルモノトス但シ優待券所持者ハ前條乃至本條ニ依ルノ限ニ在ラス

第十九條　圖書ヲ携出セムトスルトキハ携出特許證又ハ優待券ヲ係員ニ示シ館外携出閲覧票ヲ請ヒ受ケ指定事項ヲ明記シテ係員ニ提出スヘシ

第二十條　左記圖書ハ館外閲覧ヲ許サス

貴重書
辭書類及參考圖書類
館内ニ於テ最モ閲覧多キ圖書
新着書棚中ニ在ルモノ又未裝釘ノ雜誌類
其他普通圖書ト雖モ本館ノ都合ニヨリ携出ヲ許サヽルコトアルヘシ

第二十一條　携出シ得ヘキ圖書冊數ハ左ノ如シ

| | | |
|---|---|---|
| 和裝書 | 二種 | 六冊 |
| 洋裝書 | 二種 | 二冊 |

和洋裝書併借ノ場合ハ和裝書三冊ヲ以テ洋裝書一冊ニ算ス但シ小説類ハ一種ノ外携出ヲ許サス

第二十二條　館外閲覧期間ハ十日以内トス尚引續キ閲覧セムトスルトキハ一旦返戻シテ更ニ借受ノ手續ヲ爲スヘシ但シ期間中他ニ該圖書ノ閲覧ヲ請フ者アルトキハ繼續閲覧ヲ許サス本館ニ於テ必要アル場合モ亦同シ

第二十三條　携出圖書ノ冊數並ニ携出期間ニ付キ館長ノ特許ヲ受クルトキハ第二十條乃至第二十二條ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第二十四條　閲覽期間經過後二回以上注意ヲ爲スモ尚携出圖書ノ返戻ヲ爲サヽルモノハ携出特許證若クハ優待券ヲ無効トス

第二十五條　保證金ハ特許證ヲ返戻シタルトキ預リ證ト引換返付ス

第二十六條　閲覽料ノ納付ヲ怠リ又ハ圖書ノ辨償ヲ爲サヽル場合ニハ該金額ヲ保證金ニテ控除シ仍ホ不足スルトキハ之ヲ追徴ス

第二十七條　携出特許證ヲ紛失シタルトキハ速カニ届出其ノ再交付ヲ請求スヘシ但シ此場合ハ手數料金拾錢ヲ納入スヘシ

第二十八條　携出特許證優待券携出閲覽票及携出圖書ハ他人ニ轉貸スルヲ得ス

## 第四章　巡回文庫

第二十九條　巡回文庫ハ市内左記各號ノ箇所ニ廻付シ該地方公衆ノ閲覽ニ供ス

一、公立圖書館、學校及官公署

二、管理確實ト認メタル私立圖書館又ハ各種團體

三、其ノ他館長ニ於テ必要ト認メタル箇所

第三十條　巡回文庫ノ廻付ヲ受ケムトスルトキハ其ノ旨館長ニ請求スヘシ

第三十一條　巡回文庫ノ管理ハ其ノ廻付ヲ受ケタル圖書館長官公署長及各種團體長等之ヲ行フ

第三十二條　巡回文庫ノ廻付期間及廻付ノ方法ハ館長之レヲ定ム

第三十三條　巡回ノ文庫ノ廻付ヲ受ケタルモノハ一定ノ閲覽所ニ於テ閲覽スヘシ但シ同閲覽所管理者ニ於テ不都合ナシト認ムル者ニハ期間ヲ限リ圖書携出借覽ヲ許スコトヲ得

第三十四條　借覽圖書ヲ亡失又ハ汚損シタルトキハ第九條ノ例ニ依リテ管理者ニ於テ之ヲ處置スヘシ

第三十五條　巡回文庫廻付ニ要スル費用ハ請求者ノ負擔トス但シ時宜ニヨリ館費ヲ以テ支辨スルコトアルヘシ

## 第五章　圖書寄贈

第三十六條　圖書ヲ寄贈セムトスル者ハ其ノ圖書名、員數、價格、住所氏名ヲ記載シタル書面ヲ差出シ館長ノ許可ヲ得タル後現品ヲ送致スヘシ但シ本館ヨリ寄贈ヲ申込ミタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十七條　寄贈ヲ受ケタル圖書ニハ寄贈者ノ氏名及寄贈ノ年月日ヲ標記シテ其好意ヲ永遠ニ傳フ但シ匿名者又ハ前條本文ノ手續ヲ經サル寄贈圖書ハ館長ニ於テ適宜處置スルコトアルヘシ

第三十八條　圖書ノ寄贈ニ要スル費用ハ寄贈者ノ負擔トス但シ時宜ニ依リ館費ヲ以テ支辨スルコトアルヘシ

## 第六章　圖書委託

第三十九條　公衆ノ閲覽ニ供スル目的ヲ以テ本館ニ圖書ヲ委託セムトスル者ハ委託願書ニ其ノ目錄、冊數、住所氏名ヲ詳記シ館長ノ承諾ヲ得タル後現品ヲ送付スヘシ但シ本館ヨリ委託ヲ申込ミタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項圖書ニ對シテハ本館ヨリ受託證ヲ交付ス

第四十條　委託圖書ノ運賃ハ委託者ノ負擔トス但シ時宜ニ依リ館費ヲ以テ支辨スルコトアルヘシ

第四十一條　委託圖書ハ本館所藏ノ圖書ト同一ノ取扱ヲナスヘシ但シ委託者ノ承諾アル圖書ノ外館外ノ携出

ヲ許サス

第四十二條　委託圖書ハ豫メ一定ノ委託期間ヲ契約スルモ委託者ノ請求又ハ本館ノ都合ニ依リテハ隨時之ヲ返付スルコトアルヘシ

第四十三條　委託圖書ノ天災其ノ他避クヘカラサル損失ニ對シテハ本館其ノ責ニ任セス

附　則

第三章ハ大正十三年度ヨリ施行ス



# 市立名古屋圖書館處務規程

大正十二年八月十七日
告示　第百二十七號

第一條　市立名古屋圖書館ニ左ノ職員ヲ置ク

館長　一名
司書　若干名
書記　若干名
助手　若干名
出納　若干名
看守　若干名

但シ事務取扱上必要アルトキハ囑託員ヲ置クコトヲ得

第二條　館長ハ館務ヲ掌理シ所屬職員ヲ統督ス

館長事故アルトキハ上席職員其職務ヲ代理ス

第三條　館長ハ豫算ニ關シ市長ニ其ノ意見ヲ提出スヘシ

司書以下職員ハ總テ館長ノ命ヲ承ケ掌書庶務會計ノ事務ニ從事ス

第四條　館長ハ職員ノ進退賞罰ニ關シ意見アルトキハ知事又ハ市長ニ具申スヘシ

第五條　臨時休館ヲ爲サムトスルトキハ館長ニ於テ市長ノ指揮ヲ受クヘシ但シ急迫ノ場合ニハ處分後直チニ開申スルコトヲ得

第六條　館長ハ左ノ事項ヲ專行ス

一、圖書ノ選擇購入ニ關スルコト

二、寄贈書籍收受ニ關スルコト

三、圖書ノ寄贈委託ヲ認諾スルコト
四、評價、鑑定、圖書調査ノ囑託ニ關スルコト
五、職員ノ出張ニ關スルコト
六、職工人夫等ヲ傭能スルコト
七、賣店ノ物品供給者及供給品ニ關スルコト
八、館内細則ノ設定若クハ改廢ニ關スルコト

**第七條**　職員ハ市内ニ住居スヘシ但シ特別ノ事情ニ依リ館長ノ許可ヲ得タル者ハ此ノ限ニ在ラス

**第八條**　休日休暇日及執務時間ハ別ニ定ムル所ニ依ル

**第九條**　館長轉任休職退職ノ際ハ文書物品ノ目錄、會計事務及重要ナル事項ノ調書ヲ作製シ後任者又ハ代理者ニ引繼クヘシ

館長死亡ノ際ハ當時ノ現在ニ依リ前項ニ準シ上席職員ニ於テ記錄ヲ調製スヘシ

**第十條**　職員疾病又ハ事故ニ依リ出勤シ難キトキハ出勤時限後二時間以内ニ館長ニアリテハ市長ニ其ノ他ノ職員ニアリテハ館長ニ屆出ツヘシ但シ疾病ニ由ル缺勤七日ヲ越ユルトキハ醫師ノ診斷書ヲ添付シ爾後七日毎ニ同一ノ手續ヲナスヘシ親族ノ喪ニヨリ忌服ヲ受クルモノハ其ノ屬系及死去ノ年月日ヲ詳記シ館長ニアリテハ市長ニ其ノ他ノ職員ニアリテハ館長ニ屆出テ休暇スルコトヲ得

**第十一條**　歸省墓參轉地療養其ノ他私事ノ爲メ旅行セムトスルトキハ行先地及往復日數ヲ詳記シ館長ニアリテハ市長其ノ他ノ職員ニアリテハ館長ノ許可ヲ受クヘシ



**第十二條**　轉任解職若クハ休職ヲ命セラレタル場合ニ於テハ其ノ取扱中ノ事件ヲ後任者若クハ館長ノ指名シタル者ニ引繼クヘシ

出張若クハ缺勤等ノ場合ニ於テ處理未濟ニ係ル事件モ亦同シ

**第十三條**　新任者ハ住所屆ヲ即日履歷書（所定ノ用紙）ヲ三日以内ニ差出スヘシ住所又ハ身分ニ異動アリタルトキ亦同シ

**第十四條**　館長ハ職員中當直ヲ置キ館内ノ取締ヲナサシムル但シ宿直ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

**第十五條**　館長ハ本規程ニ據リ處務細則ヲ定メ市長ニ開申スヘシ

# 第六類　社會事業

# 職業紹介所職業紹介規程

大正十三年六月六日
告示第百十三號

**第一條** 職業紹介所ハ本規程ニ依リ職業ノ紹介ヲナス

**第二條** 求人者ハ職業紹介所ニ出頭又ハ電話其ノ他便宜ノ方法ニ依リ左ノ事項ヲ具シ申込ヲ爲スヘシ

一、求人者ノ氏名、住所、職業、電話番號及道筋

二、雇入ノ使用目的、人員、年齡、性別、教育ノ程度、雇傭期間、勤務ノ場所、勤務時間、保證ノ要否、夜業ノ有無、給料ノ概額、住込又ハ通勤ノ別、日給又ハ月給ノ別、歩增ノ有無、食料ノ給否

三、其他參考トナルヘキ事項

**第三條** 求人者求人申込ノ雇傭條件ニ變更ヲ生シタル場合又ハ申込ヲ取消サムトスルトキハ其ノ旨直ニ届出ツヘシ

**第四條** 求職者ハ本人職業紹介所ニ出頭ノ上其ノ旨申込ムヘシ

**第五條** 求職者ヲ紹介スル場合ハ紹介狀ヲ交付ス

前項ノ紹介狀ハ之ヲ他人ニ使用セシムルコトヲ得ス

**第六條** 紹介ヲ受ケタル求人者及求職者ハ雇傭契約ノ調不調ヲ適當ノ方法ニ依リ當該職業紹介所ニ通報スヘシ

**第七條** 本市ハ求職者ノ身元ニ付保證ノ責ニ任セス

**第八條** 登錄シタル求人票及求職票ノ有効期間ハ申込後三十日間トス但シ更新ヲ求メントスルトキハ同樣ノ方法ニ依リ職業紹介所ニ申出ツヘシ

第九條　日傭勞働ノ紹介ニ關シテハ本規程第八條ヲ適用セス

附　則

大正九年九月八日名古屋市告示第九十五號名古屋市立職業紹介所規程ハ本規程施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス



# 職業紹介所規程

大正十三年六月六日
達第三十八號

改正　大正十三年十一月六日
告示第百六十三號

第一條　職業ノ紹介ヲナス爲メ本市ニ中央職業紹介所一ケ所及職業紹介所數ケ所ヲ置ク

第二條　中央職業紹介所及職業紹介所ニ所長各一名及職員若干名ヲ置ク

第三條　中央職業紹介所長並ニ職業紹介所長ハ上司ノ命ヲ受ケ所務ヲ處理シ所員ヲ指揮監督ス所長事故アルトキハ上席者其ノ職務ヲ代理ス

第四條　職業紹介所ノ事務分掌左ノ如シ

一、求人、求職申込ノ受付及紹介ニ關スル事項
二、主管事務ノ統計報告ニ關スル事項
三、其他勞務ノ需用供給上必要ナル事項
四、廳舍ノ維持保存ニ關スル事項

第五條　中央職業紹介所ハ前條ノ外左ノ事務ヲ處理ス

一、職業紹介事務ノ聯絡統一ニ關スル事項
二、各職業紹介所ノ庶務、經理、會計ニ關スル事項
三、職業紹介所附屬宿泊所及副業紹介ニ關スル事項

第六條　各職業紹介所ニ於テ職業紹介法施行規程第七條ニ依リ勞務ノ需用供給ニ關スル情報ノ交換應答ヲ爲シ又ハ同則第十二條ニ依リ事業狀況ヲ報告シタルトキハ直ニ中央職業紹介所ニ報告スヘシ

第七條　中央職業紹介所長ハ市長ノ承認ヲ得テ各職業紹介所ノ事務執行ニ關シ處務細則ヲ設クル事ヲ得

附　則

大正十年九月十五日名古屋市達第三十號名古屋市立職業紹介所處務規程ハ本規程施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス



# 職業紹介所聯絡規程

大正十三年六月六日
達第三十九號

第一條　本市職業紹介事業ノ聯絡ニ關スル事務ハ本規程ノ定ムル所ニ依ル但シ勞働紹介所ノ勞働紹介事務ニ關シテハ本規程ヲ適用セス

第二條　職業紹介所ニ於テ求人又ハ求職ノ申込ヲ受ケ所用期間内ニ紹介ヲ完了スルノ見込ナキトキハ申込ヲ受ケタル事項ヲ中央職業紹介所ニ通報スヘシ

第三條　中央職業紹介所前條ノ通報ヲ受ケタルトキハ他ノ職業紹介所ニ通知スヘシ第二條ニ依ル其ノ所ノ取扱ニ係ルモノ亦同シ

第四條　前二條ノ取扱ハ求人票又ハ求職票ノ寫ノ交換ヲ以テ之ヲ爲ス但シ急ヲ要シ又ハ必要ト認ムルトキハ電話其ノ他ニ依ルコトヲ得

第五條　職業紹介所ハ中央職業紹介所ニ對シ勞務ノ需給ニ關スル情況ヲ日々通報シ且ツ事務ニ關シ特ニ要求セラレタル事項ハ隨時之ニ應シテ通報スヘシ

第六條　中央職業紹介所ハ前條ノ通報其ノ他ニ依リ勞務ノ需給調節上必要ト認ムル資料ヲ得タルトキハ其都度之ヲ各職業紹介所ニ通知スヘシ

第七條　中央職業紹介所長ハ市長ノ承認ヲ得テ本規程ノ執行ニ關スル必要ナル事項ヲ定ムルコトヲ得

# 市設住宅貸與規程

改正　大正十二年八月一日　告示第百二十二號　大正十三年三月二十七日　告示第七十二號
大正九年十月十一日　告示第百九號

第一條　住宅ハ本市費支辨ニ係ル吏員學校職員其ノ他ノ者ニ之ヲ貸與ス
市長ニ於テ必要ト認ムルトキハ前項以外ノ者ニモ之ヲ貸與スルコトアルヘシ

第二條　住宅ノ貸與ヲ受ケムトスル者ハ市長ノ承認ヲ受クヘシ

第三條　前條ノ承認ヲ受ケタル者ハ五日以內ニ借宅證書ヲ市長ニ差出スヘシ

第四條　借宅料ハ一箇月一戶ニ付金五圓以上五拾圓以下ノ範圍ニ於テ市長之ヲ定ム
借宅料ハ每月五日迄ニ之ヲ納付スヘシ但シ該期日以後新ニ貸與ヲ受ケタル者ハ其ノ際之ヲ納付スルモノトス

第五條　疊換ニ要スル費用ノ半額ハ借家人ノ負擔トス但シ借家人ノ使用ニ因ラスシテ生シタル修膳費ハ此限ニ在ラス
襖、障子張換ニ要スル費用、電燈料、瓦斯料、水道使用料等ハ借家人ノ負擔トス

第六條　借宅ハ之ヲ轉貸シ又ハ其一部ヲ他人ニ貸與スルコトヲ得ス

第七條　居住者ハ他人ノ迷惑トナリ又ハ住宅ヲ毀損シ若クハ汚染セシムヘキ家內工業ヲ營ムコトヲ得ス

第八條　居住者ハ市長ノ承認ヲ經スシテ地形ノ變更樹木ノ移植又ハ建築模樣替若クハ增設ヲ爲スコトヲ得ス

第九條　居住者ニシテ建物又ハ附屬物ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ借主ハ之ヲ原形ニ復シ又ハ其ノ費用ヲ賠償スルコトヲ要ス



第十條　居住者ハ借宅ノ內外ヲ整理シ苟モ外觀ヲ損シ又ハ比隣ノ迷惑トナルヘキ行爲ヲ爲スコトヲ得ス

第十一條　借主ニシテ第一條第一項ノ資格ヲ失ヒタルトキハ一ケ月以內ニ退去スヘシ

第十二條　左ノ場合ニ於テ市長ハ何時ニテモ借主ニ對シ退去ヲ命スルコトヲ得同世帶ノ者ニシテ本條ノ行爲アルトキ又同シ
一、借宅料ヲ延滯シタル時
二、本規程若クハ住宅取締ニ關スル命令ニ違背シタリト認ムルトキ
三、本市ニ於テ必要アルトキ

第十三條　借主退去セムトスルトキハ五日前ニ市長ニ屆出テ建物其ノ他備品ノ檢查ヲ受クヘシ
前項ノ場合ニ於テ滅失又ハ毀損セルモノアルトキハ退去前ニ之ヲ原形ニ復シ又ハ其ノ費用ヲ賠償スヘシ

第十四條　市長ニ於テ取締上必要ト認ムルトキハ居住者ノ立會ヲ得テ隨時屋內ノ檢查ヲ爲スコトアルヘシ
前項ノ場合ニ於テ居住者ハ其ノ立會若クハ檢查ヲ拒ムコトヲ得ス

第十五條　本規程施行ニ必要ナル細則及施行期日ハ市長之ヲ定ム

# 市設住宅貸與規程施行細則

大正九年十月十一日
告示第百十號

第一條　住宅貸與ノ承認ヲ受ケタル者ハ市長ノ指示ニ從ヒ連帶保證人ヲ立テ又ハ連帶保證人ト共ニ敷金トシテ借宅料三箇月分ニ相當スル現金ヲ添ヘ別紙樣式ノ借宅證書ヲ差出スヘシ

保證人ハ本市內ニ在住シ相當ノ資產又ハ信用ヲ有スル者タルコトヲ要ス

保證人前項ノ資格ヲ失ヒタルトキハ借主ハ更ニ保證人ヲ立ツヘシ

敷金ハ利子ヲ附セス借主退去ノトキ之ヲ還付ス但シ借宅料ノ延滯又ハ費用ノ賠償ニツキ市長ハ敷金中ヨリ之ヲ控除スルコトヲ得

第二條　借宅料ハ新ニ貸與ヲ受ケ又ハ返還シタル月ニ限リ其ノ月ノ日割ヲ以テ計算ス

第三條　借主ハ居住者ノ氏名及借主トノ續柄ヲ記シ借宅證書ト同時ニ之ヲ市長ニ差出スヘシ但シ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度之ヲ屆出ツヘシ

附　則

本細則ハ市設住宅貸與規程施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス





借宅證書

名古屋市　區　町　丁目　番地

一、木造瓦葺平家二階建住宅　第　號

附屬物別紙明細書ノ通

借宅料一ヶ月金　圓也

今般右住宅貸借候ニ付テハ市設住宅貸與規程及同施行細則ヲ遵守スルハ勿論貴市ノ御命令ニ從フヘク若シ之ニ違背シタルトキハ制規ニ依リ御處置相成候トモ異議申間敷連帶保證人ト共ニ敷金相添ヘ此段證書差出候也

年　月　日

住所　借主　氏名　㊞

住所　連帶保證人　氏名　㊞

名古屋市長宛

# 市設住宅賃貸料徴收手續

大正九年十月二十九日訓示第六號

第一條　住宅賃貸料徴收ニ關スル事務ハ市役所ニ於テ取扱ヒ第一號樣式ノ徴收原簿ヲ作成シ賃貸料及必要ナル事項ヲ登記シ收納ノ基礎トナスヘシ

徴收原簿ハ之ヲ收納簿ニ兼用ス

第二條　住宅賃貸料ハ毎月納期三日前迄ニ第二號樣式ノ納額告知書ヲ納人ニ交付スヘシ

隨時徴收ヲ要スルトキハ相當期日ヲ定メ納額告知書ヲ調製シ之ヲ納人ニ交付スヘシ

第三條　前二條ノ外市稅其他諸收入徴收事務取扱規程ヲ準用ス

（第一號樣式）　（硬質美濃全紙）

| 家屋所在種別 | 賃貸料收入月別 | | | | | | | | | | | | 異動月日及事由 | 借主氏名 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 家賃番號 | 告知書番號 | 四月 | 五月 | 六月 | 七月 | 八月 | 九月 | 十月 | 十一月 | 十二月 | 一月 | 二月 | 三月 | |
| 第　號 | 調定月日 月 日 收 | | | | | | | | | | | | | |
| 第　號 | | | | | | | | | | | | | | |
| 第　號 | | | | | | | | | | | | | | |

（第二號樣式）

| 第　號 | 大正　年度 | 納 | 大正　年　月　日 | 名古屋市　區　町　番地　戸 |
|---|---|---|---|---|
| 歲入 | 財產ヨリ生ズル收入 | 不動產收入 | 住宅賃貸料 | |

（市）納額告知書

一金　住宅賃貸料　月分

右大正　年　月　日限名古屋市役所內市金庫派出所ヘ納付セラルヘシ

右正ニ受取候也

大正　年　月　日　名古屋市長　氏　名

備考　月ノ中途ニ於テ新ニ貸與スルトキハ日割家賃ヲ當該月ノ欄ニ記入スルモノトス

告知書ノ番號ハ同一家屋ニ對シテハ借家人異動スルモ最初付シタル番號ヲ付スルモノトス

第　號　大正　年度

歳入　財産ヨリ生ズル收入

納　不動産收入　住宅賃貸料

## 領收證書

一金

但住宅賃貸料　月分

右領收候也

大正　年　月　日

名古屋市役所金庫派出所



# 保育園規程

大正十年三月十六日
告示第三十號

第一條　本園ハ勞働者ノ家庭ニ在ル兒童ヲ收容シ之ヲ保育敎養スルヲ以テ目的トス

第二條　入園兒童ノ年齡ハ滿二歳以上就學ノ始期ニ達スル迄トス

第三條　開園時間ハ午前八時ヨリ午後六時迄トス但シ時宜ニ依リ伸縮變更スルコトアルヘシ

第四條　入園ヲ希望スル者ハ別紙申込書ヲ差出スヘシ

第五條　入園承認ノ際ハ身體檢査ヲ行ヒ「トラホーム」其他傳染性疾患アル者又ハ身心ニ異狀アル者ハ之ヲ謝絕スヘシ

一、保護者又ハ其ノ家族ニシテ業務ヲ怠リ或ハ收得賃金ヲ浪費スル虞アリト認ムルトキ

二、他ノ兒童ニ對シ危害ヲ加ヘ又ハ惡感化ヲ及ホシ到底改善ノ見込ナシト認ムルトキ

三、其他必要アリト認ムルトキ

第六條　退園セシメントスルトキハ保護者ハ直ニ之ヲ屆出ツヘシ

## 申込書

本籍
住所　何某

職業　何某

何某　何男
　　何女

生年月日

右名古屋市保育園ニ入園爲致度此段申込候也

年　月　日　右父
　　母　何某　㊞

市長　何某　宛

## 診療所規程

大正十年六月十五日
告示第六十號

第一條　名古屋市診療所ハ本市窮民ニシテ醫藥ノ資ニ乏シキ者ニ對シテ無料診療ニ應スルモノトス

第二條　本所ノ診療ヲ受ケムトスル者ハ本人出頭ノ上申込ムヘシ
市長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ診療ヲ謝絕スルコトアルヘシ

第三條　本所ハ當分ノ內患者ノ收容及往診ヲ爲サス但シ急迫ノ場合又ハ止ムヲ得スト認メタルトキハ往診ヲ爲スコトアルヘシ

第四條　診療ハ日曜及大祭祝日ヲ除キ每日午後一時ヨリ午後四時迄トス





## 窮民救助規定

大正十二年三月二十一日
告示第三十九號

第一條　本規定ニ於テ窮民ト稱スルハ老幼者不具者廢疾者若クハ傷病者ニシテ自活スル能ハス且他ニ扶助ヲ受ケル途ナキ者ヲ謂フ

第二條　窮民ニハ左ノ救助費ヲ給與ス

一日金參拾錢以內

第三條　窮民ノ救助ハ之ヲ他ニ委托スルコトヲ得此場合ニ於テハ前條ノ救助費ハ之ヲ受托者ニ支給ス

第四條　救助費ハ當月分ヲ翌月中ニ給與ス

第五條　本規定施行ニ關シ必要ナル細則ハ市長之ヲ定ム

附　則

本規程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

# 窮民救助規定施行細則

大正十二年三月二十一日
訓示第二一號

第一條　窮民ニシテ救助ヲ申出タルトキハ區長ハ直ニ實況ヲ調査シ第一號樣式ニヨリ之ヲ市長ニ報告スヘシ
警察官署其他ヨリ救助ヲ申出タル場合亦同シ

第二條　窮民救助規定第二條ノ救助費額ヲ定ムルコト左ノ如シ

一食費　一日　大人　金拾錢
　　　　　　小人　金五錢

第三條　救助ノ方法ハ別ニ市長ノ指示スル所ニ依ル

第四條　區長ハ別表第二號樣式ノ窮民救助臺帳ヲ備フヘシ

第五條　區長ハ隨時被救助人ノ實況ヲ視察シ救助ニ必要ナル措置ヲ爲スヘシ

第六條　區長ハ前條視察ノ結果救助ノ廢止變更若クハ被救助人ノ罹病、轉歸其ノ他ノ異動ヲ遲滯ナク市長ニ報告スヘシ

第七條　區長ハ每月分救助費請求書ヲ取纏メ調査ノ上別表第三號樣式ノ報告書ヲ添付シ翌月五日限リ之ヲ市長ニ送付スヘシ

附　則

本則細ハ窮民救助規程施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
（樣式略ス）



# 社會事業調査囑託員規程

大正十三年三月十七日
告示第四十四號

第一條　本市ノ社會的施設ニ資スヘキ各般ノ調査ヲ行フ爲メ社會事業調査囑託員若干名ヲ置ク

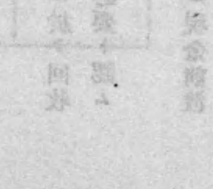
第二條　社會事業調査囑託員ハ市長ノ委囑スル事項ヲ調査スルモノトス

第三條　社會事業調査囑託員ニハ左記樣式ノ徽章ヲ交付ス
社會事業調査囑託員執務ノ場合ハ必ス徽章ヲ佩用スルモノトス

第四條　本規程施行ニ必要ナル事項ハ別ニ之ヲ定ム

第五條　本規程ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

徽章樣式



# 勞働賃銀立替事務取扱規程

大正十四年四月一日
告示第四十三號

第一條　勞働紹介所長ハ本規程ニ依リ勞働紹介所ノ紹介シタル勞働者ノ賃銀立替ヲ爲スコトヲ得

第二條　勞働紹介所長ハ需用者ヨリ賃銀立替ノ依頼ヲ受ケタルトキハ賃銀立替上必要ナル事項ヲ調査シ別記第一號樣式ニ依リ意見ヲ附シ市長ノ承認ヲ受クヘシ

第三條　勞働賃銀ノ立替ヲ爲ス場合ハ依頼者ヨリ相當ナル擔保ヲ提供セシメ又ハ保證人ヲ立テシムヘシ但シ官公署ナルトキ又ハ市長ニ於テ確實ナリト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四條　同一ノ立替依頼者ニ對スル立替金ニシテ未回收一ケ月以上ニ渉ルトキ又ハ勞働紹介所長ニ於テ回收困難ナリト認メタルトキハ以後立替ヲ中止スヘシ但シ未回收一ケ月ヲ超ユルモ尙立替ノ繼續ヲ必要ト認ムル場合ハ市長ノ承認ヲ受クヘシ

第五條　勞働紹介所長第二條ノ承認ヲ經タルトキハ別記第二號樣式ニ依リ收入役ヨリ立替ニ要スル現金前渡ヲ受クヘシ

第六條　勞働紹介所長ハ需用者印鑑簿ヲ備付ケ賃銀立替ヲ依頼セル需用者ヨリ出務票ニ押捺スヘキ印鑑ヲ徵シ賃銀立替ニ際シ照合ニ便ナラシムヘシ

第七條　勞働紹介所長ハ賃銀立替ヲ行フ勞働者ニ對シ別記第三號樣式ノ出勤票ヲ交付シ當該需用者ヨリ所定事項ノ記入並ニ捺印ヲ受ケシムヘシ

第八條　勞働紹介所長ハ勞働者ヨリ前條ノ出勤票ヲ受理シタルトキハ別記第四號樣式ノ人夫使傭證明書ト照合シ確實ト認メタルトキハ該票ト引替ニ賃銀ノ立替ヲ行フヘシ

第九條　勞働紹介所ニハ別記第五條樣式ノ立替賃銀計算簿並ニ第六號樣式ノ賃銀立替仕譯簿ヲ備付ケ立替金ノ收支計算ヲ明ニスヘシ

第十條　立替ヲ終リタル出勤票ハ其ノ裏面ニ支拂日附印ヲ押捺シ人夫使傭證明書ト共ニ保管シ置キ一ケ月分ヲ取纏メ別記第七號樣式ノ精算書ヲ添付シ第八號樣式ノ前渡金仕拂計算書ト共ニ市長ニ提出スヘシ

第十一條　市長前條ノ書類ヲ受理シタルトキハ精算書ヲ添付シ翌月五日ヲ納期トシ納付書ヲ發行スヘシ

第十二條　收入役前條立替金ノ納付ヲ受ケタルトキハ直ニ勞働紹介所長ニ通知スヘシ

第十三條　本規程ニ依リ市長ニ提出スヘキ書類ハ總テ社會課長ヲ經由スヘシ

附　則

本規程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一號樣式

立案　月　日主任

| | | | |
|---|---|---|---|
| 市長 | 社會課長 | 取扱所長意見 | |
| 助役 | | | |

勞働賃銀立替依頼書

| | | | |
|---|---|---|---|
| 勞働需用者 | 氏名 | | |
| | 住所 | | |
| | 職業 | | |
| 賃銀立替 | 勞務ノ內容 | | |
| | 毎日所用立替人員 | | |
| | 一人當リ立替賃銀 | | |
| 事項 | 勞働時間 | 自午前　時 | 至午後　時 |

| | |
|---|---|
| 勞働需用計畫概要 | 勞働現場<br>所要勞働者見込總數<br>竣功豫定年月日<br>其ノ他參考事項 |
| 返濟方法 | |

右條項ニ依リ貸銀立替方御取計相成度及御依頼候也

大正　年　月　日

住所

氏名

勞働紹介所長宛

第二號樣式

前渡金領收證

一金　　

但シ勞働賃銀繰替前渡金

右領收候也

大正　年　月　日

收入役

勞働紹介所長



第三號樣式

| 出務傳票 | | | | |
|---|---|---|---|---|
| No | 名古屋市立勞働紹介所 | | | |
| 出務場所 | | | | |
| 貸銀 | 月　日 | 分 | | |
| 增割 | 歩　厘 | 月　日 | 分 | |
| 拂仕金額 | | | | |
| 雇認 | 履備者印 | | | |

上記ノ金額正ニ領收

大正　年　月　日

出務者

名古屋市役所　御中

注意

一、此票ハ貸銀仕拂ノ引換證ニナリマスカラ大切ニシテ下サイ

一、此票ニ履備者ノ認印ナキモノハ貸銀ノ仕拂ヲイタシマセヌカラ御忘レナク認印ヲ貰ツテオ出ナサイ

一、若シ約束以外ノ仕事ヲシタ時ハ割增ノ所ヘ其歩合及貸銀ヲ書入レテ貰ツテオ出ナサイ

第四號樣式

大正　年　月　日人夫使備證明書

使備區分　　出務票番號

一人當賃銀　　人　　員

人歩　　円

人歩

人歩

備考

右使備相違無之證明候也

大正　年　月　日

勞働紹介所長宛

監督者署名　㊞

第五號樣式（簿記樣式）綴込式

立替費計算簿

| 月日 | 摘要 | 前渡金額 | 立替金額 | 差引現金殘高 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | |

第六號樣式（簿記樣式）綴込

賃銀立替仕譯簿（本簿ハ供給先別口座ヲ設ケ整理ス）

| 月日 | 摘要 出務月日 | 摘要 其他 | 人員 出務人員 | 人員 實働人員 | 一日一人ニ付賃銀 | 立替金額 | 未拂人員 | 未拂金額 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | |

第七號樣式

一金　　但　　精算書

| 月日計 | 出務人員 | 實働人員 | 立替金額 | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | 円 | |

右ノ通リ候也

年　月　日

勞働紹介所長

第八號樣式

前渡金仕拂計算書　　月分

| 前渡金受高 | 立替金額 | 差引現金殘高 | 備考 |
|---|---|---|---|
| | | | |

右ノ通リ候也

年　月　日

勞働紹介所長

市長　殿

# 共同宿泊所使用條例

大正十四年八月十五日
條例第六號

改正　大正十五年十二月二十一日
條例第十二號

第一條　共同宿泊所ニ宿泊セントスル者ハ市長ノ許可ヲ受クヘシ

第二條　使用料ヲ宿泊料室料ニ分チ左記金額ノ範圍内ニ於テ市長之ヲ定ム

一、宿泊料　一人一泊　金貳拾錢

一、室　料　一人一ヶ月　金參圓五拾錢

第三條　使用料ハ前納トシ既納ノ料金ハ之ヲ還付セス但シ市長ニ於テ特別ノ事由アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ宿泊ヲ許サス

一、同宿舍ノ嫌忌スヘキ疾患ヲ有スル者

二、精神病者又ハ泥酔者ト認ムル者

三、其他市長ニ於テ宿泊ヲ許スヘカラスト認ムル者

第五條　宿泊者ニシテ本條例ニ違背シ又ハ風俗秩序ヲ紊シ若クハ他人ノ迷惑トナルヘキ行爲アル者ニ對シテハ市長ハ臨時退所ヲ命スルコトアルヘシ

第六條　宿泊者備付物品ヲ滅失若クハ毀損シタルトキハ市長ノ認定ニ依ル損害ヲ賠償セシムルコトアルヘシ

第七條　本條例施行ニ關シ必要ナル細則ハ市長之ヲ定ム

附　則

本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス



# 共同宿泊所使用條例施行細則

昭和二年一月十三日
告示第二號

第一條　共同宿泊所ハ毎日午前八時ヨリ午後十時迄宿泊申込ニ關スル事務ヲ取扱フ但シ時宜ニ依リ之ヲ伸縮スルコトアルヘシ

第二條　共同宿泊所使用條例第二條ニ依ル使用料左ノ如シ

一、宿泊料　一人一泊ニ付　金貳拾錢

一、室　料　一人一ヶ月　金參圓五拾錢

第三條　宿泊者ニシテ寢具希望ノ者ニ對シテハ一ヶ月金壹圓五拾錢ノ貸貸料ヲ前納セシメ之ヲ貸與スルコトヲ得

宿泊者中市長ニ於テ必要アリト認メタル者ニ對シテハ適當ナル保證人ヲ立テシメ又ハ保證金ヲ納付セシムルコトアルヘシ

第四條　室料ハ入所又ハ退所ノ月ニ限リ其ノ月ノ日割ヲ以テ計算ス寢具ノ貸與返還ノ場合ニ於ケル料金ニ付テモ亦同シ

第五條　宿泊者ハ當該係員ノ指示シタル室内ニ於テ宿泊スヘシ

第六條　係員ニ於テ必要ト認メタルトキハ宿泊者ノ携帶品ヲ檢査シ又ハ醫師ヲシテ檢診ヲ爲サシムルコトアルヘシ

宿泊者ハ前項ノ檢査又ハ檢診ヲ拒ムコトヲ得ス

第七條　宿泊者ノ外出時間ハ午後十一時限トス

宿泊者外出時間内ニ歸宿セサルトキハ當日ノ宿泊ヲ拒絶スルコトアルヘシ此ノ場合ニ於テハ既納ノ料金ハ

之ヲ還付セス

第八條　宿泊料ヲ納付シテ宿泊シタル者ハ特ニ許可ヲ受ケタル場合ノ外左ノ時間内ニ退去スヘキモノトス

自三月一日　至十月末日　午前四時ヨリ午前七時迄

自十一月一日　至二月末日　午前四時ヨリ午前八時迄

第九條　前條ノ宿泊者特別ノ事由ニ依リ退去時間以前ニ於テ退去セントスルトキハ當該係員ノ承認ヲ受クヘシ

附　則

本則ハ昭和二年一月十五日ヨリ之ヲ施行ス

大正十四年八月十五日告示第九十七號名古屋市共同宿泊所使用條例施行細則ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス



## 公衆食堂規程

大正十四年八月十五日
告示第九十六號

第一條　公衆食堂ニ於テ食事ヲ爲サントスルモノハ所定ノ料金ヲ支拂ヒ食券ヲ購入スヘシ

第二條　食券ノ種類及料金ハ市長之ヲ定メ食堂前見易キ場所ニ掲示ス

第三條　食券ハ食堂内ニ於テ之ヲ發賣ス

第四條　既納ノ料金ハ事由ノ如何ニ拘ラス之ヲ還付セス

第五條　食堂ハ左記時間内開堂ス但シ時宜ニ依リ時限ノ變更又ハ休堂スルコトアルヘシ

定　食　部

朝　食　自午前五時　至午前八時

晝　食　自午前十一時　至午後一時

夕　食　自午後四時　至午後八時

うどん食其他　自午前五時　至午後八時

第六條　食堂掛員ニ於テ他人ニ迷惑トナルノ虞アリト認メタル者ハ入場ヲ謝絶シ又ハ退場ヲ求ムルコトアルヘシ

附　則

本規程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

# 共同宿泊所及公衆食堂處務規程

大正十四年八月十四日
達第五十號

第一條　宿泊事務及公衆食堂ニ關スル事務ヲ處理スル爲メ共同宿泊所ニ事務所ヲ置ク

第二條　共同宿泊所ニ所長一名書記若干名ヲ置ク

第三條　所長ハ主事又ハ書記ヲ以テ之ニ充ツ

所長ハ上司ノ命ヲ承ケ左ノ事務ヲ處理シ所員ヲ指揮監督ス所長事故アルトキハ上席者其ノ職務ヲ代理ス

一、宿泊ニ關スル事項

二、公衆食堂ニ關スル事項

三、所內理髮店ニ關スル事項

四、所內物品販賣店ニ關スル事項

五、所內取締ニ關スル事項

第四條　共同宿泊所事務執行ニ關スル細則ハ別ニ之ヲ定ム

第五條　本規程ニ定ムルモノノ外名古屋市役所處務規程ヲ準用ス

附　則

本規程ハ大正十四年八月十五日ヨリ之ヲ施行ス



# 助産規程

大正十四年十二月十日
告示第百四十四號

第一條　名古屋市助産所ハ本市民ニシテ市長ニ於テ資力乏シキ者ト認メタルモノニ對シ無料助産ニ應スルモノトス

第二條　助産ヲ受ケントスル者ハ口頭又ハ書面ヲ以テ本市助産所ニ申込ムヘシ

第三條　本市助産所ハ當分ノ內妊産婦ノ收容ヲ爲サス

# 助産所處務規程

大正十四年十二月十日
達第七十號

第一條　助産事務ヲ處理スル爲メ主任一名助産婦若干名ヲ置ク主任ハ醫師又ハ助産婦ヲ以テ之ニ充ツ

第二條　主任ハ上司ノ命ヲ承ケ助産ニ關スル事務ヲ處理シ所員ヲ監督ス主任事故アルトキハ上席者其ノ職務ヲ代理ス

第三條　助産所事務執行ニ關スル細則ハ別ニ之ヲ定ム

第四條　本規程ニ定ムルモノ、外本市處務規程ヲ準用ス

附　則

本規程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス



# 助産所助産婦服務心得

大正十四年十二月十日
達第七十一號

第一條　助産婦産家ヨリ申込ヲ受ケタルトキハ直ニ其ノ狀況ヲ調査シ上司ノ指揮ヲ受クヘシ但シ急迫ヲ要スル場合ハ便宜適宜ノ所置ヲナスヘシ

第二條　助産婦ハ何等ノ名義ヲ以テスルモ産家ヨリ金品ヲ受クルコトヲ得ス

第三條　助産婦ハ特ニ左ノ各項ニ注意シ服務スヘキモノトス

一、産家ノ需ニ接シタルトキハ産前産後ニ於ケル姙産婦ノ心得並ニ産兒哺育上ノ注意ニ付指示ヲナスコト

一、産前ハ一ケ月二回以上巡回シ姙婦ノ診察及手當ヲナスコト

一、産後ハ一週間以上毎日巡回シ褥婦及産兒ニ對シ適當ナル處置ヲナスコト

一、異狀出産取扱ニ關シテハ特ニ周到ナル注意ヲ拂ヒ速ニ醫師ノ診療其他適當ナル所置ヲ講スルコト

第四條　助産婦ハ産家ニ關シ聞知シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

# 東山寮規程

大正十五年三月三十日
告示第三十八號

第一條　東山寮ハ市住民ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノヲ入寮セシム
一、獨身者ニシテ老屢、不具及疾病ノ爲メ生計ヲ爲ス能ハサル者
二、獨身者ニ非サルモ疾病其他ノ事故ニ依リ生計ヲ爲ス能ハサル者
三、前各號ノ外市長ニ於テ適當ト認ムル者

第二條　行旅病人、精神病者及其他ノ者ニシテ特ニ費用ノ辨償ヲ受クヘキ者ハ之ヲ入寮セシム

第三條　在寮ノ必要止ミタルトキハ隨時退寮セシム

第四條　在寮ノ親族中扶養ノ義務アル資力者判明シタルトキハ直ニ本人ヲ引取ラシム

第五條　在寮者ニシテ寮則ヲ遵守セサルモノハ退寮セシム

第六條　本規程施行ニ付必要ナル細則ハ別ニ之ヲ定ム



# 東山寮處務規程

大正十五年三月三十日
達第三十四號

第一條　東山寮ニ左ノ職員ヲ置ク

| | |
|---|---|
| 寮長 | 一名 |
| 書記 | 若干名 |
| 醫員 | 若干名 |
| 調劑員 | 若干名 |

前項ノ外雇員看護婦其ノ他ノ事務員ヲ置ク

第二條　寮長ハ主事ヲ以テ之ニ充テ上司ノ命ヲ承ケ寮務ヲ處理シ職員及事務員ヲ指揮監督ス
寮長事故アルトキハ上席書記之ヲ代理ス

第三條　宿直ハ書記、醫員各一名其ノ他寮長ニ於テ必要ト認ムル者ヲシテ之ニ當ラシム

第四條　本規程ニ定メタルモノ、外名古屋市役所處務規程ヲ準用ス

# 第七類　勤業

# 産業奨勵規程

明治四十五年七月三十日
告示第百七號

**第一條**　産業奨勵ノ爲メ本規程ノ定ムル所ニ依リ奨勵金ヲ下附ス但シ時宜ニ依リ奨勵金ノ全部若クハ一部ヲ物品ニ代ヘ下附スルコトアルヘシ

**第二條**　奨勵金ヲ下附スルハ重要物産同業組合法ニ依ル同業組合、同業組合準則ニ依ル組合其他ノ産業團體ニシテ左記各號ノ一ニ該當スルモノトス

一、講習會又ハ講話會等ノ開催
二、店員職工徒弟ノ表彰
三、共進會、品評會、競技會等ノ開催
四、見本品、試驗用品ノ購入

前項ニ該當セサルモノト雖モ特ニ奨勵ノ必要アリト認メタル場合ハ奨勵金ヲ下附スルコトアルヘシ

**第三條**　本規程ニ依リ奨勵金ノ下附ヲ受ケントスル者ハ左ノ調書ヲ添ヘ事業着手一箇月前ニ願出スヘシ

一、第二條第一項第一號乃至第三號ニ在リテハ規則書、經費豫算書
一、第二條第一項第四號及同條第二項ニ在リテハ經費豫算書、目的事業方法書

**第四條**　奨勵金ノ下附ヲ受ケタル者事業ノ方法ヲ變更シ又ハ中止セントスルトキハ其理由ヲ詳記シ承認ヲ受クヘシ

**第五條**　奨勵金ノ下附ヲ受ケタル者ハ事業終了後速ニ事業成績書及經費決算書ヲ作製シ報告スヘシ

**第六條**　奨勵金ノ下附ニハ命令條件ヲ附ス

# 度量衡取締規程

明治四十三年八月十九日
告示第二十五號

第一條　度量衡ノ取締ハ度量衡取締吏員ヲシテ之ニ從事セシム

第二條　度量衡取締吏員ニハ左記樣式ノ證票ヲ携帶セシム

第三條　度量衡取締ハ度量衡器使用ノ場所ニ就キ隨時之ヲ施行ス

三寸

第　號

名古屋市役所印　度量衡取締吏員證

職　氏　名

名古屋市役所

二寸



# 度量衡取締執行手續

明治四十三年八月十八日
市參事會議決

第一條　度量衡取締吏員ハ器物ノ正否ヲ調査シ之レカ指導ヲナシ違犯者ナカラシムルコトニ努ムヘシ

第二條　度量衡器取締ニ際シ差狂又ハ構造ノ異狀其他不正ノ疑アリト認メタルトキハ修覆ヲ命シ又ハ別ニ定ムル命令書ニ依リ指定ノ場所ニ提出セシムヘシ

前項ニ該當スル場合ニハ其結果ヲ調査スヘシ

第三條　度量衡取締吏員ハ每週調査成績書ヲ作成シ市長ニ報告スヘシ

# 名古屋市公設市場規程

大正十五年八月七日告示第九十二號

改正　大正十五年九月二十一日告示第百十一號

第一條　日用生活ノ必需品ヲ市民ニ供給スル爲メ市内ニ公設市場ヲ設置ス其名稱及位置左ノ如シ

名古屋市東公設市場　名古屋市東區七小町七十五番ノ一、二

名古屋市西公設市場　名古屋市西區五條町十七、十八、十九番地ノ一及裏鹽町二丁目六番地ノ四

名古屋市中公設市場　名古屋市中區小林町二番地

名古屋市南公設市場　名古屋市南區熱田東町字夜寒五十番地ノ五

名古屋市築地公設市場　名古屋市南區港本町四丁目二番地

名古屋市大曾根公設市場　名古屋市東區大曾根町一六二ノ八、一六二ノ九、一六五ノ一番地

名古屋市紙漉町公設市場　名古屋市西區紙漉町二丁目一番地及二番地

名古屋市古渡町公設市場　名古屋市中區古渡町三丁目二十七番地

名古屋市内田町公設市場　名古屋市南區熱田内田町九番及九番ノ一

名古屋市白金公設市場　名古屋市中區御器所町字白金十三番ノ一

名古屋市元古井公設市場　名古屋市東區千種町字元古井百八十六番地百八十三番地

市長ハ必要ニ應シ巡回公設市場ヲ設クルコトヲ得

巡回公設市場ハ市内必要ト認ムル場所ニ設置シ順次轉換開場スルモノトス

第二條　公設市場ハ事務所ヲ名古屋市役所ニ置ク

第三條　公設市場ノ開場時間及休日ヲ定ムルコト左ノ如シ但シ時宜ニ依リ開場時間ノ伸縮及臨時休業ヲナスコトアルヘシ

一　開場時間　午前八時ヨリ日沒迄

二　休　日　自一月一日至一月三日　毎月二十一日

第四條　前條開場時間ノ伸縮及臨時休業ノ場合ハ其都度市場内ニ掲示ス

第五條　公設市場ニ於テ取扱フ商品ノ概目左ノ如シ

米雜穀、薪炭、蔬菜、果實、乾物漬物、壜罐詰、味噌、醬油、酢、鹽、鷄卵、鳥獸肉、生乾魚、麺類、砂糖、菓子、其他食料品及荒物、金物、呉服太物、メリヤス、日用雜貨等生活上ノ必需品

第六條　公設市場ハ本市ノ指定シタル生產者製造者卸賣業者仲買業者其他販賣業者ヲシテ一般公衆ニ小賣ヲナサシム

蔬菜果實其他ノ生產者ニシテ依託販賣ヲ希望スルモノニ對シテハ別ニ方法ヲ講スルコトアルヘシ

第七條　公設市場ノ販賣人タラント欲スルモノハ市長ニ願出指定ヲ受クヘシ但シ指定營業期間ハ指定ノ日ヨリ滿一ケ年トス滿期ニ至リ尚繼續營業ヲ希望スル者ハ一ケ月前ニ市長ニ願出許可ヲ受クヘシ

指定營業期間ハ時宜ニヨリ之ヲ伸縮スルコトアルヘシ

指定ヲ受ケタル販賣人中途廢業セントスルトキハ解除ヲ市長ニ願出スヘシ

第八條　指定販賣人ハ指定ヲ受ケタル以外ノ商品ヲ販賣スルコトヲ得ス

第九條　商品ハ指定販賣人ヲシテ一定ノ場所ニ自己ノ出品物ヲ種類毎ニ陳列シ一定ノ單位ヲ定メタル價格札ヲ附シ之ヲ販賣セシム

等級ノ異リタル左種ノ商品ハ必ス各等位ノ商品ヲ取揃ヘ漫リニ取捨スヘカラス

販賣品ノ價格及等級ハ凡テ係員ノ指示ニ從フヘシ

**第十條**　公設市場ノ販賣品ハ特ニ新鮮ナルモノヲ撰ミ不熟腐敗其他衞生上有害ノ虞アル物品ヲ販賣シ又ハ陳列ヲナスコトヲ得ス

炮煮洗滌剝皮等ヲ要セス其儘食用ニ供スル物品ハ覆蓋ヲ設クヘシ

**第十一條**　公設市場ノ販賣品ハ總テ現金取引トシ割引懸賞等ヲナスコトヲ得ス

**第十二條**　公設市場使用料ハ名古屋市公設市場使用料條例及同施行細則ノ定ムル所ニヨル

**第十三條**　公設市場ノ建物又ハ土地ヲ使用セントスル者ハ市長ニ願出許可ヲ受クヘシ

前項ノ許可ヲ受ケタル者ハ其全部又ハ一部ヲ他人ニ使用セシムルコトヲ得ス

建物使用者ニシテ模樣替ヲ爲サントスルトキ又ハ土地使用者ニシテ工作物ヲ建設セントスルトキハ設計書及圖面ヲ添ヘ市長ニ願出許可ヲ受クヘシ

特殊ノ設備ヲ爲サントスルトキ亦同シ指定販賣人建物其他ノ設備ヲ毀損シタルトキハ之ヲ賠償セシム

**第十四條**　指定販賣人廢業又ハ指定解除セラレタルトキ若クハ營業期間滿了シタルトキハ五日以內ニ土地建物又ハ使用物件ヲ原形ニ恢復返還スヘシ

若シ遲延シタルトキハ市長ニ於テ之ヲ執行シ其費用ヲ賠償セシム

**第十五條**　公設市場ノ商品ハ一切本市ニ於テ保管ノ責ニ任セス

**第十六條**　指定販賣人ハ每日所定ノ開場時限迄ニ出場シ閉場後ハ當日ノ賣上金高ヲ種類每ニ計算シ之ヲ係員ニ報告スヘシ

**第十七條**　指定販賣人自ラ販賣ニ從事シ能ハサル者ハ其販賣從事員ノ氏名ヲ屆出市長ノ承認ヲ受クヘシ從事員ノ異動アリタルトキ亦同シ

前項販賣從事員ニシテ不適任ナリト認メタル場合ハ之カ交迭ヲ命スルコトアルヘシ

指定販賣人ハ其代理者カ市場內ニ於テ爲シタル一切ノ行爲ニ付其責ニ任スルモノトス

**第十八條**　指定販賣人ハ定休日ノ外休業スルコトヲ得ス但シ止ムヲ得サル場合ハ豫メ市長ノ承認ヲ受ケ休業スルコトヲ得

**第十九條**　指定販賣人ハ市場內ニ宿泊スルコトヲ得ス

**第二十條**　左ノ場合ニ於テハ販賣ヲ停止若クハ禁止シ又ハ指定ヲ解除スルコトアルヘシ但シ之ニ依リ損害ヲ生スルコトアルモ市ハ其責ニ任セス

一、直接間接ヲ問ハス他人ノ營業ヲ妨害スルカ如キ行爲アリタルトキ

二、市場內販賣人間ノ圓滿ヲ害スルカ如キ行爲アリタルトキ

三、品質ノ粗惡ナルモノ又ハ腐敗シタルモノ其他衞生上有害ノ虞アルモノヲ陳列シ若クハ販賣シタルトキ

四、數量及價格等ヲ詐リ販賣シタルトキ

五、市ノ信用ヲ害シ又ハ不正ノ行爲アリタルトキ

五、賣上報告其他市ニ對スル申告ヲ詐リタルトキ

七、指定後五日以內ニ開業セサルトキ又ハ故ナク五日以上營業ヲ爲サヽリシトキ但シ正當ノ事由アルトキハ此限ニアラス

八、本規程ニ違反シ又ハ係員ノ指揮命令ニ從ハサルトキ